平成30年度全国中学生・高校生防災会議

# 全国防災ジュニアリーダー育成合宿

# 記録集

平成31年
1月11日(金)~13日(日)

国立淡路青少年交流の家
人と防災未来センター
兵庫県立舞子高等学校

National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構

## 目 次　　頁


◆ はじめに・ごあいさつ
◆ 実施要項　1
◆ １．１７メモリアル行事
・全体会　2
・分科会発表「多賀城高校の防災活動の取り組みについて」　宮城県多賀城高等学校　3
・分科会発表「防災への取り組み」　宮城県石巻西高等学校　4
・分科会発表「大崎高校　防災活動支援隊の活動」　東京都立大崎高等学校　5
・分科会発表「真庭高校の取り組み」～防災活動と地域連携～　岡山県立真庭高等学校　6
・分科会発表「須崎工業高校の防災に関する取り組み」　高知県立須崎工業高等学校　7
・分科会発表「歴史と学ぶ防災学習」～地域とつながる東稜高校～　京都府立東稜高等学校　8
・分科会発表「釜石東中学校の防災取り組み」　釜石市立釜石東中学校　9
・分科会発表「3 年間を見通した防災学習」　田辺市立新庄中学校　10
・「1.17 震災メモリアル行事　分科会の発表を見て」　11
◆ 活動レポート（講義・ワークショップ・見学の内容）
・講義①「阪神・淡路大震災を語り継ぐ」　12～13
・WS①「アイスブレイク＋フリートーク」　14～15
・WS②「メモリアルキャンドル作製」　16～17
・WS③④「アクションプラン作成」　18～19
・講義②「災害と向き合う」　20～21
・発表「被災地ボランティア」　22～23
・WS⑤「アクションプラン発表」　24～25
・見学①「人と防災未来センター」　26～27
・見学②「三宮東遊園地」　28
◆ 学校紹介
・宮城県多賀城高等学校　29
・東京都立大崎高等学校　30
・岡山県立真庭高等学校　31
・徳島市津田中学校　32
・新潟県立糸魚川白嶺高等学校　33
・釜石市立釜石東中学校　34
・熊本県立第二高等学校　35
・京都府立東稜高等学校　36
・宮城県石巻西高等学校　37
・田辺市立新庄中学校　38
・熊本県立菊池農業高等学校　39
・和歌山県立熊野高等学校　40
・高知県立須崎工業高等学校　41
・大分県立佐伯鶴城高等学校　42
・兵庫県立舞子高等学校　43
・兵庫県立松陽高等学校　44
・神戸市立神港橘高等学校　45
・兵庫県立尼崎小田高等学校　46
・兵庫県立三木北高等学校　47
・兵庫県立家島高等学校　48
・姫路市立飾磨高等学校　49
・兵庫県立阪神昆陽高等学校　50
・兵庫県立西脇北高等学校　51
・尼崎市立琴ノ浦高等学校　52
・兵庫県立宝塚東高等学校　53
・姫路市立飾磨東中学校　54
・兵庫県立西宮今津高等学校　55
・兵庫県立三田西陵高等学校　56
◆ 感想文　57～70
◆ WS⑤アクションプラン発表　71～75
◆ 合宿風景・参加者　76～78

# はじめに

平成23年に発生した東日本大震災はもとより、平成28年の熊本地震、平成30年には、九州北部豪雨をはじめ、6月の大阪府北部地震、平成30年7月豪雨、台風21号をはじめとする一連の台風、北海道胆振東部地震など我が国は場所を問わず自然災害が起こりやすい特性を有しています。このような自然災害に対応するために、過去の災害から得られた教訓を踏まえ、地域において防災・減災対策に取り組んでいく必要があります。

本事業は、2020年に東京でオリンピック・パラリンピックが開催されることを契機に、阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震や火山噴火、水害などが頻発している我が国における災害やその対策等の現状を世界にアピールするとともに、次代を担う人材の育成、防災意識と社会参画意識のさらなる向上を目指し、これからの防災・減災の担い手である中学生・高校生を中心とした防災会議を４年計画で開催し、防災ジュニアリーダーを育成することを目的としています。

その初年度として、今年度は兵庫県で実施し、次年度は東北・熊本を会場に、2020年のオリンピック・パラリンピックイヤーでは、東京を会場として、海外の被災地中高生を招聘して実施し、さらなる取組の広がりを目指す予定です。

今年度の事業については、平成14年に防災教育を推進する全国ではじめての環境防災科が設置された兵庫県立舞子高等学校と国立淡路青少年交流の家が連携・協力し、これまでの防災に関する取組の成果を活かし、企画・運営を行いました。

１月11日から13日にかけて、全国から防災・減災に取り組む94名の中学生・高校生等が集まり、兵庫県立舞子高等学校で行われた「1.17震災メモリアル行事　阪神・淡路大震災を忘れない～21世紀を担う私たちの使命～」への参加、防災に関する様々な講義やワークショップ、各学校へ帰って実行するためのアクションプランの作成・発表に取り組みました。各学校において、この会議で学んだことを活かして作成したアクションプランに取り組むことで、防災・減災の取組が全国へ広がるとともに、各地域において防災・減災を担う防災ジュニアリーダーが育っていくことを期待しています。

最後に、本事業の実施に当たり、ご支援をいただいた「公益財団法人上廣倫理財団」に深く御礼を申し上げます。

平成３１年３月

国立青少年教育振興機構理事長　　鈴木　みゆき

ごあいさつ

全国防災ジュニアリーダー育成合宿は、若い世代のみなさんが、講義やワークショップを通じて命の大切さについて考え合い、過去の記憶や教訓から、災害時における自助・共助・公助についての学びを深め合う貴重な時と場です。

様々なプログラムの中で、災害に強い家庭やまちづくりなどを考え、ここで学び得たことを未来の減災につなげていくことが、みなさんの使命であると考えます。

開会式では、国立淡路青少年交流の家の大本所長から、「使命とはみなさんの命をどう使うのかという意味合いもある」という深いお言葉をいただきましたが、みなさんの手で作成したアクションプランにそれぞれの思いを乗せて活動していくことを願っています。

今回の合宿では、それぞれが問いを立てて自分事として考え、非常にレベルの高いディスカッションもできていました。「自分の思いを言葉にしてよかった」「人の思いに共感できた」「防災に取り組む仲間ができてよかった」「いろんな意見や考え方があることがわかった」など、今後に向けての意欲が高まり、より一層、防災についての意識が高められたのではないかと推察します。それぞれの学校に戻って、伝え、広げていくには、意欲と意識の高さが何より大切です。仲間と共に、伝え、広げていくことは、楽しい反面、思い通りにならないことも予想されます。そんな時には、この合宿のことを思い出してみて下さい。きっと、豊かな気持ちや力が沸き起こってくると思います。みなさんが、地域の防災リーダーとして信頼には信頼で応える相互信頼社会を創っていくことを願っております。

最後になりましたが、このようなかたちで全国から兵庫の地に集い、それぞれの思いがつながり、内容の濃い合宿ができましたのも、国立淡路青少年交流の家のみなさまのご協力をはじめ、講義やワークショップで講師をしてくださった先生方のおかげであることを忘れてはなりません。

最後に、関係機関、関係教育委員会、参加校の関係者の方々に深く感謝申し上げ、挨拶といたします。

平成３１年３月

兵庫県立舞子高等学校長　　谷川　　彰一

# 平成30年度　全国中学生・高校生防災会議　実施要項
# 「全国防災ジュニアリーダー育成合宿」

**1　目　的**　　2020年に東京でオリンピック・パラリンピックが開催されることを契機に、阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震や火山噴火、水害などが頻発している我が国における災害やその対策等の現状を世界にアピールするとともに、次代を担う人材の育成、防災意識と社会参画意識のさらなる向上を目指し、これからの防災・減災の担い手である中学生・高校生を中心とした防災会議を４年計画で開催する。

その初年度として、今年度は兵庫、次年度は東北・熊本を会場として実施し、2020年のオリンピック・パラリンピックイヤーでは、東京を会場として、海外の被災地中高生を招聘して実施し、さらなる取組の広がりを目指す予定である。

**2　日　時**　平成31年1月11日（金）～　1月13日（日）
（　県外からの参加者は、10日（木）から国立淡路青少年交流の家に宿泊　）

**3　会　場**　兵庫県立舞子高等学校、国立淡路青少年交流の家、人と防災未来センター

**4　主　催**　独立行政法人　国立青少年教育振興機構、国立淡路青少年交流の家、兵庫県立舞子高等学校

**5　特別協力**　公益財団法人上廣倫理財団

**6　後　援**　兵庫県、兵庫県教育委員会

**7　参加者**　生徒　71名、引率教員　23名

**8　参加校**　31校

兵庫県外　岩手県釜石市立釜石東中学校、宮城県多賀城高校、宮城県石巻西高校、東京都立大崎高校、新潟県立糸魚川白嶺高校、京都府立東稜高校、和歌山県立熊野高校、田辺市立新庄中学校、岡山県立真庭高校、高知県立須崎工業高校、徳島市津田中学校、熊本県立菊池農業高校、熊本県立第二高校、大分県立佐伯鶴城高校,

兵庫県内　県立舞子高校、県立西脇北高校、県立尼崎小田高校、県立宝塚東高校、県立阪神昆陽高校、県立松陽高校、県立家島高校、県立三木北高校、県立西宮今津高校、神戸市立神港橘高校、県立三田西陵高校、尼崎市立琴ノ浦高校、姫路市立飾磨高校、姫路市立飾磨東中学校、南あわじ市中学校（三原中学校、南淡中学校、広田中学校）

**9　プログラム**

◆1月10日（木）　　［県外からの参加者］
- 16：00　集合（三宮）、点呼の後出発
- 17：30　到着（国立淡路青少年交流の家）
- 17：30　夕食　　18：30　入浴
- 20：00　交流
- 22：00　就寝

◆1月11日（金）
- 6：30　起床
- 7：15　出発（バスで舞子高校へ移動）
- 8：30　受付　　［県内からの参加者が合流］
- 9：00　震災メモリアル行事
  - 全体会「追悼演奏会」、「講演」
  - 分科会
  - 舞子千人鍋（炊き出し）
- 13：00　出発（バスで国立淡路青少年交流の家へ移動）
- 15：00　開講式・入所式
- 15：30　講義①「阪神・淡路大震災を語り継ぐ」
- 17：00　夕べのつどい　　17：30　夕食　　18：30　入浴
- 19：50　WS①「アイスブレイク＋フリートーク」
- 22：00　就寝

◆1月12日（土）
- 6：30　起床　　6：55　朝のつどい　　7：20　朝食
- 8：50　WS②「メモリアルキャンドル作製」
- 10：40　WS③「アクションプラン作成１」
- 12：15　昼食
- 13：00　講義②「災害と向き合う」
- 14：50　発表「被災地ボランティア」
- 15：20　WS④「アクションプラン作成２」
- 17：00　夕べのつどい　　17：30　夕食
- 18：30　WS⑤「活動報告およびアクションプラン発表」
- 20：30　入浴　　22：00　就寝

◆1月13日（日）
- 6：30　起床　　6：55　朝のつどい　　7：20　朝食
- 8：15　出発
- 9：50　見学①「人と防災未来センター」
- 10：50　東遊園地へ移動
- 11：20　見学②「三宮東遊園地」
- 11：40　閉講式
- 12：00　解散

# １．１７震災メモリアル行事　全体会

## 兵庫県立舞子高等学校

下川真七佳（３年）、山口紗耶香（３年）

**●追悼演奏：Bloom　Works**

【内容について】

Bloom　Works とは、ボイスパーカッションの KAZZ さんとシンガーソングライターの石田裕之さんとで 2017 年 8 月 26 日に人と防災未来センターにて結成され、2018 年から本格的な活動を開始し防災関連イベントに多く出演しているグループです。

KAZZ さんは阪神・淡路大震災を経験しており、災害の恐ろしさや防災の大切さを教えてくださいました。また、石田裕之さんは東日本大震災から毎月一度宮城県石巻市を訪れ、「やっぺす石巻」という復興応援ソングを作り、そのほかにも防災ソングを作るなど、音楽を通じて防災活動を行っており、曲に込めた思いや防災に関連付けた歌詞について詳しくお話してくださいました。兵庫県立大学大学院で防災について学ぶ KAZZ さんと防災士である石田裕之さんのお二人が作り出す音楽はとても魅力的でした。現在は、防災減災をテーマにした音楽フェスを開催することを目標とし活動されており、毎月一回の頻度でワンマンライブを行っています。

【まとめ】

Bloom Works の方々の演奏では、きれいな歌声と迫力のあるギター演奏、ボイスパーカッションが組み合わさり会場内はとても盛り上がっていました。防災士と防災を学ぶ大学院生という組み合わせで、防災や復興の意味が込められた曲や歌詞がとても印象的でした。防災減災をテーマにした音楽フェスを行うことを目標として活動するお二人のように、防災や減災を広める活動を私たちも舞子高校でも行いたいと感じました。普段聞くことのできないお話を聞ける貴重な機会となりました。また機会があれば今回披露してくださった曲以外の曲もお聴きしたいです。

**●講演：佐藤　敏郎**

【内容について】

石巻市立大川小学校では、全校児童中 108 名中、74 名の児童が死亡・行方不明となりました。教員も 10 名がなくなっています。108 名といっても当日には早退・欠席・保護者の引き取りの児童がいたため、最終的に校庭にいたのは 70 数名です。その中で４人だけが助かりました。教員も１人だけ助かりました。

佐藤敏郎先生は震災当時、中学校の国語科教員として宮城県女川第一中学校に勤務されていました。震災後の 2011 年５月、俳句作りの授業を行い、その取り組みは 2016 年度の中学校の教科書にも掲載されました。

先生は震災によって、大川小学校に通っていた小学６年生の次女を亡くされました。2013 年末に「小さな命の意味を考える会」を立ち上げ、現在全国で講演会を行っています。

【まとめ】

今回の１．１７震災メモリアル行事では特に佐藤敏郎先生のお話が印象に残りました。震災後すぐに勤めていた中学校の生徒たちの想いを五七五に込める授業を行ったというお話の中で、書いていくにつれ生徒たちの俳句が悲観的なものから未来への希望を抱く俳句に変わっていったということがとても心に残り、気持ちを言葉に表すということはとても大切なことであるのだと感じました。

# 分科会発表「多賀城高校の防災活動の取り組みについて」

## 宮城県多賀城高等学校

岩佐唯花(１年)

私たちが通う多賀城高校がある多賀城市では、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災による津波で、188 名の方が亡くなる被害を受けました。

その教訓を決して忘れまいと、私たち多賀城高校では、積極的に防災・減災活動を行ってきました。今回の分科会発表では、主にそれらの活動の内容や、活動の意図、活動にあたって苦労したことなどを発表しました。

まず、3 月 11 日に多賀城高校生はどうしていたのかを発表しました。地震が発生してから帰宅許可

されていたことや、歩道橋で一夜を過ごした生徒もいたと話すと、聞いている生徒さんは、親身になって聞いてくれました。

さらに災害科学科についての話では、災害に関する知識を身に付けるために行っている浦戸諸島巡検や、つくば研修についての紹介や、生徒会が行っている、まち歩き活動、全国で災害が起こった際に行う、募金活動についての紹介もしました。

まち歩きは、多賀城市内に来た津波の電柱についている跡に、標識を付け、その標識を当時の被害の様子などの説明を交えてめぐっていくという活動です。この活動に参加したいと、毎年各地から多くの方々が多賀城高校に足を運んでくださいます。昨年は、神戸の高校生はもちろん、自分よりもずっと年上の方々にまち歩きを開催したこともありました。参加していただいた方からは、うれしい感想をいただけることが多く、まち歩きの内容強化の向上につなげています。

また募金活動では、昨年発生した西日本豪雨、大阪北部地震、胆振地震に対しての募金を行いました。主に生徒会のメンバーや希望者を中心に活動を行いました。場所は通勤通学が多い多賀城駅、下馬駅、東塩釜駅で行い、沢山の方々のご協力によってある程度まとまった金額を使ってほしい場所に直接赴き、手渡しすることができました。

このような様々な活動を発表する機会をくださった方々にはとても感謝しています。また私たちはいつかこのような発表をする機会がある場合、被災地の高校生として恥じぬよう、これからも様々な活動をしていきます。

### 【 感想 】

今回の発表を通じて、一番心に残ったことは、ほかの学校も様々な活動を行っているということです。

特に、今後災害が起こる確率が高いといわれている地域では、まだ起こっていないにも関わらず、起こった地域と引けをとらない防災、減災活動を行っていることです。さらに、私たちが気が付かない視点から活動している学校も多く、これからの活動への参考になり、同じ高校生が行っていることということもあり、とても刺激的な時間を過ごすことができました。

また、一度多賀城高校に足を運んでくださった方とまた会うことができました。舞子高校の生徒さんの中には、実際にまち歩きに参加してくださっていた方もいて、発表が終わった後に話しかけてくださった方もいました。

この経験を通じて、段々と東日本大震災のことを深く知ってくださっている方が増えていることを実感することができました。

今年の夏に行われる全国防災ジュニアリーダー育成合宿は、私たちが住む宮城県で行われます。その際には、神戸で経験したことを精一杯生かし、今回以上の合宿だと言っていただけるように頑張りたいと思います。

最後に、今回の合宿に関わっていただいた先生方、舞子高校の生徒の方々、同世代のジュニアリーダーに感謝します。本当にありがとうございました。

# 分科会発表「防災への取り組み」

## 宮城県石巻西高等学校

後藤　亜美（１年）、佐藤　晴菜（１年）

**○防災体験学習と国際交流**

みやぎ防災教育副読本「未来への絆」を使いながら、「なまずの学校」や「ＨＵＧ」などの学習教材による学びや、日本赤十字病院防災チームによる体験など、学年ごとにテーマを決めて３年間でさまざまな知識や技能を身につけます。

**○地域貢献とボランティア活動**

ボランティアに関心のある生徒が「スタッフ」として登録して、防災でも必要な自発的な姿勢を持ちながら活動しています。

・依頼内容と依頼元　　活動延人数：２５４人

防災関係　　14 件（自治体・社会福祉協協議会）
地域密着　　６件（地区自治会・ＮＰＯ）
施設関係　　３件（社会福祉法人・自立支援協会）
自己啓発　　２件（地域活動支援センター）

・昨年度のボランティアスタッフ登録生徒数

１年生　19 人　　２年生　31 人　　３年生　53 人

**○西翔暦（防災カレンダー）作成**

生徒が考えたなかから厳選した防災標語や、防災コラムを載せて毎年作るカレンダーで、各家庭に配布し、家庭の中でも防災と向き合う時間を設けています。

**○異校種間の防災交流**

近隣の小学生・社会人、県外の小学生・中学生・高校生・大学生・社会人と防災交流を通して、防災意識の高揚と伝えることの大切さを体験します。

【 感想 】

他県でこれまで起こった震災の体験や、次の災害に備える取り組みについて共有することができました。「安否札」を地域の人に配ることによって、発災時に、消防・捜索隊が避難したかどうかが分かるようにすることは、地域全体での防災意識定着の取り組みとしてとても参考になりました。

各校の発表で、「冷静になれる人が行動することで、素早い行動やサポートをすることができる」や「伝えるのは学ぶことより大変」という言葉が印象に残りました。震災を通して学んだことを生かし、自分たちで理想像を描き、それに少しでも近づくために努力する姿は、見習わなくてはならないと感じました。

私たちも、発表するにあたって準備をしていくうちに、自分の学校で行われてきた防災活動や、上級生がどのようなことをしていたのか知らなかったので、震災後のさまざまな動きなどを知ったことで、防災の必要性や心得などを学ぶことができました。

調べを通して分かったことを、分科会に参加していただいた舞子高校生徒や他県の皆さんに、本校の取り組みなどをしっかりと伝えることはできたと思います。

# 分科会発表「大崎高校　防災活動支援隊の活動」

## 東京都立大崎高等学校

池島　由樹（１年）、原田　秀馬（１年）

東京都立大崎高等学校は、阪神淡路大震災を教訓に、高校では全国初の「免震構造」となっています。海抜 20m の高さにあり海からも一定の距離を置いていることから、大崎高校は避難所に指定されています。すべての都立高校では避難所になる事を想定し、1 年生が体育館で寝泊まりする「宿泊防災訓練」を実施し、日頃から災害の為に取り組んでいます。

**【防災訓練】**

地域の幅広い年代の方々に AED の使い方や胸骨圧迫の正しい方法を教えています。どのようにすればわかりやすく伝えられるか、部員同士で考え話し合い、地域から頼られる活動を心がけています。

**【ど根性ひまわり】**

東日本大震災の被災地である宮城県石巻市で津波により流されたお店の基礎から伸び始め開花したひまわり。このひまわりの種から生まれたひまわり 8 世を育て、夏には校舎前を綺麗に彩りました。この花が次の世代に繋がり、未来で東日本大震災のことを語るきっかけになり、自然災害への意識をたくさんの人に持ってもらう機会になればと考えています。

**【AED マップの作成】**

私達は、大崎高校付近の公園、銀行、病院、小中学校など AED のある場所を調べ、AED がどこにあるのか一目で分かるマップを作成、配布してきました。これを公共の場に置くことによって地域の方々が緊急時に利用することができればいいなと思っています。また、今後は調査範囲を拡大し、多くの方の目に触れていただくことで、防災意識向上に一役買えたら嬉しいです。

【 感想 】

今回、貴重な合宿の場において自分たちが大崎高校で行っている防災活動を発表させていただきました。そして、「災害と向き合う」ということを改めて考え直しました。連続する地震、台風などの災害によってたくさんの人が亡くなり、日本は災害大国とまで言われています。この日本で生まれ、日本に住んでいる以上、災害からは逃れられないのが現実です。しかし、そうした過去の災害から目を背けなければ、学べることや活かせることは必ずあります。普段、防災活動支援隊の生徒みんながこのような思いを抱いて活動しているのですが、この取り組みをいざ発表するとなるととても緊張しました。しかし、地域の方々に AED の使用方法、胸骨圧迫の仕方を教えていることや、東京都で行われている宿泊防災に関することなどを伝えると、緊張した 12 分はあっという間でした。実は発表する前、各方面から表彰を頂いていることもあって自分たちの活動が一番だと思っていました。しかし、他校の生徒の発表を聞いていく中で、大崎高校には無い素晴らしい取り組みを目の当たりにし、競争することに意味はなく、「共有」するのが一番大事なのではないかと気付きました。全ての発表を聞き終えた後、真っ先に行ったことは他校の取り組みを大崎高校で取り入れることが出来ないか考えることでした。

今後、大崎高校の防災活動支援隊やその他の全校生徒、または地域の方々と一緒になって防災に関して考えていくことで、今回の発表の経験を活かしていきます。

# 分科会発表「真庭高校の取り組み」～防災活動と地域連携～

## 岡山県立真庭高等学校　宮本　妃菜（１年）、阪本　優希（２年）

**○防災活動のきっかけ**

真庭高校では、平成２３年度から 「こちら高校市民課防災係プロジェクト」として、防災活動を中心に地域の中で私たちができることを探究してきました。平成２３年１１月、東日本大震災で被災した東北の地を「お見米プロジェクト」で訪問しました。キャラクターである「こち防くん」は、オオサンショウウオのように、いつもはのんびりと見えていても、 いざというときには素速く、力強く行動できる高校生を目指して生徒が考案しました。

**○県外の学校との交流**

毎年６月、兵庫県立舞子高校の文化祭に合わせて舞子高校を訪問し、生徒さんと交流させていただいています。グループワークやグループディスカッションを通じて防災に関する知識や考え方を学び、地域連携のヒントもいただきました。

**○防災スキルを身につける活動**

こち防委員会メンバー代表が、毎年開催される「岡山県ボランティアリーダー養成研修」に参加しています。８月２７日には、こち防校内リーダー研修会を開催し、ボランティアリーダー養成研修で身につけた防災スキルをこち防委員３０名に伝達しました。

**○地域合同防災訓練（落合校地）**

本校生徒及び職員・落合小学校児童・近隣地域の方々・真庭消防署員合同で防災訓練を実施しました。こち防委員が、バケツリレーや救急搬送、心配蘇生法、ロープワーク、段ボールトイレの制作、土嚢積み、消火訓練、炊き出し訓練など防災スキルを本校生徒・児童・近隣の方々に伝達しました。

**○全国高校生地域防災 Summit 2018 in 幕張メッセ**

１０月１４日、スカイプでの参加になりましたが、本校の防災活動を全国に発信することができました。

**○取り組みを地域に発信**

本校では、「真庭ひとつなぎフォーラム」という公開討論会を毎年１１月に行っています。参加した、本校生徒・教員・保護者・中学生・大学の先生方に、こち防委員代表者２名が、今年度の防災の取り組みを発表しました。

## 【 感想 】

本校が参加した分科会で、他の３校の取り組みを聞いて、それぞれの学校ごとに特色を活かして実践しておられる防災活動・防災学習にとても感銘を受け、新たな発見もあり、大きな学びに繋がりました。その中の発表で聞いた「危険度マップの作成」は、次の研修で行われた「アクションプラン作成」で本校のプランのひとつに揚げました。

私たちの住む岡山県は、「晴れの国おかやま」と言われ、災害が少なく住みやすいと他府県からの移住者も増えていると聞いていました。しかし、昨年夏の西日本豪雨で未曾有の被害を受けました。岡山県内で防災意識が高まっている中、防災のリーダーとしての自覚を持ち、今後も引き続きこのような研修会に積極的に参加し、今まで以上に学校全体で防災活動・減災活動に取り組んで行きたいと思います。

# 分科会発表「須崎工業高校の防災に関する取り組み」

## 高知県立須崎工業高等学校

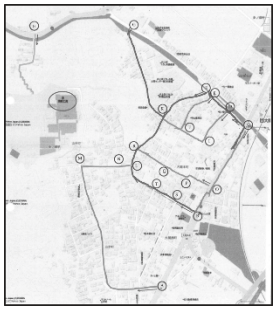
梅木　智哉（１年）、片岡　隼乙（１年）

○　学校の立地と災害時の役割

須崎工業高校は、須崎湾を望む須崎市内の小高い山の中腹に位置しており、海抜４３ｍの高さがありますが、須崎湾からは直線距離で５７０ｍしか離れていません。学校の下にある地域は、津波による浸水が想定される区域となっています。また、本校は高台にあるため、学校が避難所に指定されています。

○　通学路危険個所調査

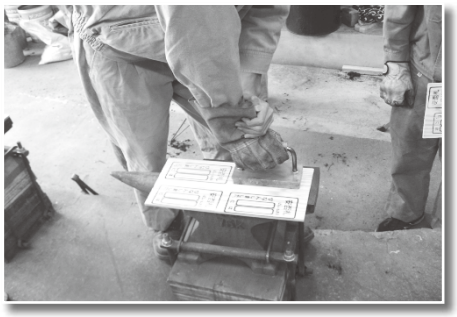
私たちが普段通っている学校までの通学路は、災害時には避難道として利用されます。まずは生徒達がどの道を使って学校に通っているのか、通学路に危険な場所がないかを知るために、通学路調査を実施しました。



日によって利用する道路が違う生徒もいて、通学経路が特定しにくいことが分かりました。アンケートをもとに、危険個所の調査を全校生徒と教職員が参加して行いました。各クラスが割り当てられた区間を担当し、道路の幅や、倒壊の恐れのある建物をチェックし、津波がやってくる方向を想定しながら、調査を行いました。調査の結果、今まで気が付かなかった危険性を知ることできました。また、この調査のあと、実際に改修工事が行われた場所もあり、道路の整備が進むきっかけにもなり、生徒たちの防災意識の向上につながったと思います。

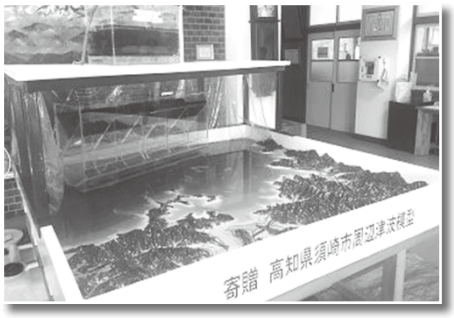
○　防災ものづくり①

焼印を使って安否札を製作することにしました。焼印の材料には、厚さ25mmの真ちゅうの板を使用しました。作り方は、まず安否札のデザインをパソコンで描き、そのデータから加工プログラムを作成、マシニングセンタという機械で焼印の表面を加工しました。加工した真ちゅうの板に取手を取り付けて完成です。一度焼いた焼印は温度が下がるまで繰り返し使用できますので、大量の安否札を製作することができます。



○　防災ものづくり②

岩手県の宮古工業高校が製作し、須崎工業高校へ寄贈していただいた須崎市周辺津波模型に、津波を発生させるための装置を製作しました。流す水の量を調整することで、津波の規模を変えることができます。



# 分科会発表「歴史と学ぶ防災活動」～地域とつながる東稜高校～

## 京都府立東稜高等学校

平井　真嘉（２年）、岡井　瑞希（１年）

### 平成３０年度よりスタート！
### キャリアコースライフマネジメントクラス

本校が地域の避難所に指定されていること、また、生徒会を中心にボランティア活動が盛んであることを背景とし、私たちの街のリーダーを育成することを目的とし、キャリアコースライフマネジメントクラスが立ち上がりました。地歴公民・理科の分野を中心に、環境・公共・防災をテーマにこのクラスでは週に４時間の学校設定科目を設けて、災害のメカニズムや課題学習、グループ発表などを中心に、より多くの知識を深めています。

全国でも、多くの学校が防災教育に取り組む中で、京都にある本校で何か特色のある取組は出来ないだろうかと考えた結果、「京都の文化財を災害から守る取組」を今年度のテーマとして学習することとしました。学習にあたっては、教王護国寺(東寺)、京都府教育委員会文化財保護課、京都橘大学等に協力を賜り、自分たちの街の文化財に関心をもち、防災意識を高めるきっかけとなりました。

**◎１学期の取組**

〈京都の世界遺産プレゼンテーションコンテスト〉

各グループに分かれてプレゼンテーションのスキルアップを目的に世界遺産のプレゼンテーションを行いました。ここでは、自分たちの街の文化財に関心を持つことからはじめます。災害が起きた際に、その文化財にどれだけの価値があるのかを学ぶことが出来ました。

**◎２学期の取組**　〈文化財保護学習〉

京都橘大学文学部歴史遺産学科の村上教授のご指導の下、文化財がどのように災害から守られているか、地域がどのように関わっているか、どのような訓練が実施されているかなどの学習を深めた後、実際に東寺の大師堂の改修工事の現場を視察し、古い素材を残した状態で、災害にも負けないような補強を行う工夫を実際に宮大工さんの作業を見て学びました。

**◎３学期の取組**　〈方丈記から学ぶ京都の災害〉

鴨長明は、本校のすぐ近くの日野という地域で方丈記を著しました。ここには、京都でおきた地震、火事、辻風などの自然災害が克明に記されています。私たちは、今の自分たちの街を照らし合わせて昔と今の被害の状況の違いについて理解を深めます。

【 感想 】

東稜高校が行っている防災教育の取組について発表することが出来ました。私たちは京都という地域性や世界遺産を近隣にもつ立地を活かし、歴史防災と文化財の保護についての発表を行いました。実際に、自分たちが見学した教王護国寺(東寺)の改修工事の現場の写真を紹介しながら説明を行いました。その中で、文化財を保護することの難しさや、地域を挙げて災害から文化財を守ることの必要性など、自分たちが学び大切にしていかなければならないことを伝えることが出来ました。

他校の発表では、自分たちが今後取り組んでいきたい活動が多くありました。石巻西高校は、積極的にボランティア活動をされていることが印象に残りました。自分たちのクラスは、あまりボランティア活動ができていないので、募金など出来ることからはじめていきたいと感じました。須崎工業高校は、南海トラフの対策を十分に取り組まれていると感じました。全校生徒、教員の皆さんで危険箇所を確認したり、地域の方に安否札を配布する活動をされていることは、地域全体の防災意識を高めていると感じました。大崎高校では、地域の方や小学生などに救急救命や応急処置を伝える活動が印象に残っています。小学生にも解りやすく伝えるための工夫もされていて、私たちも学ぶ必要があると感じました。

共通することは、自分たちの学校の地域とつながる活動であるということでした。いつ、どこでおこるか解らない災害に対して、共助の考えを持つことが大切で、私たちももっと地域と関わる活動を企画していきたいと考えました。

# 分科会発表「釜石東中学校の防災取り組み」

## 釜石市立釜石東中学校

佐々木　愛佳（２年）、佐々木　心響（２年）

釜石東中学校では、震災の教訓から『助けられる人から助ける人へ』を目標に取り組んできました。東日本大震災のとき釜石東中学校では、小学生の手を取って一緒に高台に避難したことが、語り継がれています。日頃の防災訓練の成果と、想定にとらわれず率先して行動することができたからです。

現在行っている取り組みを紹介します。

１つ目の取り組みは「避難所開設訓練」です。私たちの釜石東中学校は地域の避難場所になっています。そのため、非常時には中学生が避難所の運営に携わること想定されています。体を動かして避難所を運営できるのは私たち中学生です。そのための訓練を行っています。１年生は、炊き出しの訓練を行いました。また、仮設トイレの設営訓練を行い、手順を確認しました。２年生は、避難者の誘導訓練を行いました。地域住民、幼児、外国人、負傷者や車いすの方の誘導訓練を行いました。また、キャップハンディ体験として、目の不自由な方や肢体不自由者の気持ちを体験し、その人たちが避難してきたときの対応も考えました。さらに土砂災害を想定した土嚢の作り方や配置の方法などの技術を学びました。３年生は、避難所運営訓練で名簿作成や受付をしたり、避難所の仕切りを作ったり、避難者への食事の支給の方法を学んだりしました。また、救急救命法や搬送法を学びました。この訓練の他にも地域の方々が避難所に逃げる時に分かりやすくするために、避難看板づくりをしたり、小中合同下校時避難訓練を行ったりしています。

２つ目の取り組みは「他の学校との交流」です。毎年、私たちは様々な学校と交流しながら、東日本大震災の体験を発信し、風化させないことと、そこでの教訓を伝えていきたいと思って活動しています。

３つ目の取り組みは、「教訓として後世に伝えていく活動」です。２年生ではクロスロードゲームを授業で体験しました。クロスロードゲームは阪神・淡路大震災の出来事を今後の防災教育に役立てようと制作されたものです。私たちも、それを東日本大震災の出来事にもとづいて、考えを深めました。

以上が釜石東中学校の主な取り組みです。

また、私たちの学校には避難３原則があります。

① 想定にとらわれるな
② 置かれた状況で最善を尽くせ
③ 率先避難者となれ

そして「助けられる人から助ける人へ」

これらは、防災学習をする上での最も基本となる原則です。

【 感想 】

自分たちの発表を振り返り、釜石東中学校の防災への取り組みについて改めて考えることができました。学校が避難所に指定されている中、私たち中学生が中心となって行動しなければなりません。避難訓練や避難所開設訓練では、自覚を持ちながら活動しています。

私たちの住んでいる地域には「津波てんでんこ」という言葉があります。「てんでんこ」とは、東北地方の方言で「各々」とか「それぞれ」という意味で、「津波がきたら、家族や他人に構わずに避難しろ」といわれてきました。自分が助かるために家族を見捨てるという意味ではなく、代々続いてきた命を絶やすことなく後世につなぐことを意味しています。私たちの避難のもととなる言葉です。

今年、ラグビーワールドカップが釜石鵜住居復興スタジアムで行われます。このスタジアムは、東日本大震災時に津波によって浸水した釜石東中学校・鵜住居小学校の跡地に建てられたスタジアムです。私たちが通うはずだった校舎の跡地に建ったスタジアムが釜石や岩手の復興の象徴となることを願います。

まだ仮設住宅に住んでいたり、町も工事をたくさんしていたりと復興の途中ですが、釜石は復興に向け前に進んでいます。私たちも復興のために貢献していきたいと考えています。

# 分科会発表「３年間を見通した防災学習」

## 田辺市立新庄中学校

谷本　真輝斗（２年）、成田　圭吾（２年）

私たちの住む和歌山県田辺市の新庄地域では、過去に何度も津波の被害を受けてきました。その歴史から、新庄中学校では、再び同じような犠牲を出さないようにするため、防災意識を高めるために、３年間を見通した防災学習を行っています。

１年生では地域の産業、伝統、自然の良さを調べ発表します。今年度は「地質」「杜氏唄」「漁業」「自然」「良さ」の５つのグループに分かれ、地域の方と関わりながら学習しました。地域をよく知ることで、自分たちの住む町を守りたい、大切にしたいという思いが強くなり、その思いが防災意識へとつながると考えます。

２年生では、防災劇に取り組みます。今年度は、３年前に上演した劇をもとに「Message2018～震災を語り継ぐ～」を披露しました。南海トラフ地震が発生し、新庄地区に１０メートルの津波が押し寄せたという設定のもと、さまざまなものを奪った災害に人々が向き合っていく姿を表しました。

そして３年生では、本校の伝統である新庄地震学に取り組みます。今年度のテーマは「ファーストアクションⅡ～escape　逃げ切る～」。各教科班に分かれ、テーマに沿った内容を考え、学習しました。

各班の取り組みを紹介します。国語班は防災標語の募集と審査、社会班は地域ごとの防災カルテ作りに取り組み、理科・数学班は建物の減災の方法を科学的に考えました。外国語班は避難所で使えるイラスト入りビブスや外国語の防災パンフレットを作り、音楽班は歌やダンスで防災を呼びかけ、美術班は新庄のシンボルになり、災害時にも役立つアート作品を考案しました。家庭班は防災啓発 mini アニメ「エスケイプ」の製作、技術班は福祉施設を訪問し避難用具を作成、配布しました。保健・体育班は体育大会の防災種目を考案、実施しました。学習した内容は、新庄地震学発表会で生徒や地域の方々に報告し、共有します。また学習内容を載せた防災カレンダーも全家庭と地域に配布しています。

学校全体の取り組みとしては、年に数回の避難訓練があります。授業時の訓練のほか、登校時の訓練も行います。登校時訓練の際には、地震学の理数班が調べたデータをもとに、校内のロッカーなどの安全性も確かめました。

また今年度は、田辺市の防災まちづくり課が津波浸水危険地域の町内会を対象に、防災ワークショップを開催しました。この会議に、本校の生徒の代表も、地域住民の一人として参加し、フィールドワークや防災マップ作りをしました。

【 感想 】

分科会で発表し、自校で行っている取り組みを他の学校の人たちに知ってもらえたのでとてもよかったです。

また、他校の取り組みについても知ることができました。多賀城高校には「防災委員」がいて、小学生に防災について教える活動を行っていました。防災について考えを深める会である「防災キャンプ」、津波の高さを示す「津波波高標識」の設置は、震災の教訓を伝えるうえでとても大切なことだと思いました。

真庭高校には「こちら高校市民課防災係」通称「こち防」と呼ばれるボランティアグループがあるそうです。３０人ほどのメンバーで活動しており、防災について学び、ボランティアリーダーの育成を目的に活動しているとのことでした。

釜石東中学校では「避難所開設訓練」をしていました。この訓練は、実際に避難所になったときにとても必要なことだと思いました。訓練しているかどうかで、その時の判断力や行動力が変わってくると思うからです。釜石東中学校の取り組みは、南海トラフ地震がくるとされている僕たちの地域にも必要なことだと感じました。

各校の取り組みを聞き、自分の学校でも取り組んでみたいことや勉強になる話がたくさんありました。特に高校生の発表は、分かりやすくまとめられており、話し方も含めて、見習いたいところが多くありました。

分科会は、発表しているときも聞いているときも、本当に貴重な経験になりました。

# １．１７震災メモリアル行事　分科会の発表を見て

宮城県多賀城高校　釜石市立釜石東中学校　田辺市立新庄中学校　岡山県立真庭高校
宮城県石巻西高校　高知県立須崎工業高校　東京都立大崎高校　　京都府立東稜高校

| 兵庫県立舞子高等学校 | 先間　直樹（２年） |
|---|---|
| 【ココに着目】<br>〈宮城県多賀城高校〉<br>・全国で２例目となる防災を専門的に学ぶ「災害科学科」を設置。<br>・防災キャンプの実施<br>・自治体連携(共催事業など)<br>・津波波高標識設置活動<br>・東日本大震災メモリアルday<br>〈岡山県立真庭高校〉<br>・「こち防」＝「こちら高校市民課防災係」<br>・平成２３年　お見米プロジェクト<br>・地域合同防災訓練の実施<br>〈釜石市立釜石東中学校〉<br>・非常時を想定した訓練<br>・他校との交流やクロスロード<br>〈田辺市立新庄中学校〉<br>・三年間を通した防災教育(地域学習、防災劇など)<br>・田辺市が主催する避難訓練への参加 | 【まとめ】<br>各学校で地域を巻き込みながら防災活動を行っているところが多く参考になった。特に宮城県の多賀城高校が発表していた防災キャンプがとてもいいと思った。小中学生と一緒に防災合宿を行うことで、災害の恐怖や命の大切さなどを深く、そしてわかりやすく教えることができるとともに教えられる側の思い出にも残りやすいキャンプを行うことは良いと思った。<br>また、釜石東中学校の学年ごとに役割を分担して行う非常時を想定した訓練も、1年生が炊き出し訓練や仮設トイレの設置準備、２年生が避難者の誘導訓練やハンディキャップ体験、３年生で避難所運営の体験を行うなど、中学生でこれだけ大規模な防災訓練をしていると知り僕たち高校生も負けてられないなと思った。<br>分科会の発表をしていただいた４校は、とても防災への取り組みや意識が高く、僕にとってとても良い刺激になったので、地域の防災力を上げるための活動に取り組んでいきたい。 |

| 兵庫県立舞子高等学校 | 藤原　優希（２年） |
|---|---|
| 【ココに着目】<br>〈宮城県石巻西高校〉<br>・一年生：自助　防災カレンダー「西翔暦」<br>・二年生：共助　新聞スリッパ<br>・三年生：公助　避難所運営ゲーム<br>〈高知県立須崎工業高校〉<br>・通学危険箇所調査<br>　避難道や危険がないか調べる<br>　例えば、道路の側溝や緊急時の道路<br>・安否札　「避難した」事を伝える<br>〈東京都立大崎高校〉<br>・防災活動支援隊<br>・防災体験フェアや募金活動<br>・宿泊防災訓練(一年生)<br>・「ど根性ひまわり」<br>〈京都府立東稜高校〉<br>・世界遺産の文化財の保護の方法<br>・伝統的な建物の作り方等の勉強<br>・救急救命体験<br>・避難所運営ゲーム「HUG」 | 【まとめ】<br>宮城県石巻西高校の防災活動では、一・二・三学年で「自助・共助・公助」について考える。一年生は「西翔暦」という防災カレンダーを作成し、生徒や保護者や地域の方々に配布し、災害に備える活動を行っています。<br>高知県立須崎工業高校では、ものづくりで防災に備える活動をしています。例えば、通学危険箇所調査や安否札等です。生徒の防災意識の向上を目的とし、これからも工業の強みを生かして、地域に頼られる存在になりたいと言っていました。<br>東京都立大崎高校では、防災活動支援隊を中心とし、防災体験フェアや募金活動や宿泊防災訓練等の防災活動を行っています。<br>京都府立東稜高校では、地域の特徴を生かして、世界遺産の文化財の保護の方法や伝統的な建物の作り方等の勉強を行っています。京都のことをよく知り、京都の災害を知り、これから起こりうる災害に備えています。 |

# 講義①「阪神・淡路大震災を語り継ぐ」

兵庫県立舞子高等学校　　谷川　彰一　校長

## 宮城県多賀城高等学校

宇佐美　直輝（２年）、小竹　叶多（１年）
岩佐　唯花（１年）、　箭子　優羽（１年）

【ココに着目】

阪神淡路大震災を私たちは経験していませんので実際に被災した方の経験をもとに理解を深めるというのが重要な点だったのではないかと思います。

資料にはそれぞれ違った場所での被災状況や被災者の様子、ボランティアの活動などがインタビューされた方々の言葉のまま記されてあり、その当時の状況が手に取るようにわかりました。そのうちのＡさんは「まず命を守ること、命を守ることが出来れば、日本の場合、一週間以内で必ず食料や物資が届くので助かる可能性が高い。」ということを仰っていました。この事実を私たちは知りませんでした。

このように、実際に経験されたことから、新しい知識として取り入れ、さらにそれを全国の合宿メンバーと共に「この人はこれについてこういう風に思っているのだな。」という具合に共有し合う事で、新たな発見や、相手に分かりやすく伝える技術を身につけることが出来ました。

【まとめ】

今回の学習は、資料が長すぎた気がしました。全国から防災についていろいろな視点や考えを持った中高生が集っているにも関わらず、話し合いの時間がやや短く感じました。

今回の活動は基本的な知識の吸収には有効だと思います。しかし、今回集まった学校はある程度の知識や経験の備わった人同士でやるので、今回の場合は資料なしですぐ話し合った方がいいのではないかという風に思います。

そうすることで、活動により様々な知識を集め、それをまとめるという力を培う事が出来たと思います。本校では、あの資料を短く抜粋することで読みやすくし、話し合い活動をしたいと思います。

この活動を行うことで、もっと災害に関する技術や考え方を培っていきます。

## 兵庫県立尼崎小田高等学校

青田愛花（２年）、藤澤奏音（２年）

【ココに着目】

○阪神・淡路大震災の教訓から次に活かすことはなにか。

・自分が住む周辺の地域でコミュニティを築いておくこと。
・家具の設置の強化をする。
・避難所で困っている人の精神面の配慮をする。話を聞く。
・子どもと遊ぶ。
・災害を知らない世代へ知らない世代が語り継ぐこと。
・阪神・淡路大震災はボランティア元年。
・復旧とは元通りに戻すこと。復興とは元より強い状態によりよくすること。
・災害に備えて、自分で自分を守るための行動をとる、周りの人にも声をかける。
・エキスパート活動→ジグソー活動
　これら自分で考えたもの＋他校の生徒が考えたもの２つを話し合う。

【まとめ】

この講義が、初めて他校との交流する場でした。私たちのところで出た意見で印象に残っていたものは「子どもと遊ぶ」というものです。子どもと遊ぶことによって、周囲にいる大人の笑顔も増えます。そうすることで、精神的に落ち込むことが減り、笑顔の輪を築くことができます。

そして、地震についての知識を理解しておくことで、すぐに津波が来るのか来ないのかと言った判断ができ、対応に活用出来ます。

## 講義①「阪神・淡路大震災を語り継ぐ」

兵庫県立舞子高等学校　　谷川　彰一　校長

| 姫路市立飾磨東中学校 | 下口　凜（２年）、髙見　瑠偲那　（２年）、<br>藤本　真胡　（２年） |
|---|---|
| 【ココに着目】<br>この講義で最も重要だと思う点は４つあります。<br>①「数秒の大切さ。」<br>②「震災を知らない世代が、知らない世代に語り継ぐ。」<br>③「想定を信じず、最善を尽くし、率先避難者となる。」<br>④「知識の重要さ。」<br>この４点を選んだ理由を、次のまとめで書きたいと思います。<br><br>【まとめ】<br>①・・・数秒があれば、自分の身を自分で守れ、周りにも声をかけられる。避難訓練の時に、１秒の大切さを知れるような学習をして、実際に災害が起きた時に、その大切な１秒で、自分にも周りにも気を配ることができると思ったから。<br>②・・・震災を知らない人達に防災についての多くの知識を知ってもらうことは、災害が起きた時にきっと、自分や周りの人を救う鍵となると思います。 | このように、私達が前に立って今までやってきた文化発表会や出前授業での発表を続けることで、震災を知らない人が震災を知らない人に伝えられるように、貢献していきたいと思い、このポイントを選びました。<br>③・・・「想定を信じない」これは、私達が出前授業をして、広めることができます。<br>そして、「最善を尽くせ」「率先避難者になれ」というのは、ハザードマップ等の作成で呼びかけることができると思います。正しい逃げ道を知っておくことで、最善を尽くすことも、率先避難者となることもできるはずです。そこで私たちはハザードマップを作成し、これを呼び掛けようと思っています。皆に正しい逃げ道を知ってもらうことで、被害の減少につなげることもできると思います。<br>以上の理由でこの単元が重要であると思います。<br>④・・・防災への知識があれば、震災の時に正しい判断で多くの人を避難させたり、救助したりすることができる。これが、防災では最大のポイントであると思いました。 |

# ＷＳ①「アイスブレイク＋フリートーク」

国立淡路青少年交流の家　職員

## 熊本県立菊池農業高等学校

宮川　詠梨茄（３年）、宮川　莉梨茄（３年）

【ココに着目】

この合宿では全国から中学生、高校生が集まり、様々な活動を通して防災について学びました。その中でもアイスブレイクは初対面の参加者同士の交流を深めることが出来る活動でした。初めは私も皆も緊張していましたが、活動を進めるうちに、徐々に話が弾みとても有意義な時間となりました。

この合宿でたくさんの人と話し打ち解けることができ、また、それぞれの学校の防災に関する取り組み等も聞くことができ、とても勉強になりました。

高校生がこんなことまでするのか?!というような本当に素晴らしい活動ばかりで感銘を受けました。

フリートークのときも、それぞれの地域で起きた災害について理解し、対策などについて自分の思いを熱く語っていました。どの参加生徒も意識が高く、たいへん刺激を受け、私も「もっと知りたい」「もっと勉強したい」と熱意が湧いてきました。

【まとめ】

アイスブレイクを通して自分から積極的に話せるようになりました。自分から進んで意見を言い、相手の話を聞き、活動をしていく中で、リーダー性を身に付けることができました。

フリートークの中では、自分と違う考え方や意見を聞くことができ、面白かったですし、新しい価値観を持つことができました。自分の思いを伝えること、また、周りの人の意見を聞くことがとても大切だと感じました。先輩後輩、男女関係なく楽しく会話することができ、とても充実した時間でした。全国に同じ目標をもって活動してゆく仲間ができたと感じた瞬間でした。

今回参加したジュニアリーダー達の住む地域はそれぞれ違いとても離れています。今後再会する機会があれば、それぞれの地域の事や防災、減災について、もっとたくさん話し合いたいです。

## 兵庫県立宝塚東高等学校

三村　暉（２年）、久保　春香（１年）

【ココに着目】

アイスブレイクとは…

初対面の人同士が出会うとき、その緊張をほぐすための手法。今回は自己紹介と防災に関することを話し合いました。

＜流れ＞

１．グループ分け（４～６人）
２．自己紹介
　学校名
　名前
　好きなおにぎりの具
　地元のおすすめやいいところ
３．防災に関することで自分が話したい事を２つ
　決めて紙に書く
４．同じ事を書いた人でグループをつくり、話し合う

【まとめ】

自己紹介で高校名や名前を言うことは多いけど好きなおにぎりの具の話をすることで、緊張がほぐれてリラックスして交流ができました。

また、全国から集まっているので地元のおすすめやいいところをきくのが楽しかったです。

防災に関する話し合いでは、「津波」や「地震」などのワードが多く、なぜそのワードにしたか、そのワードについて知りたいことなどを話して、多くの人の意見が聞け、みんなの防災に対する想いを知ることができたので、とても充実した交流ができました。

## WS①「アイスブレイク＋フリートーク」

国立淡路青少年交流の家　職員

| 高知県立須崎工業高等学校 | 梅木　智哉（２年）、片岡　隼乙（２年） |
|---|---|
| 【ココに着目】<br>初めは緊張したものの、アイスブレイク＋フリートークを通して、緊張感が解けたと思います。周りの生徒の皆さんも気軽に話しかけてくれたので、とても楽しい時間を過ごすことができました。<br>このアイスブレイクを通して、各学校の防災に関するいろいろな話を聞くことができ、たくさんの意見交換ができたので、多くのことを学ぶことができました。とても充実した交流ができたと思います。また、各学校の防災意識の高さにとても驚かされました。<br>フリートークでは、防災に関すること以外の話をする時間もあったので、楽しくとても有意義な時間を過ごすことができました。<br>このＷＳを通して各学校が行っている、いろいろな取り組みを知ることができ、とても勉強になりました。今後は須崎工業でもできそうなことは、積極的に取り入れていきたいと思います。 | 【まとめ】<br>このＷＳを通して、自分たちの学校にいるだけでは聞くことができない話を、たくさん聞くことができてとても勉強になりました。<br>フリートークでは、自分から積極的に話をしていくことを心掛けて活動し、とても楽しい時間を過ごすことができました。防災に関する各学校の特徴や長所を生かした取り組みなど、とても参考になりました。<br>私たちの学校は、南海地震で大きな被害がでることが想定されている須崎市にあります。この合宿で学んだことを学校や地域の人達に伝え、ひとりでも多くの人達に防災に対して関心を持ってもらい、いっしょに防災のことを考えていきたいと思います。 |

# WS②「メモリアルキャンドル作製」

神戸市立神港橘高等学校　　堀江　俊志　教諭

## 東京都立大崎高等学校

池島　由樹（１年）、原田　秀馬（１年）

【ココに着目】

私たちは12日（土）の午前中に２つ目のワークショップとしてメモリアルキャンドルを作製しました。担当の堀江俊志先生に作り方を教えて頂きながら、１つ１つの作業をこなしていきました。

今年は例年までの単色（ピンク、水色、黄色の中から１つ）という制限がなく、好きな色を混ぜてキャンドルを作れたので、私は思いきって３色すべてを使って作りました。堀江先生からは３色混ぜると綺麗な色にならないことが多いと言われたのですが、私はうまく綺麗な色に作ることが出来たと思います。また、作り方と平行して、キャンドルで使う蝋の溶ける温度や最初に色が付いていない蝋を入れる理由をクイズ形式で教えて頂きました。そのなかでも蝋の溶ける温度が、47～69℃と思っていたより低い温度ということが意外でした。

今回のキャンドル作りは非常に楽しみながら、色の使い方や蝋の溶かし方など、それぞれの個性が表れたキャンドルを作る事ができ、このジュニアリーダー育成合宿の思い出として、こうやって物に残す事が出来てよかったです。

【まとめ】

私は、このキャンドルを作る時に割っていない割りばしとハサミが必要と聞き、どのようなキャンドルが出来上がるのか、心配でありながらも楽しみでもありました。しかし、作り始めてから時間が経つにつれ、その心配もなくなり、楽しさに変わっていきました。作り方も思っていたよりも簡単で、周りの人たちとも楽しく喋りながら作れたのでとても楽しい時間を過ごす事が出来ました。

また、紙コップに切れ目を入れて剥がす時、キャンドルがどのような仕上がりになっているか、とてもわくわくしました。実際に切って見ると私は少し蝋が溶けきれていなかったので、そこが少し残念でした。

実際に作ってみて、材料があれば比較的簡単に作ることができ、尚且つ保存することも出来る事が分かりました。災害時に懐中電灯だけではなく、こうしたキャンドルをつけることで心を癒すことも出来ると思います。そのため、実際に家で作ってみて、いろいろな所でキャンドルを使っていきたいと思います。

## 兵庫県立阪神昆陽高等学校

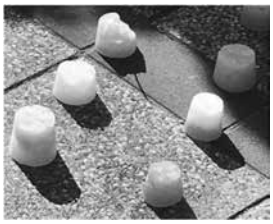
積　萌望（２年）、重谷　大輝（２年）

【ココに着目】

「難問!!　キャンドルクイズ」

WS②はメモリアルキャンドル作製でした。作り方は簡単で、

①色の着いたロウをアイロンで溶かす
②溶かしたロウを小さい紙コップに移す
③冷えて固まるのを待つ
これだけで作製できます。



ロウが固まる時間を利用して先生がキャンドルに関する問題を出してくれました。

まずは「ロウの融点は何度か？」という問題です。私は今回で2回目の参加で、前回もキャンドルを作製したのですが、まったく思い出せませんでした。周りの多くの人は答え(約60度)を知っていたので、少し恥ずかしかったです。

【まとめ】

次は「キャンドル作成時に白い粒を入れたが、それは何のためか？」という問題です。

これはなかなかの難問で、色々答えを予想しましたが、一問も正解することはできませんでした。

なぜ白い粒を入れるのかというと、

①模様をつけるため
②ロウがもれてこないようにするため
③固まる時間を短縮するため
④着色したロウは煙が多く出るので、それを抑えるため

以上の4つの効果が得られます。この白い粒こそがキャンドル作製成功の鍵を握っていたのです。

最終日に、完成したメモリアルキャンドルを東遊園地に持っていき、「1・17」の形に配置し、黙祷を捧げました。

# WS②「メモリアルキャンドル作製」

神戸市立神港橘高等学校　　堀江　俊志　教諭

| 熊本県立第二高等学校 | 坂本　七輝（２年）、小山　大貴（２年） |
|---|---|
| 【ココに着目】<br>私たちは、合宿２日目に最終日の追悼式で使用するメモリアルキャンドルを作成しました。堀江先生のご指導で上手に作り上げることができました。<br>〈作り方〉<br>①紙コップの底の中心にシャープペンシル（竹串）で小さな穴をあけます。<br>②①であけた穴にキャンドルの芯となる紐を通します。<br>③紐を通したところから流し込んだ蝋が漏れないよう養生テープで穴をふさぎます。<br>④紐を割り箸ではさみ紙コップの上で固定します。<br>⑤真っ白い蝋の塊を紙コップの半分までいれます。<br>⑥色のついた蝋を低温のアイロンで溶かしながら紙コップの中に上１cmほどあけ注ぎ込みます。<br>⑦固まるまで待ちますが、固まってもキャンドルが冷たくなるまで紙コップから外しません。<br>⑧最後に、割り箸・養生テープ・紙コップをとります。そして、余分な紐を切ります。<br>これでキャンドルの完成です！ | 【まとめ】<br>今年は単色ではなく、複数の色でキャンドルをつくることができ、カラフルな個性あふれるメモリアルキャンドルになりました。<br>私は、初めてのキャンドル作りで綺麗に作れるか不安でしたが少ない材料で、失敗しないように１つ１つの作業を慎重に行うことを心掛けました。色のついた蝋を入れてから紙コップを外すまで中がどうなっているのかわからず心配になりながらも、わくわくした気持ちで蝋が固まるのを待ちました。紙コップを外すと想像以上のキャンドルができていました。みんなで教え合いながら作れてとても楽しかったです。<br>最終日には、三宮東遊園地での追悼式でみんなのキャンドルを並べました。1.17の文字に並べたキャンドルは色鮮やかでした。災害の夜は、街もみんなの心も沈んで暗くなってしまうので、私たちが作ったキャンドルが私たちの街、そして心まで温かい灯りで照らしてくれることを願います。 |

# WS③④「アクションプラン作成」

兵庫県立舞子高等学校　　和田　茂・太井　義真　教諭

## 岡山県立真庭高等学校

阪本　優希（２年）、宮本　妃菜（１年）

【ココに着目】

１　アクションプラン作成の４つの基本原則について説明を受ける
　①できること　　②必ずすること
　③１年以内　　④学校別

２　各学校の防災活動への取り組みを聞き、情報収集をする。（班を変えて２回）
　・班を作るにあたって、様々な制限がかかる中、声を掛け合いながら班を構成した。
　・意見交換会では、各学校での防災活動を聞くことができ、アクションプラン作成に活かす事ができた。

３　アクションプランを考える。
　４つの基本原則を基に、各学校から情報収集した内容を参考にして本校の「こち防活動」を考えた。

【まとめ】

１　普段から地域とのつながりを大切に
　普段から地域とのつながりを持つ事で、災害の時、連携して円滑な防災活動ができたり避難者同士で支援の体制が図れたりすると考えた。

２　子どもたちとの関わりを大切に
　地域の人だけでなく、子どもたちとの関わりを大切にすることにより、避難時に子どもたちの笑顔が見られたり、笑顔にさせることができたりすると考えた。

３　「地域合同防災訓練」の参加者枠を広げる
　来年度の「こち防活動」で、私たちの考えたアクションプランを実践したい。

## 兵庫県立三木北高等学校

船谷　美月（１年）、水池　雅（１年）

【ココに着目】

①各グループに分かれて、自分の学校でできる防災プランについて話し合いました。

②各学校から聞いた意見をもとに、自分の学校で出来るアクションプランを考え、模造紙にまとめました。

【まとめ】

①について
　どの学校も「抜き打ち避難訓練」という意見が多かった。これは予告なしで避難訓練を行うものである。やはり、災害は突然やってくるので、それに合わせた訓練をすることが大切だと思いました。

②について
　３月に予定されている地震の避難訓練を先生がいない時間帯で行い防災リーダーを中心にして自主的に避難できるよう、訓練を計画しました。

# WS③④「アクションプラン作成」

兵庫県立舞子高等学校　　和田　茂・太井　義真　教諭

| 新潟県立糸魚川白嶺高等学校 | 猪又　桜（２年）、佐藤　瑠香（２年） |
|---|---|
| 【ココに着目】<br>①　様々な条件の中、声を出し合って班作りをしてから、自己紹介と自分の学校の防災活動を話し合った。<br><br>②　同じ学校の生徒同士で集まり、それぞれが聞いてきた他校の活動を共有した。<br> <br><br>③　共有したものを基に、自分たちの学校のアクションプランを作成した。 | 【まとめ】<br>①、②について<br>　他校の活動を聞いて、今後自分たちが取り組みたいと思えるような活動を知ることができました。<br>　私たちの学校では、全体としては防災に対する意識があまり高くはありません。だから、各学校それぞれの多様な活動はとても刺激になりました。<br><br>③について<br>　各学校から聞いた活動を参考に、自分達にできそうなものを取り入れ、具体的な活動計画を立てることができました。また、学校の特色を生かすことで他校とは少し違う、個性のあるアクションプランを作成することができたと思います。 |

## 講義②「災害と向き合う」

防災学習アドバイザー・コラボレーター　　諏訪　清二　氏

### 宮城県石巻西高等学校

後藤　亜美（1年）、佐藤　晴菜（1年）

【ココに着目】

◎阪神・淡路大震災

１９９５年1月１７日　５：４６　発災

多くの建物が倒壊し火災が発生

死因　約８０％ 建造物下敷　約１０％ 火災

☆６０歳以上の高齢者が多く犠牲となる

・階段の上り下りが障害となった

・１階で就寝していたが２階が崩落した

☆多くの大学生が犠牲となる

・安いアパートで一人暮らし

《 教　訓 》

壊れにくい建物に住め

◎東日本大震災

２０１１年3月１１日　１４：４６　発災

☆「念のために逃げる」ことが大切

・誰かが何を言おうとも「逃げる」

☆「津波はこないから大丈夫」の判断は不可

・子供の判断が大人を救った

《 教　訓 》

「想定を信じるな」　「自分の判断で行動せよ」

【まとめ】

講義内容から、災害後の行動が大切だということが分かりました。全国を回って伝え続けることは、私たち高校生にとって実行に移すことは難しいですが、身近な人たちに語り継ぐことはできると思います。同じ高校の仲間たちに防災に関するさまざまなことを自分から伝えたり、家庭で防災に関することを話し合ったりすることなどです。

そのためには、私たちが正しい防災知識を身につけて、防災教育の学習に積極的に取り組む必要があると思います。そして、そこで得た知識や情報を地域の方々との交流を通してさらに深めると、本当に災害と向き合うことができるようになるでしょう。そして、それを「教訓」として多くのことを伝え続けることが、災害と向き合うためには必要ではないでしょうか。

指示を待たず、自分で周りを見て瞬時に判断して行動していくこと。その力を身につけていくこと。これが向き合う力を身につけるために大切なことだと思いました。

### 兵庫県立松陽高等学校

矢沢　莉亜（2年）、小川　瑠璃（1年）

【ココに着目】

・子供の判断が大人を守り、子供の判断が子供を救った事例から、今後、震災が風化しないように私たちがどのように活動をしていく必要があるのか。

・事務員の方々も避難訓練で逃げる訓練をする必要があるのではないか。

・「上を向いて歩こう・頑張ろう」という言葉が、被災者の方々にどれだけしんどい言葉なのかを考える必要があるのではないか。

【まとめ】

避難時は、今までの想定を信じて亡くなった方々が多数いらっしゃいます。その犠牲者の多くは大人でした。なぜなら過去の災害で「ここまでは津波が来ていないから大丈夫だ。」という「気持ちの緩み・油断」が死を招くことになってしまいました。私たちはその油断をなくすため、これからの若い世代に語り継いでいかなくてはいけません。

被災地のある学校では、事務員の方が最後まで残って津波に飲まれて亡くなっています。私たちの学校では先生が主体となって避難訓練をしますが、事務員の方々が参加しているのを見たことがありません。次に避難訓練を実施するときは、事務員の方々も一緒になって訓練をし、学校全体として訓練する必要があると思いました。

被災者の方々に「がんばれ」と言うのは簡単ですが、被災者の方々にとっては、辛い言葉になっているのが現実です。被災していない私たちは応援するつもりでしたが、それは思い込みにすぎません。私たちは被災者の方々の心に寄り添うことが大事だと思いました。

## 講義②「災害と向き合う」

防災学習アドバイザー・コラボレーター　　諏訪　清二　氏

### 和歌山県立熊野高等学校

梅野　芽吹（２年）、下村　佳歩（２年）

【ココに着目】

阪神・淡路大震災では、死者の約 80 パーセントの人が建物倒壊と家具の転倒で亡くなり、中でも 60 歳以上のお年寄りと学生が古い木造建築の一階で寝ていて亡くなるというのがほとんどだった。たった 11 秒の地震でここまで多くの被害を出した地震。家が密集しているため、火事が広がりたくさんの人が焼死。ある家族の話で姉が倒壊家屋で下敷きになり、火事が迫った直前まで「早く逃げて」と言い姉は亡くなった。先生は「壊れない家に住むことが大切！」と断言している。

東日本大震災では、日頃から避難訓練を沢山していた小中学生が率先非難をし、子供が大人の命を守ったという事実がある。災害についてしっかり学ぶこと、声の大きい先生を大切にし、想定を信じないこと、また避難訓練をするときには事務の先生も一緒に全員で訓練することが大切。岩手県の釜石小学校の人達が「釜石の奇跡」と言われていることは、「奇跡じゃなくて実績です」。泣きながら親を説得し、逃げなかった高齢者を意地でも避難させ、子供たちの熱い気持ちが大人の人を動かした。

【まとめ】

講義を通して学んだ事は沢山ありますが、改めて震災の怖さを知りました。そして、地震発生から避難生活が長期化し、避難場所でエコノミークラス症候群になる 40～50 代の女性が多いので、２次災害を防ぐためにも私たちサポーターズリーダー部が、防災エクサダンスを踊り交流を深め、被災者に寄り添えるよう広めたいと考えています。

災害の際には、自分に出来ることを見つけ、生き延びるためにみんなで協力したい、今はその思いでいっぱいです。

『想定外の津波がおしよせてきて、ハザードマップや堤防を信じて避難しなかった人が津波にのまれ、たくさんの人が亡くなった。』この事実を未来に伝えるために諏訪先生は懸命に話してくれました。私たちはその悲劇を二度と繰り返さないようにしたいです。率先避難者としていち早く逃げる、その行動力を常に念頭に置きたいと思いました。

災害が発生したら、パニックになったり呆然としたりするかもしれませんが、私はリーダーとして課題解決に向けて行動する 15%の人物になります。

### 兵庫県立三田西陵高等学校

中野　汐音（１年）

【ココに着目】

1　災害の体験を語る意味

（1）　社会的な意味

（2）　個人的な意味

災害を語り継ぐこと

⇩

災害の被害を減らす

【まとめ】

この講義で多くのことを学びました。一番印象に残っているのは、災害を語る意味です。

意味は2つあって、1つ目は体験の語りが持つ「社会的な意味」、2つ目は災害体験の語りが持つ「個人的な意味」です。なぜ印象に残ったかというと、災害の体験を語り継ぐことで、災害の恐ろしさ、災害を知らない世代が防災に取り組むことができるとわかったからです。これによって災害の被害を少しでも減らせるのではないか、と考えています。

自分も今まで大きな災害に遭ったことがないので語ることはできませんが、実際に災害に遭った人の話を聞いて、その話を他の人に伝えることはできると思いました。

私は、今回の全国防災ジュニアリーダー育成合宿で聞いた話を三田西陵高校の生徒に伝えたいと思いました。

# 発表「被災地ボランティア」

兵庫県立舞子高等学校　環境防災科生徒

## 釜石市立釜石東中学校

佐々木　愛佳（２年）、佐々木　心響（２年）

【ココに着目】

①積極的に行動する力

②高齢者など災害弱者への対応

【まとめ】

①舞子高校では、倉敷市の豪雨災害など被災地に出向き、ボランティアを行っています。学校内での活動だけではなく、被災地域で行動しようとしたことがすごいと思いました。

②無料食器市で手に取ったものを高齢者の自宅に届けるという活動がありました。無料食器市ではなべなど大きいものや食器もたくさんあり、災害弱者への対応が、きちんとなされていると思いました。

高校生は、社会性や行動力が高く、できることに積極的に挑戦していると思いました。私たちも、他の地域で災害などがあると生徒会執行部を中心に募金活動などを行いますが、全ての生徒が主体的に活動しているとはいえません。舞子高校の生徒の行動力を見習い、今の釜石東中にはないことにどんどんチャレンジしていきたいです。そして、実際の災害に備えたり困っている方々に支援したりしていきたいです。

## 兵庫県立家島高等学校

西口航平（２年）

【ココに着目】

**〇舞子高校の生徒が行った岡山県倉敷市真備町でのボランティア活動について**

夏場の活動だったので、体調管理がとても大変だった。ボランティアで被災地へ行った人間が体調を崩したら、逆に周囲に迷惑がかかってしまう。そんなことのないよう、熱中症対策やけがの予防などについて自分たちで考え、声をかけあった。

床下浸水と床上浸水とでは被害の程度に大きな差がある。床下浸水は比較的早く復旧できるが、床上浸水だと畳に泥水がしみこんで重く臭くなり、復旧に向けた作業も大変になる。舞子高校は床上浸水の復旧作業に関わった。男子が力仕事、女子が泥かきというように仕事を分担した。一日一軒程度しかできない、大変な作業だった。

１１月には真備陵南高校を訪問し、被災地を励まそうと花のプランター２０ケースを作った。近隣の人たちにも見てもらいたいと思い、学校の花壇にも植えた。植える前よりもみんなの顔が明るくなったように感じた。

【まとめ】

実際にボランティア活動を行った皆さんの話を聞いて、真夏の暑い中泥まみれになって行った作業の具体的な内容がよく分かり、それがいかに大変なことだったかが伝わってきた。そうした作業に、主体的に考え、状況を見て適切に協力しあって作業を進める姿が強く印象に残った。「環境防災科があり、防災教育に力を入れている舞子高校だからこそできる活動だ。」と正直最初は思っていたが、そうした環境にない高校は災害ボランティア活動ができないというわけではないと考え直した。自分たちの置かれた環境でできることは何だろうと考えるようになった。

被災地に行くことができなくても、募金活動をしたり、防災ジュニアリーダーとして、家島高校のみんなが防災意識を高めてくれるよう情報提供を行っている。それでは、今後はどうすればいいか。例えば、家島のハザードマップを踏まえた避難行動や避難経路の提案など、自分たちができることを考え、確実に実行していきたい。

# 発表「被災地ボランティア」

兵庫県立舞子高等学校　環境防災科生徒

| 徳島市津田中学校 | 滑川由菜　（3年）、西　桃那（1年） |
|---|---|
| 【ココに着目】<br>1.床上浸水と床下浸水の差<br>床上浸水…家具・畳・電気製品すべて廃棄しなければならない。<br>床下浸水…畳なども濡れなく、すべて廃棄しなくてよい。<br><br>2.無料食器市<br>被災された方とコミュニケーションををとることができる。（食器を届けるとき）<br><br>3.募金活動<br>・大阪北部地震<br>・西日本豪雨<br>・北海道胆振地震<br><br>4.被災地の方と交流<br>焼きそばパーティーでコミュニケーションをとった。 | 【まとめ】<br>・畳は水を吸うと、重くなり、すごい悪臭がするということは初めて知った。畳は思わぬ強敵になると感じた。<br>・大人数で被災した家の片付けをしても、１日かかるのは予想以上だった。<br>・無料食器市の活動は被災者の方にとって、とても助かる活動だと感じた。私たちでも、この活動ができると感じた。<br>・今まで行ってきた募金活動をこれからも続けていこうと思った。<br>・コミュニケーションをとることの大切さに気づけた。<br> <br> |

# WS⑤「アクションプラン発表」

兵庫県立舞子高等学校　　佐野　代行　教諭

## 田辺市立新庄中学校

谷本　真輝斗（２年）、成田　圭吾（２年）

【ココに着目】

今回は、大きく分けて次の三種類のアクションプランがありました。

①他の学校の取り組みを参考にしたプラン
　ハザードマップの制作など
②合宿参加者が考案したオリジナルプラン
　海抜などが分かるＱＲコード付き避難マップ
　など
③既に行っている活動をさらに改善したプラン
　地域の人と共に行う避難訓練
　（校内だけではなく、地域全体のものへ）
　など

【まとめ】

どの学校の発表もわかりやすくまとめられていました。また、実際に行動に移せるプランになっていました。

特に今回は、「避難訓練」というキーワードが入っているプランが多くありました。これは、舞子高校の震災メモリアル行事で、佐藤敏郎先生が講演してくださったことと関係があると思います。佐藤先生の講演の中で、「釜石の奇跡」は「奇跡」ではなく、日々の避難訓練があったからできたことだという話がありました。その言葉が、講演を聞いた参加者の心に響いたのではないかと思います。避難訓練の中には、登下校中の訓練や、抜き打ちで行う訓練などがありました。

自分たちの地域や学校のために行うプランはもちろん、被災している地域への募金など、被災地のためにできることを考えたプランもありました。

## 神戸市立神港橘高等学校

小宮　丈昇（１年）、村本　暉（１年）

【ココに着目】

～こんなプランが発表されました～

◇　災害発生前にできるプラン
- ●ハザードマップ作成
- ●抜き打ち避難訓練
- ●新聞・防災だよりの発刊
- ●集会などでの報告
- ●消火体験
- ●手話
- ●AEDの設置
- ●地域の方とのコミュニケーション

◇　出前授業
- ●紙芝居
- ●ゲーム形式の避難訓練
- ●◎×クイズ

【まとめ】

大半の学校は被害の拡大を防ぐ計画で、突然の災害に臨機応変に対応可能なものだった。ハザードマップは一番多かったプランのひとつであり、多くの生徒が安全な避難ルートを確保することが重要だと考えていた。

そして、もう一つの多かったプランが避難訓練である。徐々に避難訓練に慣れた生徒が手を抜くようになっていたので一人ひとりの防災に関する関心を高めるために抜き打ち避難訓練を提案した学校が多く見受けられた。

個人個人の防災意識を高めるため定期的に防災だよりを発刊する高校もあり驚いた。

地域によって、抱える問題と災発時に懸念される点が違うので、重要視する観点も異なっていて興味深いと思った。

# WS⑤「アクションプラン発表」

兵庫県立舞子高等学校　　佐野　代行　教諭

## 大分県立佐伯鶴城高等学校

清家　聖也（２年）、福島　大空（１年）

【ココに着目】

ワークショップ⑤では、学校ごとのアクションプラン発表を行いました。

発表の観点は自分の学校に戻ったとき、実現可能かどうか、どこと協力し、どういった方法で実行するのかを考えながら発表・質問をしました。

発表内容は主に「避難訓練」「マップ作成」「歌にのせて災害時の動きを覚える」といったものが多かったです。

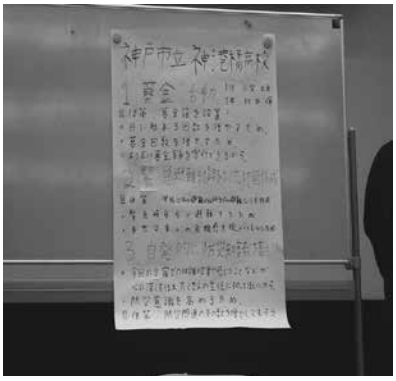
【まとめ】

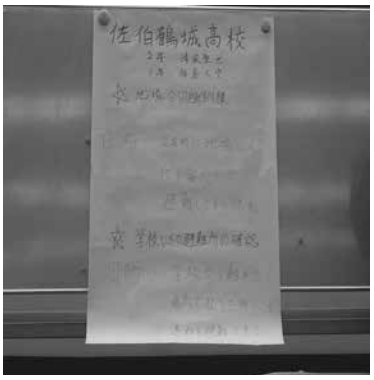
今回行ったアクションプランの発表では、自分の学校に戻ってどのような防災対策を行うかといったことを計画し発表するものでした。

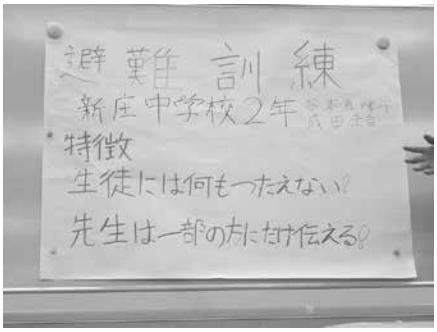
地域の人の状況を把握しておくことが、いざという時に支援をするのに役立つと思います。そこで、私たちは地域の方々と一緒に避難訓練をして災害時に生徒全員が先頭に立って避難できるようにすることをアクションプランにしました。

他の学校のアクションプランは「ハザードマップの作成」「他校の活動を基にした避難訓練」「AED の位置を記載したマップの作成」などがありました。その中でも私は、AED の位置の確認ができるのはとても良いと思いました。

佐伯鶴城高校では AED の使用方法は学びますが、それは位置を覚えておかないと意味がないので、AED の位置の把握に特に力を入れたいと思いました。





# 見学①「人と防災未来センター」

## 京都府立東稜高等学校

平井　真嘉（２年）、岡井　瑞希（１年）

【ココに着目】

阪神・淡路大震災の恐ろしさを映像や音を用いて感じることが出来ました。私たちは阪神・淡路大震災が起きたときは生まれておらず、当時の状況はほとんど知りませんでしたが、実際に目の前で、その様子を知ることによって「この下敷きになっていたら･･･」「このとき自分が家にいて家がつぶれてしまったら･･･」など想いをめぐらすことができました。

震災の記録を伝えるエリアでは、写真や映像、模型などで当時のことをより詳しく知ることができました。私が印象に残っているのは、現在の建物の様子がわかる模型でした。災害に強い家の対策として免震構造による建築方法は特に凄いと感じました。また、震災の当時の様子や被災したときの心理など語り部の方から話を聞くこともできました。

来年度、私たちの学校でもライフマネジメントの授業で、人と防災未来センターの見学があります。その際には、今回とは違う視点で学習したいと感じました。

【まとめ】

阪神・淡路大震災は東日本大震災と違って、津波もほとんどなく、被害状況が異なることも理解できました。数十秒の揺れでしたが、その勢いはすさまじいもので、建物の下敷き、そこからの火災などの被害へと拡大していく流れは、被害の大きさを十分に私たちにも認識できました。

私たちは防災に関する学習についてある程度の関心を持っていますが、こちらの施設で教えてもらったことは、今後の防災学習の役に立つことばかりでした。また、災害はいつ、どこで、誰にでも起こるものなので、今、防災に対する関心が薄い人が、防災意識を持つためには、是非利用するべき施設だと感じました。

当時の映像を見て、神戸の街の被害の様子を自分の目で確認し、その後、施設から出て神戸の街を見たときに、多くの人々が力を合わせて、復興に向けて取り組まれたのだなと感じました。共助の考え方を大切にしたいと考える機会となりました。

## 尼崎市立琴ノ浦高等学校

大口　蒼（３年）

【ココに着目】

**その１**

阪神・淡路大震災で起こったことを、今の人たちに伝えるためにつくられた施設

**その２**

国連をはじめ、いろいろな防災・減災に関係した組織が結集する世界の一大拠点

**その３**

資料室は阪神・淡路大震災に関する図書、ビデオ、紙、物、写真資料などを収集・保存

【まとめ】

いつ来るか分からない大災害に対して、私たちができることは、一人一人の防災意識を高めることです。「人と防災未来センター」では、災害時の街の様子を再現した部屋や、震災に関する多くの資料を見ることができます。震災から得た貴重な教訓を学ぶことができる施設なので、近隣の人のみならず全国から多くの人が訪れるべき施設だと思いました。

# 見学①「人と防災未来センター」

| 兵庫県立西宮今津高等学校 | 榎本　綾音（２年）、石野田　悠（２年） |
|---|---|

人と防災未来センターでは、阪神・淡路大震災について写真や映像、展示物などを通して、災害の悲惨さ、事前の備えなどの大切さなどを学ぶことができました。

１・１７シアターでは、「５：４６の衝撃」という映像を、大震災ホールでは「このまちと生きる」という映像を大画面と大音響で震災当時の様子を感じる貴重な機会となりました。

震災の記憶を残すコーナーにある壁一面に張ってある写真からは、当時の震災の悲惨さがひしひしと伝わって、現在の様子とはかけ離れており、復興するためにたくさんの人の協力があったからこそ今の神戸があるのだとあらためて実感しました。

ほかにも被災者や遺族の方から提供されたものがたくさん展示されていました。外国から震災当時の気持ちを共有しようと折り紙で作られた花束が置いてあり、国外からの支援も大切な支援の一つになっていたと思います。

震災当時は、ライフラインもすべて止まり寒さの厳しい冬だったそうです。避難所の体育館では床からの冷えで体調不良になってしまう人もいました。全国各地から届けられた支援物質は、さまざまな被災地で役立てられたそうです。

震災から復興をたどるコーナーでは地震直後から復興するまでの街の様子を、ジオラマで再現してありました。映像やメッセージでの解説もあり、より詳しく当時の様子を知ることができました。

防災・減災体験フロアではパソコンやゲームなどを使って実際に地震が起こったときにどうすればいいのか、備えるためにはどうすればいいのかを学ぶことができました。災害に備えるために必要なグッズを紹介してあるコーナーもあり、そこにいるスタッフさんからも解説が聞けて、何がどんなときに役立つかどうかを学べました。南海トラフ巨大地震についてのハザードマップも見ることができ自分の住んでいる地域がどのくらいの被害を受けるのか知ることができました。

# 見学②「三宮東遊園地」

## 兵庫県立西脇北高等学校　　堀北　志歩（1年）

【ココに着目】

・自分たちで作成したキャンドルをならべ１．１７の文字を作りみんなで輪になり黙祷

・慰霊と復興のモニュメントの見学

・１．１７希望の灯りの見学

【まとめ】

・キャンドルを並べみんなで輪になり黙祷したときの自分の気持ち

　このキャンドルは、自分たちで作ったということもあり、たくさんの思いがこめられています。

・慰霊と復興のモニュメントを見学したときの思ったこと

　ここでは話を聞くというよりも各自でまわるというものでした。慰霊と復興のモニュメントは、たくさんの人が亡くなったのだというのが分かります。もうこんな被害が起きないようにしないといけないと思いました。

・希望の灯りを見て自分が感じたこと

　希望の灯りを見ていると心が温まるような感じがありました。多くの人たちもこの灯りを見てそう感じられたのだと思います。そして、灯りによって救われた人もいたのだろうと思います。私は、これからも震災のことを忘れてはいけないし、伝えなければならないと思いました。

## 姫路市立飾磨高等学校　　後藤　弥愛（2年）、梶原 彩加（1年）

【ココに着目】

・阪神淡路大震災での犠牲者を追悼する慰霊と復興のモニュメント

・慰霊と復興のモニュメントの地下にある、震災で犠牲になられた方々の名前が刻まれた銘板が掲示されている「瞑想空間」、「優しさ」と「思いやり」、そして「生きている証」としての灯りを灯した、「1.17希望の灯り」

【まとめ】

　人と防災未来センターから徒歩で移動し、２４年前の阪神淡路大震災から復興した神戸の街並みに触られたのが良かった。

　東遊園地は実際に現地に出向き見ることでしか感じ取れないことがたくさんあると思う。だから、たくさんの方に阪神淡路大震災のことを伝える活動を行いたい。

　そして今後起こるといわれる災害に繋がる活動をしていきたい。

# 学校紹介

# 宮城県多賀城高等学校

学校創立　昭和５１年
普通科　　１８クラス
災害科学科　　３クラス
〒985－0831
宮城県多賀城市笠神２丁目 17－1

校訓
さとく　ゆたかに　たくましく

ＴＥＬ　022－366－1225
ＦＡＸ　022－366－1226

**本校は、「さとく　ゆたかに　たくましく」という教育目標を掲げた普通高校でほぼ男女が半々の学校です。一昨年から災害科学科一クラスが開設され、生徒会メンバー、災害科学科中心に防災減災活動に力を入れています。**

**【災害科学科】**

災害科学科は舞子高校の環境防災科に次ぐ２校目となる防災系の学科として 2016 年 4 月に開設されました。東日本大震災の教訓を生かして、「人とくらしを守る」という高い志を醸成し、リーダーシップを発揮できる人材の教育を目指しています。普通科と同じ科目に加え気象データを利用した「実習統計学」や「自然科学と災害」「科学英語」など災害を切り口にした８科目を学ぶのが特徴です。課外実習で海外の人に被災地を案内するといったボランティア活動にも単位を認定しています。海外の大学や気象庁、国土交通省とも連携し、研究施設の訪問や防災ワークショップも行っています。

**○津波波高標識及び聞き取り調査**

この活動は津波被害を後世と伝承したい、地域の人達にどう避難するかの目安としてほしいという思いのもと、生徒の間で有志を募り平成 24 年から開始されました。市内を襲った津波がどのくらいの高さに達したのか塀や建物の傷に残る津波の跡を見つけ、波の高さを調査・測定し、設置していきました。夏期や冬期の長期休業中に実施され、現在では約 110 カ所に設置されています。これに加え、被災のより詳しい実態、また防災減災への新しい観点を得ようと、津波浸水の住人や企業の方々から震災当時の状況についてお話を伺う「聞き取り調査」も行いました。

**○被災地案内他校との生徒間交流**

多賀城高校の主な活動の一つに「まち歩き」というものがあります。先ほど言った津波波高標識をたどりながら、聞き取り調査や津波映像を元に当時の状況を伝えていく活動です。多賀城イオン→史跡・末の松山→多賀城市震災メモリアルを巡るコースがあります。これまでの防災活動を振り返り、より新しい視点を持つことが出来るようにこれまで多くの生徒間交流を行ってきました。

また、2018 年には本校で独自に考えたアクションゲームを行いました。空想上のマップを用意し、巨大地震が起こり 30 分後に津波が来るという設定で自宅からの避難ルートをグループで考えます。決定した避難場所に向かうまでには「アクションカード」というものを引き災害時に起こりそうな状況を作ったり、アクションゲームの途中で東日本大震災の時に多賀城市で実際に起こったことを伝えて震災時の知識を共有しあったりしました。災害が起こった時どう行動するのか、命を守るにはどうするべきなのかをグループ内で話し合うことで参加者の視野を広げ、知識の共有、意見交換、防災意識の向上につながります。

**○ボランティア活動**

ボランティア活動には、部活動や生徒会執行部、同好会メンバー中心に取り組んでいます。ＪＲ多賀城駅、塩釜駅、多賀城駅などで被災地への義援金を集めています。また、近隣小学校での防災教室や公民館主催の防災キャンプで小学生と災害について学ぶ活動に参加しました。

**○防災マップの作成**

学校周辺の津波浸水地域が赤く塗られた地図に自分の登下校ルートを書き込み、震災発生地域の危険箇所や避難所の確認を生徒一人一人が行いました。

# 東京都立大崎高等学校

学校創立１０７周年
学級数　２１クラス

校　訓
「磨き、高め、輝け」

〒１４２‐００４２
東京都品川区豊町２－１－７

ＴＥＬ　03‐3786‐3355
ＦＡＸ　03‐3782‐4059

## １　都立大崎高等学校防災部（防災活動支援隊）

平成２４年度、東京都教育委員会から防災教育推進校に指定され、その取組の一つとして防災活動支援隊（現在は部活動の防災部として認められている）が組織されました。学校を取り巻く環境ですが、地域は木造住宅密集地域であり、東京都内でも有数の危険地域に指定されています。

そのため防災活動支援隊に対する期待感はとても強く、地域の様々な活動に参加するとよくわかります。現在、学校における防災活動はもとより、地元町会や地域、品川区、東京都の様々なイベントに参加しています。

そして、その活動が認められ、品川区、東京消防庁・荏原消防署、東京都都教育委員会から表彰を受けました。

現在地元では、大崎高校と言えば「防災活動支援隊（防災部）」というイメージがあります。

## ２　具体的な活動

（１）４月
地域防災フェア―にてＡＥＤ操作・初期消火訓練の指導、防災部新部員募集活動

（２）５月
品川区主催水防訓練への参加、上級救命講習受講（10 月と 2 グループに分かれて、1 学年生徒全員）

（３）６月
品川区立豊葉の杜学園において、小学生への防災学習指導

（４）７月
東日本大震災後、石巻市で自然に咲いた、通称「ど根性ひまわり 8 世」を育てる取組

（５）８月
平成 29 年度品川区社会を明るくする運動青少年善行・特別表彰を、品川区より受賞
東京消防庁荏原消防署で開催された防災イベントに参加、AED の特別指導

（６）９月
「ど根性ひまわり 8 世」開花後の日常世話係
平成 30 年度東京都中央区・港区総合合同防災訓練参加

（７）１０月
一泊二日の宿泊防災訓練（１学年）のリーダー担当

（８）１１月
荏原第 5 地区総合防災訓練参加
品川区三消防団合同点検参加

（９）１２月
平成 29 年度東京都青少年健全育成功労者等表彰式にて、
模範青少年団体として都知事表彰を受ける
平成 29 年度都立高校防災サミットに参加、AED の実演発表

(10) １月
全校防災ジュニアリーダー合宿

(11) ２月
戸越五丁目防災訓練にてＡＥＤ操作、スタンドパイプ操作指導予定

(12) ３月
「大崎高校防災フォーラム」実施予定

# 岡山県立真庭高等学校

**学校創立　平成２３年**

落合校地　普通科６クラス　　看護科３クラス　　専攻科２クラス
〒719－3144　　岡山県真庭市落合垂水 448-1
ＴＥＬ　0867 - 52 - 0056　　ＦＡＸ　0867 - 52 - 0936

久世校地　生物生産科３クラス　　食品科学科３クラス
〒719－3202　　岡山県真庭市中島 143
ＴＥＬ　0867-42-0625　　ＦＡＸ　0867-42-2694

**普通科・看護科（落合校地），生物生産科・食品科学科（久世校地）**

落合高校と久世高校が統合して真庭高校が誕生した年の３月、東日本大震災が起こりました。新しい真庭高校では、当初から被災地支援に取り組み、平成２３年１１月には、久世校地でできたお米を被災地まで届ける「お見米プロジェクト」を実施しました。平成２４年度からは、「こちら高校市民課防災係事業」（こち防）として、地域とつながった防災活動、地域活動に取り組んでいます。これらの活動から平成２６年９月にユネスコスクールに認定されました。

**○こちら高校市民課防災係（こち防）を組織**

平成２３年は、真庭市でも台風による浸水被害があり、落合校地のグラウンドも水没しました。その後に行われた地域の方々との話し合いフォーラムで、地域の方や子ども園、小学校から、高校生に対する期待が多く寄せられました。高校生が地域防災を通じて地域と関わっていこうという「こち防」が平成２４年度から始まりました。毎年４月にこち防委員を募り委員を任命し活動しています。今年度は、３０名が「こち防委員」として登録されました。

**○県外高校との交流**

今年度は兵庫県立舞子高校・神戸聴覚特別支援学校の生徒の皆さんと交流させていただきました。特に、舞子高校には毎年６月の文化祭の開催に合わせて訪問させていただき、いろいろな地域連携のヒントをいただいています。

**○ボランティアリーダー養成研修**

こち防委員会メンバー代表が、岡山県立水島工業高等学校で開催された「ボランティアリーダー養成研修」に参加しました。この研修の伝達講習も兼ねて８月２７日に「こち防校内リーダー研修会」を開催し、ボランティアリーダー養成研修で身につけた防災スキルをこち防委員３０名に伝達しました。また、岡山大学理学部　隈元崇教授から地震のメカニズムや地震危険度マップについて講義をしていただきました。

**○地域合同防災訓練（落合校地）**

本校生徒及び職員・落合小学校児童・近隣地域の方々・真庭消防署員合同で防災訓練を実施しました。こち防委員が、バケツリレーや救急搬送、心配蘇生法、ロープワーク、簡易トイレの制作などの防災スキルを本校生徒・児童・近隣の方々に伝達しました。

**○全国高校生地域防災 Summit 2018 in 幕張メッセ**

１０月１４日、東京ビッグサイトで開催された「ぼうさい国体２０１８」に Skype で参加し、本校の防災活動の取組を全国に発信することができました。

**○真庭ひとつなぎフォーラム（落合校地）**

本校では真庭ひとつなぎフォーラムという公開討論会を毎年１１月に行っています。参加者は、本校生徒・教員・保護者・地域の方々・中学生・大学の先生です。こち防委員代表者２名が今年度の防災に対する取組を発表しました。

# 徳島市津田中学校

学校創立 昭和２２年
９クラス
（特別支援学級２クラス）
〒770－8004
徳島県徳島市津田西町二丁目 2-14

校訓
勤勉・明朗・感謝

ＴＥＬ　088－662－0054
ＦＡＸ　088－662－0459

**１　学校の概要**

津田・新浜地区は徳島市の南部に位置し，海岸線から約１キロと近い立地にあります。そのため，南海トラフ巨大地震では地域の多くが水没する大きな被害が予想される地域です。

**２　防災倶楽部の歩み**

平成１７年より総合学習の一講座として始まりました。現在は有志の２３名が学習を行っています。１４年続く先輩方の成果を受け継ぎ，学習したことを学校や地域に返すことで啓発を行っています。

**「たぬ防」**

**３　活動の内容**

**○ 夏休みフィールドワーク**

夏休みの約２週間をかけて，地域の家庭を戸別訪問し，防災意識アンケート調査を行います。平均６００～８００のアンケートを回収し，分析結果をもとにミニコミ誌を作成し，地域に還元します。

**○ ブロック塀危険度調査**

夏休みに地域の徳島大学の協力でブロック塀の危険度調査を実施し，防災の啓発活動を行っています。

**○ 被災体験一泊研修**

夏休みに体育館で一泊研修を行い，避難所の生活を体験します。また，地域の方々との座談会を開催し，歴史や考え方など違った年代からの意見を聞き，活動に役立てています。

**○ バーチャル避難訓練**

徳島大学の協力のもと，タブレット端末を使った避難訓練です。次々と起こる様々なイベントを考えながら避難する活動です。時間を設定しているので，リアルな避難訓練が行われています。

**○ 地域の避難訓練等に参加**

地域で行われる様々な防災行事に参加させてもらっています。避難訓練では運営側として，受付をしたり，ケガ人役であったり，また発表をさせてもらったりしています。

**○ 事前復興街作り案作成**

災害後，速やかに復興が行えるように，今から街のレイアウトを考えておく活動です。また，今からでも実行可能な案を作成し，アクションプランを考えます。最後は地域の方々の意見を参考にして，よりよい街作りを目指しています。

**○ 阪神淡路大震災追悼イベント**

希望の灯りを神戸から分灯していただき，１月１６日の夕方に追悼とこれからの防災学習の意識高揚のためのイベントを行います。心を新たに防災教育に取り組む姿勢を高めます。

**４　防災学習を通して**

○地域の防災活動のリーダーたれ！　　○継続は力なり！
○故郷（ふるさと）を好きになれ！　ということを学んできました。これからも防災学習を続けて行きます。

# 新潟県立糸魚川白嶺高等学校

学校創立　昭和３６年
９クラス
〒941 - 0063
新潟県糸魚川市清崎９番１号

校訓
真・善・美

ＴＥＬ　025 - 552 - 0046
ＦＡＸ　025 - 553 - 1102

**［学校目標］**

１　「真・善・美」の校訓に則り、郷土を愛し心身ともに健康で豊かな人間性を養い国際化に対応した意欲的な人材を育成する。
２　生徒、保護者、地域の期待と信頼に応えるため、生徒の希望進路実現に取り組むとともに、進路の学習活動をとおして地域に貢献する学校を目指す。
３　糸魚川白嶺高等学校の生徒としての誇りを持ち、高校生活を過ごせる学校づくりを目指す。

**［めざす学校像のコンセプト］**

本校は、総合学科の高校として誕生し２０年が経過します。前期・後期の２学期制で、生徒はさまざまな活動に意欲的に取り組んでいます。

１　規範意識・社会性の涵養
２「白嶺ＨＳＪ」による学力向上と進路意識醸成による進路実現
３　学校・地域・家庭との連携の充実
４　防災・減災教育の推進

平成 29 年度より「白嶺 Hop Step Jump」プランを実施。防災マインドの育成と地域の復興や活性化への貢献を目指します。

**［学校周辺］**

本校は、糸魚川駅から徒歩約１２分の糸魚川市の中心部にあります。周辺には、天津神社、相馬御風記念館、美山公園、長者ケ原遺跡、塩の道など、数々の文化施設や名所旧跡があります。また、糸魚川市は、平成２１年８月に、世界ジオパークに認定されましたが、佐渡を望む日本海や北アルプス、フォッサマグナ、親不知海岸、姫川渓谷、翡翠峡など大変自然に恵まれた環境にあります。

**［部活動の状況］**

卓球部、陸上競技部、空手道部、体操部、スキー部などが過去に全国大会で活躍しており、平成 30 年度は陸上競技部がインターハイに出場、卓球部、空手道部が北信越大会に出場しました。野球部は、甲子園大会に３度（春１回・夏２回）出場しており、平成 29 年度にはドラフト指名を受け、プロ野球選手が誕生しました。文化部では、平成 30 年度にボランティア部が全国総文祭に出場しました。吹奏楽部、軽音楽部、チアリーディング同好会などが地域と連携して活動しており、地元への貢献意識が高まっています。

**［白嶺防災フォーラム］**

平成２８年１２月２２日に発生した「糸魚川駅北大火」後、本校では、防災・減災教育に取り組んでいます。兵庫県立舞子高等学校、宮城県多賀城高等学校と交流し、平成２９年度から実施している「白嶺防災フォーラム」では、大火の状況やその後の復興計画、地元の焼山噴火の対策、各校の防災への取り組みについての情報交換や検討を、糸魚川市や糸魚川中学校の生徒とともに行っています。

# 釜石市立釜石東中学校

学校創立　昭和４９年
学級数　　６（特支１）

〒026-0301
岩手県釜石市鵜住居町 13 - 20 - 3

校訓
「連帯」「創造」「感動」

ＴＥＬ　0193 - 28 - 3010
ＦＡＸ　0193 - 28 - 2839

## １　釜石市について

岩手県沿岸南部に位置する釜石市は、風光明媚なリアス海岸を東に臨み、海と山の幸に恵まれた環境にあります。古くから鉄の町としての歴史も有し、「近代製鉄の父」とされた大島高任をはじめ、近代産業の礎となった先陣を多く輩出しています。世界文化遺産である「橋野鉄鉱山」は本校の学区内にあります。また、2019 年に日本で開催されるラグビーW 杯の会場は、震災前の本校跡地に建設されています。

## ２　釜石東中学校について

昭和 49 年 4 月、それまであった 3 つの中学校が統合し開校しました。夏には多くの海水浴客で賑わう根浜海岸から約 400m 西側、鵜住居川の河口付近に旧校舎が立地していました。2011 年 3 月 11 日の「東日本大震災」の津波で校舎が全壊しました。地域コミュニティー崩壊による学校再開までの苦難を乗り越え、現在は鵜住居町内陸部に建設された新校舎で生活しています。生徒は「夢を抱く」、「己に勝つ」、「思いやり」の『東中魂』を大切にし、日常の学校生活を送っています。

## ３　釜石東中学校の「防災教育」について

本校は東日本大震災で大きな被害を受けました。その日、登校していた生徒が全員無事に避難できたことは、これまでの防災教育の大きな成果だといえるでしょう。しかし、失ったものも大きく、心のケアに力を入れてきました。震災から 8 年がたとうとしている今、再び防災教育に力を入れて活動しています。

・「助けられる人から助ける人へ」
　震災後の支援を受けて、「助けられる人から助ける人へ」を掲げて様々な取り組みを実施しています。
平成 29 年度からは、総合防災訓練の中で、避難所開設訓練に全校で取り組んでいます。

### ア　避難所開設訓練

１年生　　避難所で出す食事の炊き出し訓練、トイレの設営訓練を行いました。
２年生　　キャップハンディ体験と避難者誘導訓練を行いました。
３年生　　体育館の避難所運営訓練と赤十字救急法訓練を行いました。

### イ　学年ごとの防災学習

１年生　　参観日には保護者と防災手帳を使用し、防災家族会議を行いました。

２年生　　自然災害を想定したクロスロードゲームを行いました。
また、東日本大震災経験から、釜石東中に合うようにクロスロードゲームを考えました。

３年生　　修学旅行で東京の消防庁で防災学習を行いました。AED や消火器の使用法について学びました。

# 熊本県立第二高等学校

学校創立　昭和３７年
　普通科２４クラス
　理数科　３クラス
　美術科　３クラス
〒862-0901
熊本県熊本市東区東町3-13-１

校訓：自主積極
　　廉恥自尊
　　礼節協調
ＴＥＬ　096-368-4125
ＦＡＸ　096-365-5636

本校はSSH（スーパーサイエンスハイスクール）校に指定されており、「理数科、美術科、普通科の３学科が協働しながら探究活動を行い、熊本地震の経験を科学的に捉えるとともに社会との共創を図りながら創造的復興に向け課題を発見し、豊かな感性を持って具体的な行動に移すことのできる生徒を育成する。」を目標に様々な活動を行っています。

**○くまもと地域復興論**

「熊本地震による被害からの創造的復興を目指す熊本県の現状を、現地に赴き生徒自らが見聞することで、郷土愛を育み、問題発見能力の向上につなげる。また、将来、地域の創造的復興を主導できる実行力を持った生徒の育成を図る。」を目標に、くまもと地域復興論を行っています。本年度は熊本県阿蘇郡南阿蘇村立野地区で現地実習を実施しました。

《現地実習内容》

新阿蘇大橋建設現場、阿蘇大橋崩落斜面観察、犀角山断層観察、立野ダム河床断層観察、被災・復興体験談、立野フットパスワークショップ

**○特別講義**

大学と連携し、本校での出前講義を受講しました。今年度は、熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター特任准教授鳥井 真之先生の講義がありました。地震のメカニズムや熊本地震についての内容でした。

**○普通科探究科目「グローバルリサーチ（GR）」**

「教科での学びを社会の諸問題に関連させ、発展的な探究活動を実施し、科学的探究の手法や他者と協働する態度を身に付けるとともに、「みつめる力」「きわめる力」「つなげる力」を主体的に活用する能力を身に付ける。」を目標に、テーマを限定せず、複数の学問領域の融合や社会の諸問題等から各自がテーマを見つけ探究活動を行いました。主にマーケティング復興ゼミでは、復興に向けてのテーマを扱いました。

《テーマ内容》

第二高校プロデュース阿蘇貢献プロジェクト、災害時にぴったりの料理、思い出の品再現プロジェクト

**○その他（SSH事業外）**

《避難訓練》　平成３０年５月２４日（木）に避難訓練を行いました。その後各学年にわかれ、学年別の研修を行いました。３年生・・・ＡＥＤ　救急救命法研修　（体育館）　２年生・・・α米調理実習、テント設営などの避難所設営支援訓練(グラウンド)　１年生・・・消火訓練　下校確認訓練　(サッカー場)

《募金活動》　平成３０年１２月に本校正門・昇降口付近で、生徒会が中心となり西日本豪雨災害の募金を生徒に呼びかけました。

# 京都府立東稜高等学校

学校創立昭和52年
総合・アカデミー・キャリアコース
計７クラス（１年のみ６クラス）
〒601－1326
京都市伏見区醍醐新町裏町２５－１

校訓
真の自己実現に向けてTRY

ＴＥＬ　075－572－2323
ＦＡＸ　075－572－2317

## ライフマネジメントクラスの特徴

### 東稜高校が目指す教育　～夢に向かって私たちの未来は∞～

■キャリア教育の推進：「真の自己実現」に向けて「質の高い学力」と「人間力」を育成する

■地域と共に育つ学校：積極的に地域と関わり、魅力ある人づくり、街づくりに貢献する。

■確かな進路実現：多彩な教育プログラムを通して、国公立大学進学など個に応じた進路実現をサポート。

◎今年度よりスタート　キャリアコースライフマネジメントクラス！

社会貢献できる人材育成

環境（持続可能な社会づくり）

公共（安全・安心な社会づくり）

防災（リスクマネジメント）

ライフマネジメント

東稜高校で今年度よりスタートしたライフマネジメントクラスでは、環境、公共、防災について様々な切り口で学習し、理解を深め、それを活かしてコミュニケーション能力、リーダーシップ力の育成を目指しています。学習においては、大学や企業、行政のご協力をいただき、学んだことを生徒たちが地域に発信していくことを目指しています。授業ではグループワークを積極的に行い、プレゼンテーションのスキルアップなどにも力を入れています。

***京都の防災教育の先頭バッター***として今後も多くのことを学んでいきます。

東寺大師堂での防災学習

マンホールトイレ上屋づくり

北醍醐防災訓練での交流

# 宮城県石巻西高等学校

学校創立　昭和60年
普通科　15クラス

校訓
敬愛　探求　進取

〒981－0501
宮城県東松島市赤井字七反谷地27番地

ＴＥＬ　0225－83－3311
ＦＡＸ　0225－83－3312

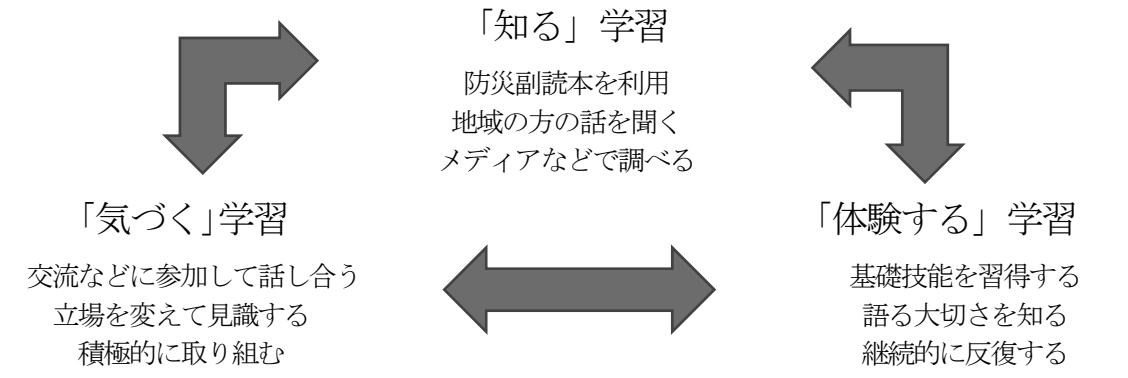
○　沿革

「生徒を育てるのは生徒」「教師を育てるのは生徒」「学校を創るのは生徒」というスローガンのもと開校した本校は、国際感覚と見識を備えた人間を目指しつつ、日本の文化と郷土に誇りを持ち、異文化理解を意識しながら世界に向けて発信できるようにするために、様々な国や地域の方々との交流を通した国際理解教育を行っています。また、東日本大震災後、いのちと向き合う防災教育に取り組み始め、お互いを思いやる気持ちを培うとともに、自然災害と向き合う心を養い生きる力を身につける「防災体験学習」も実施しています。

○　３年間の段階的な防災学習

１年生　〈自　助〉　自己を振り返りながら震災について知識を身につけ、防災・減災に関心を深める。
２年生　〈共　助〉　具体的な災害イメージを持って、発災時に求められる必要なことを考察する
３年生　〈公　助〉　ＨＵＧ実践を通して、避難所運営で発生する様々な問題を認識して解決法を探る。

防災学習の展開




○　防災体験学習

お互いを思いやる気持ちを培うとともに、自然や災害を知り生きる力を身につける「いのちと向き合う」防災教育に取り組んでいます。保護者や卒業生の講演や救命技能の体験から個人の意識を高め、「ＨＵＧ」などの防災教材や防災副読本でグループワークを通して防災意識の共有をめざし、社会に出てから必要となる多くの知識や技能を身につけることを目指しています。

○　各種交流

小学校に出向いて防災学習を実践したり、中学生や大学生、社会人と防災交流を行ったり、海外からの留学生や研修生の方々と英語で防災交流を行ったりと、様々な場面で交流を行っています。異世代と交流をすることで「繋げる・伝える大切さ」を体感することを目指しています。

○　ボランティアスタッフ

ボランティアに関心を持つ生徒が登録して、紹介された依頼のなかから、自発的に選択して参加するシステム。それが、本校のボランティアスタッフです。生徒会組織でも部活動や愛好会でもない。それは「自らの判断で積極的に行動できる」防災に必要な行動力を養い、他人と関わりのなかから、相手を思いやる心を育てることができます。登録するときに配られる活動の記録を振り返り、自分を見つめ直す良い機会にもなっています。

# 田辺市立新庄中学校

学校創立　昭和２２年
７クラス
（特別支援１クラス）

校訓
「凜として」

〒646 - 0011
和歌山県田辺市新庄町 2266 の２
ＴＥＬ　0739 - 22 - 1643
ＦＡＸ　0739 - 22 - 4672

**【新庄中学校について】**

本校校区は田辺湾の沿岸部に位置しており、これまで幾度となく津波による被害を受け、尊い命が奪われた歴史をもっています。 昭和５８年、地域の熱い願いから、標高21.3mの小高い丘の上に新築移転され、現在、田辺市指定避難施設として地域の防災拠点になっています。

昭和南海地震の津波被害

**【本校の防災学習　――３年間を見通した取り組み――】**

本校では、防災学習は地域学習の一つと考えています。１年生で地域の自然豊かな恵みや文化、歴史、産業などをしっかりと学び、地域への誇りや愛着をもった上で防災について学びます。２年生では防災劇に取り組み、地域のためにできることを、劇を通して伝えます。そして３年生では、３年間の集大成として「新庄地震学」に取り組みます。

**○１年生　地域学習**

今年度は５グループに分かれ、地域の産業、伝統、良さを再発見する活動を行いました。新庄漁協と協力したウニの駆除、地域の方に教えていただきながら古くからの酒造りの歌「新庄杜氏唄」を演じるなど、地域と密接に関わりながら進めました。

新庄の地質知り隊　・　新庄の杜氏唄歌い隊　・　新庄の漁業教え隊
新庄の自然伝え隊　・　新庄の良さ広め隊

漁業班　ウニの駆除について学ぶ

**○２年生　学年防災劇**

今年度の劇「Message 2018 ～震災を語り継ぐ～」は、３年前の劇「Message」にアレンジを加えたものです。南海トラフ地震が発生し、１０メートルの津波に襲われた新庄地区。避難所となった新庄中学校の体育館を舞台に、そこに集まったさまざまな状況を抱えた人々がどのように震災と向き合ったかを、劇を通して考え、伝えました。

防災劇　Message2018

**○３年生　新庄地震学**

平成１３年に始まった防災学習「新庄地震学」は、今年度で１８年目になります。３年生は総合的な学習の時間を使い、各教科班に分かれて一年を通して取り組みます。教科と防災を関連づけた内容になっているのが特徴です。昨年度のテーマ「ファーストアクション」に続き、本年度は「ファーストアクションⅡ ～escape　逃げ切る～」をテーマとし、「率先して」「素早く」行動するためにできる防災の取組を考えました。

| | |
|---|---|
| 国語班 | 防災標語・カルタ |
| 社会班 | 防災カルテ |
| 理科・数学班 | 建物の減災 |
| 外国語班 | 言葉の壁を越えた助け愛 |
| 音楽班 | 音楽とダンスで防災を |
| 美術班 | 防災 BOUSAI アートⅡ |
| 家庭班 | 啓発 mini アニメ |
| 技術班 | 災害時の避難を助ける方法 |
| 保健・体育班 | 防災種目 |

保体班　体育大会の防災種目
担架とともに障害物を越え
地域の方とゴールを目指す

社会班　地域ごとの防災カルテ
避難経路を歩いて調査、
避難所情報とともにまとめる

# 熊本県立菊池農業高等学校

学校創立　明治３６年
農業科・園芸科・畜産科学科・
食品化学科・生活文化科　各３クラス
〒861 - 1201
熊本県菊池市泗水町吉富 250

校訓
一、向学創造の精神を培う
二、敬愛協同の美徳を養う
三、勤労剛健の気風を興す

ＴＥＬ　0968 - 38 - 2621
ＦＡＸ　0968 - 38 - 6707

## ○食と命についての探求

本校は、創立１１５年、県内唯一の文部科学省指定農業経営者育成高等学校である。校地面積３６ｈａは西日本有数の広さを誇り、これまで１万９千余名の卒業生を送り出している。中でも本県農業の中核を担う多くの農業者を輩出し、熊本の農業の発展に大きく貢献してきたことは、本校の農業教育の賜物といえる。

## ○熊本の心　「助けあい」「励ましあい」「志高く」

進路については、農業経営者の育成はもちろんのこと、国公立四年制大学や農業大学校への進学、就職も進路実現に向けて確実に結果を出している。全体で進学４割、就職６割が本校での進路先の傾向である。

先の熊本地震においての全国からの応援や、本校花房寮をとおした兵庫県立舞子高校とのご縁にも感謝し、その記憶とともに「熊本の心」を語りつないでいる。

## ○学校の災害時の役割

熊本地震発災時には避難所・避難場所の指定の有無にかかわらず、県立学校においては、発生直後の大変な混乱の中、昼夜を分かたず可能な限りの対応を行った。しかし、このような事態を想定していなかったことにより、十分な対応が出来ないことに気づかされる。

これを教訓として、地域住民の円滑な誘導や避難所となる学校施設の効果的な活用のため、災害時に学校施設をどのように利用するかを定めた「避難所としての施設利用計画」を策定し、菊池市と指定避難所の協定を締結した。

## ○防災訓練

校内のみの訓練の他、地域住民と合同の地震避難訓練を実施し避難所・避難場所での協力体制を確認。

・県下一斉シェイクアウト訓練
・地域合同防災（地震）避難訓練
・防災（火災）避難訓練

地域合同地震避難訓練

消火器による消火訓練

シェイクアウト訓練

## ○ボランティア・募金活動

菊池農業高校では、秋に開催される文化祭「菊農フェスタ」バザー収益金の一部を義援金として被災地へ、また、全校生徒から有志を募集し、いろいろなボランティア活動にも参加している。

・九州北部豪雨災害ボランティア(平成 29 年)
・JRC（青少年赤十字）活動
・熊本県知的障がい者施設親善スポーツ大会ボランティアスタッフ
・国際交流フェスティバルボランティアスタッフ
・夏休み青少年育成キャンプボランティアスタッフ
・特別支援学校運動会ボランティア

タイ王国 FFT 派遣研修　本校で行われた農業クラブ年次大会で交流したタイのパンヤオの学生達と再会

## ○国際交流

菊池農業高校は、タイ王国の短期留学生を研修生として受け入れて１０数年となる。

タイ王国の文部科学省からＦＦＴ（Future Farmers Thailand）技術競技大会へ招待され、生徒を派遣。生徒たちによる日頃の学習成果の発表と伝統的な日本文化を披露した。

# 和歌山県立熊野高等学校

学校創立　96 年
総合学科　15 クラス
看護科　3 クラス
〒649 - 2195
和歌山県西牟婁郡上富田町朝来 670 番

校訓
自立・共生・挑戦・貢献

ＴＥＬ 0739 - 47 - 1004
ＦＡＸ 0739 - 47 - 4200

## Kumanoサポーターズリーダー部

### ♡地域に根ざし、地域に貢献する高校生リーダーを目指して♡　～５つの絆作りボランティア～

「地域に根ざし、地域に貢献するリーダーになること」を目指し、高校生がクラブ活動として主体的に、多様なボランティア活動を行っています。内容は、地域の高齢者・学童・障がい者との触れ合いを大切にしたサポート活動から、地域のイベントを盛り上げるダンス披露、ダンスでの交流など幅広く、活動を通して地域の絆作りや問題解決に取り組んでいます。

2011年4月の開始当初は単発的な活動でしたが、地域や世代で異なる課題の解決に向け、『サービスラーニング』を取り入れた継続的な取り組みに発展しました。教室で学んだ知識や技能を地域住民のサポートに活かすことで、地域社会に貢献するこころの醸成と実践力の向上を図っています。年130回を超える活動は、町役場や地域団体と話し合って内容を決め、キャプテンが全員に段取りを指示します。少人数の活動は縦割り班で行い、先輩が指導しながら実践しています。生徒たちは、課題を解決し達成感や充実感を得ることで、地域に生きる積極的な学びが促され、７年間の活動を経て数々の成果に結びついています。

### ♡多世代間交流を行うことで、相手を思いやるこころを育てる♡

①高齢者宅を訪問し安否確認を行う「ハートフルチェックボランティア」（ 年間24回278軒）
②高齢者の転倒予防教室・生きがい活動ボランティア（毎年夏休み計32回）
③学童保育ボランティア（毎年春・夏・冬休み計70回）
④障がい児の夏期保育ボランティア（毎年夏休み計6回）
⑤地域イベント活動/ダンス披露や交流活動（毎年計30回以上）

### ♡グローカル[世界的な発想で地域性を持つ]な視点で郷土愛を育む♡

●台湾花蓮市の地震による風評被害払拭のため、復興支援ボランティア参加
●世界遺産熊野古道の熊野本宮大社ご創建 2050 年例大祭ボランティア
●「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」2000 人との交流ボランティア
●防災エクサダンス DVD の合同開発、啓発活動を展開
●西アフリカ・ブルキナファソへの野球支援ボランティア
●福島県「出会いふれあい体験事業」における小学生の被災地訪問サポート
●北海道で上富田町 PR 隊として物産店ボランティア
●和歌山ファイティングバーズ社会人野球チアリーダーボランティア etc.
●防災エクサダンスDVDの合同開発、啓発活動を展開
●福島県出逢いふれあい体験事業「被災地訪問サポートボランティア」
●心肺蘇生ダンス振り付け開発、啓発活動

＜主な受賞歴＞
◇2015 年第 19 回ボランティアスピリットアワード　関西ブロック賞受賞
◇2016・2017・2018 年第 20・21・22 回ボランティアスピリットアワード コミュニティ賞受賞
◇2016 young japan action 浅田真央×住友生命 全国大賞受賞
◇2016 パナソニック教育財団 心を育むフォーラム 全国大賞受賞
◇1.17 ぼうさい甲子園 2016 高校生部門 奨励賞受賞、2017 優秀賞、2018 奨励賞
◇文部科学省・日本ユネスコ国内委員会後援『2016 全国高校生マイプロジェクトアワード』関西大会Gブロック優勝
◇福知山公立大学 2017・2018 地域活性化策「田舎力甲子園」佳作(全国３位)
◇平成 29 年度「子供・若者育成支援県民大会」 和歌山県知事感謝状表彰 善行青少年団体の部
◇第 43 回全国高等学校総合文化祭（信州大会）ボランティア部門出場

# 高知県立須崎工業高等学校

学校創立　昭和15年
機械科・造船科・電気情報科・
ユニバーサルデザイン科（各３クラス）
〒785 - 8533
高知県須崎市多ノ郷和佐田甲 4167 - 3

校訓
勤勉・規律・友愛・美化

ＴＥＬ　0889 - 42 - 1861
ＦＡＸ　0889 - 42 - 1715

（平成３１年度より「須崎総合高校」に改称）

## ○ 各科の特色を生かした「ものづくり」

本校は機械科・造船科・電気情報科・ユニバーサルデザイン科の４科で構成されており、学校全体の防災活動に加え、防災をテーマとした「ものづくり」にも取り組んでいます。この「ものづくり」におけるアイディアは、これまでの活動で得た知識や地域を始め多くの方々からいただいた意見を参考に、災害発生時に必要となるものを生徒間で話し合い、実用性を重視して決定します。

以下、今年度本校が各科で取り組んできた防災に関するものづくりの作品例の一部です。

［安否札］

［津波発生装置］

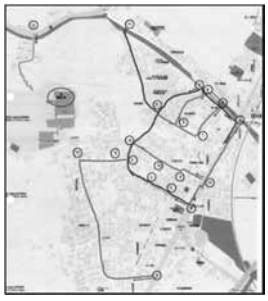
## ○ 高知県高校生津波サミットへの参加

高知県内の高校生が未来を担っていく防災リーダーとして成長し活躍することを目的に、「高知県高校生津波サミット」が開催され、本校も参加しました。

１２月のサミット本会では県内の公立高校、一部の私立高校が一堂に会し、実践校の取り組み紹介や、来年度に向けた決意表明などを発表しました。高校生同士の意見交換なども積極的に行われ、大変有意義なサミットとなりました。

## ○ 通学路危険箇所調査

私たちが普段通っている学校までの通学路は、災害時には避難道として利用されます。その通学路に危険な場所がないか、実際に調べることにしました。通学路調査を行うにあたって、まずは生徒たちがどの道を使って学校に通っているのかを知るために、アンケートを実施しました。学校まで、ＪＲ大間駅から歩いて通学する人のほかに、自転車やバイクで学校まで来る人などがいますが主に利用する道路だけでも、複数存在することが分かりました。また、日によって利用する道路が違う生徒もいて、通学経路が特定しにくいことが分かりました。



# 大分県立佐伯鶴城高等学校

学校創立　1911 年
　　15 クラス

校訓　自治. 信愛. 剛健

〒876-0848
大分県佐伯市城下東町 7 番 1 号

ＴＥＬ　0972-23-3101
ＦＡＸ　0972-23-2115

**【普通科】**

文武両道を高是に大分県南の進学拠点校として「自治.信愛.剛健」の校訓の元、佐伯鶴城高等学校の生徒は、このグローバル化が進む社会で、日本をリーダーとして支え世界の平和と発展を支える人材として活躍するだけでなく、グローバルな視点をもって地方創生に貢献できる人材の育成を目指しています。

**東日本大震災を学ぶ**

我が校は文部科学省スーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）に指定され防災、減災研究を始めたのがきっかけで修学旅行の行き先を、今年から東日本大震災の被災地、宮城県にしました。南海トラフ大地震への備えが求められる地にある学校として、津波の脅威や命の尊さを学びました。

**ボランティア活動**

・大分県南部豪雨災害ボランティア(平成 29 年)

佐伯市災害ボランティアセンターと協力し、佐伯市の隣の市である津久見市、臼杵市の豪雨被災地区の復興復旧のためのボランティア活動を行いました。この活動を通じ、福岡県朝倉市・大分県日田市のボランティア団との交流も生まれました。以前助けてもらった恩返しとしてのボランティア参加ということでした。

・巨大地震・津波を想定した避難訓練

訓練のための訓練にならないように、日時を指定せずに実施し、突然流れるＪアラームの放送に従って避難場所へ移動しました。負傷者が出た場合も想定した教員に対する訓練も行われました。最後に全校生徒に非常食を配布し、災害時の食事を体験しました。

**創生探求**

授業の一環として各分野に分かれ、佐伯市の身近な問題である南海トラフ大地震の対策や、土砂災害の発生のメカニズムなどの防災に関する研究も行っています。

**国際交流**

ＳＳＨの活動の一環として、希望者が米国ハワイで、ハワイ大学の研究者や津波防災活動に関わっている学生との交流活動を通して探究活動への意欲を高め、同大学や研究機関で最先端技術を学ぶことで、南海トラフ大地震に対する防災、減災の科学的な探求力を身に着け、帰国してからしっかり振り返りを行い、学校全体に発表しました。

# 兵庫県立舞子高等学校

学校創立　昭和４９年
普通科　　１８クラス
環境防災科　　３クラス
〒655 - 0004
兵庫県神戸市垂水区学が丘 3 - 2

校訓
誠実　健全　親愛　勤勉

ＴＥＬ　078 - 783 - 5151
ＦＡＸ　078 - 783 - 5152

**【環境防災科】**

平成１４年４月に設置された全国で最初にできた防災を専門的に学ぶ学科です。阪神･淡路大震災の教訓を生かし、地域の防災リーダーの育成を目指しています。「伝える」「備える」「活かす」を目標に、全校生徒から有志を募りボランティア活動に参加し、自分たちが学んだことを地域に伝える活動も行っています。

**○阪神・淡路大震災を学ぶ**

「災害と人間」の授業で外部講師を迎え、当時の状況やこれからの災害に対応などについて勉強しています。普通科よりも校外学習が多いことが、特徴のひとつです。

（外部講師の例）

・大阪ガス　・関西電力　・自衛隊　・ＣＯＤＥ　・水道局　・消防　・警察　・大学教授　など

**○ボランティア活動**

・東日本大震災ボランティア(平成 23 年～)
・佐用町水害ボランティア(平成 21 年)
・丹波豪雨災害ボランティア(平成 26 年)
・熊本地震被災地支援ボランティア（平成 28 年）
・倉敷市真備町ボランティア（平成 30 年）
・全県一斉募金活動（年３回）
・地域のお祭りの手伝い
・地域の防災訓練のお手伝い
・特別支援学校との防災教育交流

舞子高校では、募金活動や豪雨被災地の泥かきなど、環境防災科だけではなく、全校生徒から有志を募集してボランティア活動をしています。募金活動は、毎学期末に、近隣の高校と合同で、駅前で行っています。

**○出前授業**

１年次に、班ごとで災害について伝えたいテーマをひとつ決め、小学生を対象に出前授業を行っています。まち歩きをして地域の安全マップ作り（３年生)、クイズ形式や実験を行っての授業（４、５年生)、防災学習（６年生）を通して防災、減災について伝えています。

**○校外学習**

人と防災未来センター見学、野島断層保存館見学、六甲山フィールドワーク、長田のまち歩き、消防学校体験入校などたくさんの校外学習があります。

**○国際交流**

２００２年よりネパールとの交流を続けており、毎年希望者が約１週間、ネパールを訪問し防災交流や文化交流を行っています。

環境防災科では、普段から国際交流をする機会が多く、JICA 研修団や諸外国からの訪問団も受け入れています。授業を見学して頂いたり、環境防災科での活動を英語で発表したりしています。

# 兵庫県立松陽高等学校

学校創立　昭和23年
普通科9クラス・商業科3クラス・生活文化科3クラス

校訓
明朗進取　自治協同

〒676-0082　高砂市曽根町2794番地の1

ＴＥＬ　079-447-4021
ＦＡＸ　079-447-4023

**防災ジュニアリーダーとしての具体的な取組**

| 実施時期 | 実施内容 |
|---|---|
| H30.4 | ・高砂商工会議所 澤田様から商品開発の提携企業を紹介。 |
| H30.5 | ・兵庫県教育委員会 教育企画課に防災教育推進校の希望調書を提出。<br>・手延素麺協同組合 高橋様から揖保乃糸の提供。<br>・ハリマ食品（缶詰工場）竹中様とはりまパン製造の打合せ開始。<br>・アローム伊保店（パン屋）長岡様とはりまパン製造の打合せ開始。<br>・夕雲舎デザイン事務所 池島様からパッケージデザインの講義を受講。 |
| H30.6 | ・兵庫県教育委員会 教育企画課から防災教育推進校の決定通知を受領。<br>・甲南女子大学名誉教授 奥田様から災害食の講義を受講。<br>・パン アキモト代表取締役 秋元様に特許権使用許可申請をし、承諾。<br>・本校 文化発表会で、はりまにゅう麺の試食アンケートを実施。<br>・伊保商店会総会で今年度の防災教育の取り組みを発表。 |
| H30.7 | ・ハリマ食品様（缶詰工場）に工場見学。<br>・西日本豪雨ボランティア活動（岡山県総社市下原地区）に5名が参加。 |
| H30.8 | ・西日本豪雨ボランティア活動（岡山県倉敷市真備町）に3名が参加。 |
| H30.9 | ・ハリマ食品 竹中様とアローム伊保店 長岡様との合同打合せ。<br>・高砂市企画総務部 危機管理室 係長 谷川様と炊き出し訓練の打合せ。 |
| H30.10 | ・ハリマ食品様（缶詰工場）でパンを缶に詰める作業。 |
| H30.11 | ・総合防災訓練で、はりまにゅう麺の炊き出し訓練、はりまパンの試食を実施。<br>・高砂市議会議員 横田様とはりまパンの商品化に向けての取り組み開始。<br>・兵庫大学の講義で高大連携事業として防災教育の取り組みを発表。<br>・本校 70周年記念式典ではりまパンの試食を実施。<br>・神戸学院大学でのボランティア活動報告会で防災教育の取り組みを発表。 |
| H30.12 | ・兵庫大学での現代ビジネスプランコンペ2018で防災教育の取り組みを発表。<br>・はりまパンプロジェクトチームの発足。<br>・岡山県総社市総合政策部 復興推進室にはりまパンの提供。<br>・伊保商店会ではりまパンの提供、防災教育の取り組みを発表。 |
| H31.1 | ・あかし市民広場で防災教育の取り組みを発表。<br>・本校 課題研究発表会で、防災教育の取り組みを発表。 |

# 神戸市立神港橘高等学校

学校創立　平成 28 年
未来商学科　24 クラス

〒652 - 0043
兵庫県神戸市兵庫区会下山町 3-16-1

校訓
進取の意気
寛容な態度
自律の精神

ＴＥＬ　078 - 579 - 3650
ＦＡＸ　078 - 579 - 1330

**【未来商学科】**

「ひと」を「たから」ととらえ、２つの MIRAI を備えた人財を育成します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| MIRAI 1 | 自律した生活を営む力 | Management | などの力や専門的な知識・技能の習得 |
| | 情報処理に関する知識・技能 | Information | |
| | マーケティング知識・技能 | Research | |
| | 簿記・会計に関する知識・技能 | Account | |
| | 新しい発送で考える力 | Innovation | |
| MIRAI 2 | 寛容な心と態度を備えた人 | Moral | など人間力を備えた「人財」の育成 |
| | 豊かな国際性を備えた人 | International | |
| | 人間関係構築力を備えた人 | Relation | |
| | 進取の意気を備えた人 | Action | |
| | 深い知性と品格を備えた人 | Intelligence | |

**○阪神淡路大震災を経験して**

多大な被害のあった地域に立地し、前身である神港高校は避難所となり、もう少しで火災の被害に遭うところでした。それもあって防災・追悼・支援活動は非常に身近なものとなっています。そして地域住民との交流も様々な分野で続いています。

**○東日本大震災からの始まり**

東日本大震災で被害を受けた、東北の 6 つの高校と交流を続けている神港高校の活動を引き継ぎ、本校が交流をさせていただいています。

平成 23 年度から、毎年ひとつ「防災・減災」や「被災地応援」に関わるグッズを制作して販売、売上利益の全額を被災地に送っています。8 年目の今年、これも本校が引き継いでいます。

東北だけでなく、関東大水害、ネパール地震、熊本地震の被災地にも送っています。

この活動は、商品の開発・製作・宣伝広告、そして接客・販売というプロセス全てを経験することができ、商業高校の生徒である私たちには、教室だけでは経験できない勉強にもなっています。

**○防災キャラクター**

子どもたちに楽しく防災について身につけて欲しいと願い、平成 26 年 1 月に防災キャラクター「でんさい」が誕生しました。地域の防災訓練や、幼稚園の避難訓練などに参加し、防災カルタ大会や、防災エプロンシアターなどを行っています。

また平成 29 年 1 月には、もうひとつのキャラクター「あまりん」が誕生しました。今後、でんさいと一緒に活動します。

# 兵庫県立尼崎小田高等学校

学校創立　　昭和 47 年
普通科　　18 クラス
（看護医療・健康類型 3 クラス）
サイエンスリサーチ科　3 クラス
国際探究学科　　3 クラス
〒660－0802
兵庫県尼崎市長洲中通 2-17-46

校訓
Plain Living and High Thinking
生活は質素に理想は高く

ＴＥＬ　06 - 6488 - 5335
ＦＡＸ　06 - 6488 - 5337

**【看護医療・健康類型】**

平成２８年度から防災について本格的に取り組み、普通科の看護医療・健康類型の生徒を中心に、地域に根差した減災活動を展開しています。災害が続く昨今、今回の活動が、災害時だけでなく常日頃から、本校を「ＨＵＢ」（ハブ）として地域と「つながり、ささえあい、ともにたのしみ」ながら減災についての取り組みを継続しています。

**○「災害時要配慮者・避難行動要支援者の支援について」**

将来に「医療職」を目指す生徒が学ぶため、医療の道に防災を活かすを合い言葉に、「災害時要配慮者・避難行動要支援者の支援について」取り組んでいます。そのテーマは以下の４つです。第一に災害時要支援者（要配慮者）・避難行動要支援者の避難・支援をスムーズに行うためにどうすればいいのか？第二に指定避難所に福祉避難所機能を持たせるためにはどうすればいいのか？第三に福祉避難所を増やすためにはどうすればいいのか？第四に指定避難所で災害関連死をなくすためにはどうすれば良いのか？報告会を 2019 年１月 26 日に実施しました。

**○「ボランティア活動、防災・減災啓発活動」**

平成３０年　６月２４日：あまらぶＢＯＳＡＩＬＩＴＥＲＡＣＹ＋常ニ準セヨ！（園田北小学校）防災劇を子ども達２０名に披露。
平成３０年　６月２８日：聴覚障がいを持つ防災士と「聴覚障害者が避難し生活ができる避難所にするには」というテーマでワークショップを実施。
平成３０年　７月１６日：JR 尼崎駅頭で、在校生、卒業生３０名で大阪北部地震、西日本豪雨災害の募金活動を行う。
平成３０年　７月２０日：本校（廊下・生徒昇降口）において大阪北部地震、西日本豪雨災害の募金活動を行う。
平成３０年　７月２２日：JR 尼崎駅頭で社会福祉協議会主催で大阪北部地震、西日本豪雨災害の募金活動を行う。（本校生徒４名参加）
平成３０年　７月２６日：インドネシア・アチェ地震被災者との交流会に２年生２名が参加。（国際探求学科と共催）
平成３０年　８月　４日：みんなのサマーセミナー２０１８（みんなのサマーセミナー実行委員会、尼崎市、尼崎市教育委員会）３年生５名が市民向けに「防災・減災―高校生にできること」というテーマで授業を実施、在校生３名、市民約２０名が参加。
平成３０年　８月２５日：「尼崎～気仙沼へ　まちおこし企画」（尼崎市商工会議所主催）、災害時要援護者の研究について報告する。
平成３０年１０月１４日：福祉避難所の喜楽苑の防災訓練に参加。
平成３０年１０月３１日～１１月１日：「世界津波の日」２０１８高校生サミットＩＮ和歌山に２年生２名が参加し、「災害時要援護者」の研究について報告を行う。
平成３０年１１月１１日：本校にて３００名規模の「防災フェスティバル」を実施。防災士、兵庫県立大学減災復興研究科の院生でもある「bloom works」（歌手）のコンサートを行い、防災士協会や自治会、本校卒業生の看護学生にも協力を願い出て、地域コミュニティづくりのハブとして本校を機能させるために実施。
平成３０年１１月２３日：長洲自治会、尼崎コスモシティ自治会の防災訓練に参加。
平成３０年１２月１４日：熊本地震募金活動の実施。
平成３１年　１月２６日：「災害時要援護者」をテーマとした「探究応用」報告会の実施。（ハーティ２１で２００名規模）
平成３１年　３月１５日～１８日：熊本地震被災地ボランティアの実施。

# 兵庫県立三木北高等学校

学校創立　昭和５８年
普通科　　１３クラス

校訓
立志・自学・自律・共生

〒673 - 0521
兵庫県三木市志染町青山６丁目25番地

ＴＥＬ　(0794)85 - 6781
ＦＡＸ　(0794)85 - 6985

**○防災に関する活動について**

平成３０年度、兵庫県教育委員会より三木北高校は防災教育推進校および学校防災体制推進校に指定され、防災教育の推進に取り組んでいます。

**○これまで（平成２８年～２９年度）の取り組み**

平成２８年３月　南三陸町の復興を託し野球部が志津川高校野球部と隔年で相互訪問。および義援金募金活動（平成２４年度より継続）

平成２８年６月　文化祭模擬店の売り上げおよび募金より東日本大震災、熊本地震、ネパール大地震、台湾南投県大地震の被災地へ義援金を贈呈

平成２９年６月　文化祭模擬店の売り上げおよび募金より東日本大震災、熊本地震の被災地へ義援金を贈呈

**○今年度の取り組み**

７月２６日（木）～２８日（土）　中学生・高校生防災ジュニアリーダー育成合宿への参加
（参加人数：教職員１名、生徒２名）

８月１日（水）～４日（土）　中学生・高校生防災ジュニアリーダーによる東日本大震災被災地訪問
（参加人数：生徒２名）

１１月１日（木）　緊急地震速報の訓練実施

１１月１７日（土）　高校生等防災ジュニアリーダー・『絆』ボランティア活動報告会への参加
（参加人数：教職員１名、生徒２名）

１１月１８日（日）　ミニ防災講座（みきボランティアフェスタ）への参加（参加人数：教職員１名、生徒１名）

１２月　生徒会が文化祭模擬店の売り上げおよび募金より東日本大震災、北海道地震、熊本地震、西日本豪雨とネパール地震の被災地へ義援金贈呈

１２月１５日（土）　イオン青山店で全県一斉募金活動に参加（参加人数：教員１名、生徒８名）

１２月２０日（木）　校内活動報告会で防災ジュニアリーダー２名が全校生徒に活動報告

1月１１日（金）　１．１７震災メモリアル行事に参加（参加人数：教員１名、生徒２名）

1月１１日（金）～１３日（日）　全国防災ジュニアリーダー育成合宿への参加（参加人数：生徒２名）

1月１７日（木）校内にて阪神淡路大震災追悼行事を実施

1月１７日（木）戸田美鈴さんが県立美術館で開催の「明日へのメッセージ」で入選した詩を朗読

２月　災害および危機対応マニュアルの見直し

# 兵庫県立家島高等学校

校訓：　自律・敬愛・創造
〒672-0102　兵庫県姫路市家島町宮 1759-1
TEL：079-325-0165　　FAX：079-325-1188

～見つけにおいでよ　君の未来を！～

## ○ 家島町　幼小中高地域合同避難訓練

災害発生時、状況を的確に判断し適切な行動を取れるよう、地域が一体となった避難訓練を行います。家島高校生は、地域の防災リーダーとしての役割を期待されています。

## ○ さまざまな募金活動

東日本大震災復興支援募金や、日本赤十字の海外助け合い募金など、
家島島内や JR 姫路駅前で募金活動を行っています。

# 姫路市立飾磨高等学校

学校創立　昭和 17 年
普通科　　18 クラス
健康福祉コース　　3 クラス
〒672 - 8031
兵庫県姫路市飾磨区妻鹿 672

校訓
自主・勤勉・信愛

ＴＥＬ　079 - 245 - 1121
ＦＡＸ　079 - 245 - 1138

## 【健康福祉コース】

福祉を専門的に学ぶ普通科のコースとして、平成 15 年 4 月に開設されました。「福祉」の授業を通して、介護職員初任者研修の修了や一般教養として「福祉」を理解し、地域に貢献できる生徒を育成することを目指しています。

普通科のコースなので５教科の学習も行い、施設訪問やボランティア活動も積極的に行っています。

専門教科の授業では、車いすで地域に出向き、バリアフリーマップの作成を行っています。そのなかで災害時に危険な個所を見つける視点も身に付けようとしています。また災害時の介護についても考えています。

### ○連携授業

１年次に、「社会福祉基礎」で学習した手話を小学生に教えています。平成３０年度は、防災ジュニアリーダー育成合宿に参加した生徒が防災に関する授業も行いました。室内にあるものを使って災害時に何ができるかを考えました。また、はるかのひまわりを一緒に植え続けています。今年度は、2 年生が中学校に手話を教えにいきました。

### ○健康福祉コースでのボランティア活動

近隣の福祉施設でのイベントのお手伝い、全県一斉募金活動を行っています。その他、本校では生徒会を中心に様々なボランティア活動に参加しています。

### ○施設実習

資格認定のために、2 年次には高齢者福祉施設、3 年次には障害者支援施設にて実習を行っています。教科書で学んだ介護技術や移動支援技術を、現場での実践や指導者の助言により身に付けていきます。

### ○校外学習

１年次に特別養護老人ホーム見学、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）訪問、2 年次にリハビリテーション支援センター見学を行っています。

### ○外部講師出前授業

学期に１回程度、福祉の周辺分野の専門家による講義を受けています。

平成３０年度は、認知症サポーター養成講座、歯科衛生士による口腔ケアを行いました。

### ○探究ゼミ

平成 30 年度より健康福祉コース 2 年生が「健康」「福祉」という入り口から、誰かの笑顔のための仕事やビジネスプランを探究しています。ポスターセッションで１年間の学びを発表する場を設けています。

### ○子ども食堂（12 月から月１回）

健康福祉コース 2 年生が中心となって平成 30 年 7 月から企画を開始し、地元のまちづくり協議会と企業の協力もあって 12 月より運営しています。

# 兵庫県立阪神昆陽高等学校

学 校 創 立　平成 24 年
定時制普通科　32 クラス

校訓
日常実践

〒664 - 0027
兵庫県伊丹市池尻 7 丁目 108 番地

ＴＥＬ　072 - 773 - 5145
ＦＡＸ　072 - 773 - 5162

**○学校の概要**

本校は、働きながら学ぶ生徒や中途退学者の再チャレンジ、自分のペースで学びたい生徒など、幅広いニーズを持つ生徒が、それぞれ興味･関心等に応じて主体的に学ぶことができる多部制単位制の高校です。

同一敷地内に阪神昆陽特別支援学校が併設されており、「交流及び共同学習」では、それぞれの学校に通う生徒が同じ教室や施設等において共に学習に取り組むなど、助け合って生きていくことを実践的に学ぶ機会が設定されています。

本校は様々な環境におかれた生徒たちが、交流を深めることにより豊かな人間性を育むとともに、社会におけるノーマライゼーションの理念を進展するための礎となる学校です。

**○ボランティア活動**

・丹波豪雨災害ボランティア（平成 26 年）
・東日本大震災ボランティア（平成 27 年、平成 30 年）
・熊本地震募金活動（平成 28 年）
・神戸マラソンボランティア（平成 29 年）
・平成 30 年 7 月豪雨災害募金活動（平成 30 年）
・北海道胆振東部地震募金活動（平成 30 年）
・地域の幼稚園のイベントお手伝い
・近隣施設や保育園との避難訓練

**○学校設定教科「共生社会と人間」**

様々な障害に対する関わり方、援助方法等についての基礎的知識を習得し、障害者と健常者との共生社会に貢献できる人づくりをめざしています。

講座(科目)：「ノーマライゼーション」、「対人援助」、「地域社会への支援」
「キャリアプランニング」、「共同スポーツ理解」

公式キャラクター「こやっこ」

**○交流及び共同学習**

同一敷地内にある高等学校と特別支援学校の生徒が「共に学ぶ教科・科目」を学ぶことで、豊かな人間性を育み、ノーマライゼーションの理念を進展するための礎となる学校となることを目指しています。

「共に学ぶ教科・科目」では、つぎの４つのタイプがあります。

| | |
|---|---|
| タイプA | 高校生と特別支援の１年生が受講・・・体育、音楽、美術、社会と情報　など |
| タイプB | 特別支援の生徒が高校の授業を受講・・・社会、数学、理科、英語、書道　など |
| タイプC | 高校生が特別支援の授業を受講・・・福祉、ビジネス総合　など |
| タイプD | 近隣の県立高校との共同学習・・・沐浴介助、排泄介助　など |

**○国際交流（タイ王国）**

国際理解教育を進めていく一環として、平成 27 年度には「King’s College」と、平成 28 年度には「Matthayom Sangkeet Wittaya Bangkok School」と、平成 30 年度には「Nawamintharachinuthit Suankularb Wittayalai Pathumthani School」とそれぞれ姉妹校提携を結び、短期交換留学を行っています。

# 兵庫県立西脇北高等学校

学校創立　昭和43年
普通科　12クラス

〒677-0014
兵庫県西脇市郷瀬町669-32

校訓
真心もって　手をとりあって
正しく明るく　たくましく

ＴＥＬ　0795-22-5850
ＦＡＸ　0795-22-7359

## ○災害ボランティア活動の歩み

平成23年5月、東北地方の太平洋沖を襲った大地震の発生から２か月後に、生徒37名と教員２名が被災地を訪れ、瓦礫撤去、家財道具の運搬、家屋内の清掃等の作業のお手伝いを行いました。これが本校の災害ボランティア活動の第一歩となりました。以降、毎年、３泊４日の東日本大震災現地ボランティア活動を実施し、本年度で７回を数えています。

他にも、平成23年の台風12号による地元の浸水被害、平成26年の丹波市豪雨災害、平成27年の茨城県常総市水害、平成28年の熊本地震災害、鳥取県中部地震災害、平成29年の九州北部豪雨災害、平成30年西日本豪雨災害など、各地で発生した大規模災害に対しても、被災地での復旧作業や地元での募金活動を実施してきました。

また、このような災害ボランティア活動は、地元での地域貢献活動に発展していきました。地域のイベントの補助や清掃活動など、休日を中心に年間100回の地域ボランティア活動を実施しています。

岡山県倉敷市真備町での清掃活動

## ○語り部活動

災害ボランティア活動を通して、見たこと、聞いたこと、体験したこと、考えたこと等を、本校の生徒や地域の方々に伝えるための発表活動（語り部活動）を行っています。市内の小中学校、地域の自治会、行政機関等から要請を受け、年間10回程度の発表を行っています。自分たちの言葉で防災の大切さを人々に語りかけることで、学校の生徒や地域の人々の防災意識向上に少しでも寄与できれば、という思いで活動しています。

市立日野小学校での語り部の発表

## ○地域との連携を目指した防災活動

地元地域である西脇市郷瀬町と本校とが共同で行う防災活動の準備を進めています。現在、学校と地域の間で、防災に関する考えや役割について意見交流を進めており、お互いに何ができるかを確認しています。今年度は、郷瀬町自主防災訓練に生徒・教員が参加し地域住民と一体となり心肺蘇生法の講習会を受講し、放水訓練を実施しました。

郷瀬町自主防災訓練に参加

## ○防災に関する多様な学び

本校では、「科学と人間生活（必履修科目）」・「防災と科学（選択科目）」・「地学基礎（選択科目）」の中に、防災について学べる機会が豊富に準備されています。地震や水害の発生メカニズムを科学的に学ぶだけではなく、地域のハザードマップについて考察するなど、日常生活に役立つ学びを体験できます。

# 尼崎市立琴ノ浦高等学校

学校創立　平成 25 年
普通系列　商業系列
機械系列　電気系列
〒660 - 0826
兵庫県尼崎市北城内 47-1

校訓
自律　創造　協力

ＴＥＬ　06 - 6481 - 8460
ＦＡＸ　06 - 6482 - 5686

**○学校紹介**

校訓である「自律・創造・協力」の精神のもと、「社会と人と自分がつながる学校」をコンセプトとして、地域に根ざした学校づくりと地域や社会に貢献できる生徒の育成を目指しています。

**○防災避難訓練**

・火災避難訓練　(H30 年 7 月 10 日)
・地震避難訓練　(H30 年 12 月 13 日)

琴ノ浦高校では毎年 2 回、防災避難訓練を実施しています。1 学期に行われた火災避難訓練では、消防署の方々を招いて、実際に訓練の様子を見ていただき、講評をいただきました。2 学期に行われた地震避難訓練では、夜間定時制高校である特性をふまえ、夜中の停電を想定した訓練を行いました。また、津波を想定した本校 3 階への垂直避難訓練もあわせて実施しました。

・地域合同避難訓練　(H30 年 11 月 11 日)

尼崎市の大物地区が主催した合同避難訓練に参加しました。訓練には、地域住民をはじめ、近隣の小学校、消防署等が参加し、本校は簡易担架の実演や、消火訓練、炊き出しを担当しました。

**○全県一斉募金**　(H30 年 7 月 11 日、17 日)

大阪北部を震源とする地震によって、被害を受けられた方々を支援するために、生徒会が中心になり、全校生に声をかけ、阪神尼崎駅前で 2 日間の募金活動を行いました。

**○被災地でのボランティア活動**　(H30 年 7 月 20 日～23 日)

・東日本大震災現地ボランティア活動

宮城県石巻市、南三陸町及び気仙沼市にて、被災された方々との絆を深めるとともに、あらためて防災を意識するためにボランティア活動を行いました。また、文化祭や街頭で集めた募金を現地の高校に届けました。

・防災ジュニアリーダー育成事業による東日本大震災被災地支援ボランティア(H30 年 8 月 1 日～4 日)

今年度も防災教育推進校として育成事業に参加しました。これからの防災、減災の担い手として参加した生徒は、淡路島での学習会や、東北でのボランティア活動を通して防災意識を高めました。

**○近隣中学校での活動報告会**　(H30 年 11 月 21 日)

被災地で学んだことや感じたことを多くの人に伝え、防災の輪を広げることを目的に、ボランティア活動に参加した生徒が近隣の中学校を訪問し、活動報告会を行いました。

# 兵庫県立宝塚東高等学校

学校創立　昭和 49 年
普通科　　23 クラス

〒665 - 0871
兵庫県宝塚市中山五月台 1-12-1

校訓

自主・創造・忍耐

ＴＥＬ　0797 － 89 － 3751
ＦＡＸ　0797 － 89 － 3753

東日本大震災被災地支援活動や地域防災避難訓練への参加などの機会を得て、全校生徒が防災意識を高めていくとともに、地域フォーラムや小学校にも自分たちの得た教訓や知識を伝え、市や街を挙げての防災や減災の意識向上に取り組んでいくことを目的として活動しています。

【　活動内容　】

**○東日本大震災被災地支援活動**

日時　平成３０年８月９～１１日
場所　宮城県石巻市・東松島市
内容　全校生徒から有志を募集し、５年前から活動しています。今年度も県立宝塚高等学校と合同で計３６名が石巻市立大川小学校訪問、防災集団移転団地（あおい団地）との交流、語り部さんとの交流、ディスカバリーセンターでの研修などを行いました。

**○校内・地域での被災地支援報告会**

日時　平成３０年９月３日、１０月２７日、１２月１５日
場所　県立宝塚東高等学校、フレミラ宝塚、中山台コミュニティセンター
内容　全校生徒、地域住民の方を対象に東日本大震災被災地支援報告を行いました。フレミラ宝塚では防災ビンゴ、α化米の試食、防災グッズ作りなど防災啓発活動を実施しました。

地域での被災地支援報告会

**○地域防災避難訓練**

日時　平成３０年１２月１６日
場所　県立宝塚東高等学校、宝塚市立五月台中学校、
宝塚市立五月小学校、宝塚市立桜台小学校（４校合同）
内容　生徒有志が避難所運営、ロープワーク・炊き出し訓練、避難者トリアージ訓練などに参加しました。地域住民の方と交流を深めながら災害時の対応や、防災・減災について学びました。

地域防災避難訓練

**○防災出前授業**

日時　平成３０年１１月１３日
場所　宝塚市立長尾南小学校
内容　東日本大震災被災地支援活動に参加した生徒が小学６年生を対象に報告会と防災出前授業を行いました。昨年度に引き続き、「防災クロスロードゲーム」を実施し、グループに分かれて意見を出し合いました。

防災クロスロードゲーム

**○防災講演会**

日時　平成３１年１月１１日
場所　県立宝塚東高等学校
内容　宮城県より安倍志摩子さんにお越しいただき、「私のあやまち」と題して講演していただきました。

# 姫路市立飾磨東中学校

学校創立　昭和２２年
１７クラス

校訓
自主　創造　友愛　信義

〒672-8036
兵庫県姫路市飾磨区三和町２６番地
ＴＥＬ　079 - 235 - 5875
ＦＡＸ　079 - 233 - 3153

**○はじめに**

本校では防災活動に力を入れて取り組んでいます。特に平成２５年度より防災教育推進校として参加している防災ジュニアリーダー活動の展開についてご紹介します。防災リーダーとして地域の防災リーダー・ボランティアリーダー学習会に参加します。また学習会で得た経験を、校内および地域へと防災意識の啓発を促しています。

**○高校生等防災リーダー学習会への参加**

７月に２泊３日で行われた防災ジュニアリーダー育成合宿西脇会場への参加をしました。災害に対する知識を過去の災害から学ぶとともに、将来の災害において臨機応変に対応できる力を身につけ、また、講義、講習、ワークショップを通して、リーダーとして活動する機会を提供することで防災に関わるジュニアリーダーを育成することを目的に行われました。講義においては、災害と向き合い、ボランティアのあり方について考え、防災リーダーの心構えについて学びました。ワークショップでは、牛乳パックとストローを使って、簡易的な補強物を作ったり、アクションプランを作成して発表することで、自校の防災設備について再確認するとともに、他校の防災への働きなどを知ることができました。

また、８月には３泊４日で行われた東日本合宿に参加しました。東日本大震災のあった宮城県の様々な場所に出向き、貴重な体験をたくさんしました。実際に到達した津波の高さを見たり、津波の被害にあった大川小学校を見学したりしました。また、東日本大震災の被災地でのボランティア活動に参加する中で、被災地の人々、学生と交流し、安全で安心な社会づくりに貢献する意識を高めました。

**○校内での防災意識啓発活動**

１０月に、文化発表会にて防災ジュニアリーダーの活動について発表しました。

夏の合宿で学んだ内容を全生徒に伝え、大事な項目などはクイズを出して、多くの人に防災について興味をもってもらえるものとなりました。

**○地域との防災活動連携**

１１月に、高浜地区の防災訓練に参加しました。車いす体験や、けがをした時の応急処置の方法などを学びました。

また、飾磨東中学校の防災活動の展示ブースにて生徒が活動を説明しました。

**○まとめ**

飾磨東中学校は、以上のような活動を１年間を通して行ってきました。しかし、まだまだ周りの防災への興味関心が薄いのが現状です。これからは、さらに防災の活動を活発にし、さらに、防災の重要性を広めていきたいと思っています。

# 兵庫県立西宮今津高等学校

学校創立　昭和５２年
総合学科　１８クラス

校訓
自律・協同・創造

〒663‐8154
西宮市浜甲子園４丁目１−５

ＴＥＬ　0798‐45‐1941
ＦＡＸ　0798‐45‐1942

**○学校の概要**

平成 19 年度 4 月より全日制普通科から県内で 12 番目となる単位制の総合学科高校として学科改編されました。総合学科であるため、多彩な専門科目が用意されており、生徒一人ひとりが時間割を作ります。職員の数も多く、少人数授業が多いのが特徴です。

**○ＩＮＧ部**

ＩＮＧとは（Imazu Normalization Group）の略で主にボランティア活動を行うクラブです。「みんなが助け合える学校と地域を作る」というスローガンの元、取り組みをしています。

**①　西宮市総合防災訓練参加**

2018 年 11 月 5 日に西宮市総合防災訓練に参加しました。炊き出し班や救護班など、それぞれ訓練場所に分かれて、実際の非常時を想定して訓練を行いました。地域の方々と連携する大切さを学び、より深く防災について考える１日となりました。

**②　地域の作業所との交流**

毎年文化祭では、作業所の方々とクッキー販売を行っており、販売前には一緒にポップを作ったり、装飾を考えたりしました。今年度は新たにアロママッサージの技術を身につけ、利用者の方々にリラックスしていただこうと日々練習をしています。

**③　募金活動**

今年度は岡山県倉敷市真備町に募金活動を行っています。部員４名は実際に真備町のボランティア活動にも参加し、現地の様子をみんなに伝えてくれました。また、募金活動はＩＮＧ部だけではなく、生徒会や全校生徒にも呼びかけを行い、学校の中でも知ってもらえるよう発信を続けています。

**④　防災ジュニアリーダー**

・中学生・高校生防災ジュニアリーダー育成合宿

防災や減災に関する知識を学ぶと共に、他の学校との情報共有もでき、大きな刺激を受けました。そこから自分たちにできることを考え、いくつか実践し、2 学期の最後に全校生徒の前で報告会を行いました。

・防災ジュニアリーダー〔絆〕ボランティア活動報告会

夏の育成合宿で考えたアクションプランの実践報告をしました。様々な報告を見聞きし、活発な意見交換もあり、今後の取り組みに対するモチベーションの向上につながりました。

・全国防災ジュニアリーダー育成合宿

初めての参加となりましたが、阪神淡路大震災について深く考える合宿になりました。

# 兵庫県立三田西陵高等学校

学校創立　　平成５年
普通科　　18 クラス
〒669-1324
三田市ゆりのき台 3-4

校訓
自主　創造　飛翔

ＴＥＬ　079-565-5287
ＦＡＸ　079-565-5289

**(1)教育方針**

校訓「自主・創造・飛翔」の下、教育活動全般を通じて、生徒一人ひとりの個性と能力を伸張し自立的に生きる力を育成する。

**(2)重点目標**

ア　誰からも信頼される人づくりを進めるため、ルールとマナーを守りモラルの高い生徒を育成する。
イ　「主体的で対話的な深い学び」につなげるため、積極的に授業改善に取り組み、21 世紀型授業を展開する。
ウ　恵まれた施設設備と高い部活動加入率、卓越した指導者の下で部活動を活性化する。

**⑶本年度の実践目標**

ア　新通学区域を踏まえ、本校の魅力・特色づくりに取り組むとともに、積極的 PR 活動を行う。
イ　生徒が自己の可能性を最大限に発揮できるよう「諦めない」生徒指導を徹底する。
ウ　生徒に意欲を持たせる授業、わかる授業を展開し、基礎基本の定着と学習習慣の確立を図る。
エ　恵まれた施設設備と卓越した指導者の下で部活動を活性化する。
オ　地域との連携・ボランティア活動・保育園、幼稚園や小学校での実習・学校行事・部活動等体験的学習を充実する。
カ　キャリア教育等を充実させ、生徒の自己実現を図る。
キ　諸通信やホームページ等広報活動を充実させ、開かれた学校づくりを推進する。

**○本年度の防災教育に関する主な取り組み**

８月４日（日）
岡山県倉敷市に出向き、豪雨災害支援のボランティアを実施した。
【参加人数：教職員４人、生徒９人】

８月 26 日（日）
原子力発電避難訓練への参加
福井県の原子力発電所が地震被害による避難者の受け入れ訓練を学校の生徒が、三田市の危機管理課とともに行った。
【参加人数：教職員２人、生徒２人】

11 月 17 日（土）
三田市の総合防災訓練への参加
三田市の総合防災訓練に参加し、８月４日に実施した岡山県倉敷市の豪雨災害支援ボランティアについて報告した。【参加人数：教職員１人、生徒２人】

１月 22 日（火）
第２学年の修学旅行において、震災発生時より交流のある宮城県東松島市立大曲小学校を訪問し、募金・手作り品を贈呈した。

# 感想文

# 感想文（合宿の感想や今後の取組について）

宮城県多賀城高校（２年）宇佐美　直輝

今回で全国防災ジュニアリーダー育成合宿への参加は二度目でした。二度目の参加を希望したのは、全国の防災への関心がある高校生、中学生との交流、また、話し合うなかで、自分には無い災害の知識を増やしたいと考えていたからです。私が希望していた通り、全国の高校生と語らせていただく場面を多くいただきました。ありがとうございました。

前回この合宿に参加したとき、何をすればいいのかわからなく、ほとんど人任せでした。他校の人との交流も少なかったと思います。しかし今回は自分から動くことができて、多くの人と交流できたと思います。そのおかげで県によって災害、防災に対する考えの違いを知ることができました。

今回印象的だった講義が谷川先生の講義で行ったエキスパート活動と、ジグゾー活動です。私はA班の担当で、「サッカースクールが地震で無くなってしまい、サッカーができないのでサッカーがしたい」という子供にボールを渡して、返しに来たときには笑顔で、そのおかげで保護者も元気になったとあり、やはり子供の笑顔は大切なのだなと思いました。

今回学んだ知識を学校の防災活動に用いて、学校全体の防災意識を高めていけるようにしたいと思います。

宮城県多賀城高校（１年）岩佐　唯花

姉と学校に進められて参加したこの合宿は、想像以上に各学校の防災減災の取り組みについて深く知ることが出来ました。私たち一年生は、先輩方が創り上げたものに、いつまでもしがみついていられないと思い、何か新しい防災についての取り組みの案を探していました。しかし、この合宿のおかげで自分達に今何が出来るのかを明確にし、新たな活動計画や目標を得ることができたので、個人としても生徒会としても、とても実りのあるものになったと思います。

この合宿でたくさんの講義やＷＳを通じて一番心に残ったのは、阪神淡路大震災と東日本大震災を受けて、地域によって得たことや、教訓にしていること、備えていることの内容が、根本的に違っていたということです。具体的には、私達多賀城高校は、地震＝津波を第一に考えた取り組みをしてきましたが、他の地域では、地震＝火災、圧死という概念の元で取り組みをしているため、私たちがあまり普段考えつかない考え方だったり、違いから学べることが沢山ありました。向こうの方も同じことを思ってくれているのではないかなと感じます。

行く前は不安だらけでしたが、先生方や周りの同世代の中高生のおかげで、行く前の何倍も楽しい気持ちで帰ってくることが出来ました。ありがとうございました。

宮城県多賀城高校（１年）箭子　優羽

今回、初めて全国防災ジュニアリーダー育成合宿に参加した私は、他校が行っている防災活動にとても感動しました。クオリティが高く、私には思いつかなかったものがあり、強い刺激を受けることができました。阪神・淡路大震災を 24 年間語り継いでいるように、東日本大震災も長く語り継げるようにしたいと感じました。

初めて会う方々と交流し話し合っていくことで、文化、考え方の違いを直接感じ、防災についても様々な考え方に触れることができました。

また、講義は佐藤さんのお話が心に残っています。つらい過去があっても、それらと向き合い言葉で伝える活動をしている佐藤さんに感動しました。震災の悲しい思い出、命の重さを再確認することができました。防災減災活動に対して、もっと真剣に取り組もうと強く思いました。「救える命」を少しでも多くするために、これから自分は何をすればいいのか、どう行動すればいいのか考えていきたいです。

この合宿では他ではできない貴重な経験が多くありました。関わった方々に感謝し、今度はリーダーとして、感じたこと、考えたことを沢山の人に広め、また、今後の活動に生かしていきたいです。

宮城県多賀城高校（１年）小竹　叶多

「全国防災ジュニアリーダー育成合宿」それは私にとってとても不安の多いものでした。しかし、それは合宿を共にする仲間に会うまでの些細なことでした。本校では、防災について学ぶための学科がありますが、全国各地から集まった彼らは学校全体でそういう活動をしているというのは決して多くはありませんでした。

では、なぜ彼らはあの場に集まったのでしょうか。そうです。自分達で災害に関する情報を集め、危機感を感じて志願したのです。この意識の高さにはさすがに度肝を抜かれました。私は災害科学科という学科に籍を置き、災害に関して学んでいた井の中の蛙だったのです。確かに災害に関して学んではいますが、意欲が私には足りない。彼らのことを心から尊敬しました。

さて、私が今回の合宿で得たのは、大きく二つに分けると「知識」と「経験」です。今回大きかったのは後者になります。初対面でも迅速に打ち解けること、みんなをまとめること、そして、大勢の前でも自分の意見をわかりやすく簡潔に伝えること、これら三つのリーダーに必須とも言える能力を、今回この合宿で、少しは身につけることが出来たのではないかと思います。

私は今回の合宿で自分の中の意識が変わりました。この経験を日々の生活に生かしていきます。

東京都立大崎高等学校（１年）池島　由樹

私は、初めて全国各地の高校生と防災に関して学びました。そして、色々な先生方の講義や、さまざまな高校の活動を聞いて、色々な方面から防災について学ぶ事が出来ました。

特に印象に残っている出来事が 2 つあります。1 つ目は舞子高校で行われた震災メモリアル行事の中の佐藤敏郎さんの話です。東日本大震災で、実際に自身も被災され、辛い状況中で、突然知らされた娘の死。そして、大川小学校の 70 人が亡くなり、未だに 4 人が行方不明になってしまった理由や、佐藤さん自身の感情や娘を亡くしてしまった後の気持ちなど、とても胸が苦しくなるような実際の震災の体験などを語って頂きました。その話の中でも特に佐藤さん自身が実際に被災して学んだ「命さえあればそれでいい」という言葉が強く印象に残りました。

2 つ目は、各学校の防災活動についてです。3 泊 4 日の合宿の中で、交流の時間や宿舎の中での会話などで色々な高校や中学校の活動報告や実績などを聞いて、自分達の活動よりももっと活動の幅が広い学校が多くあることに驚きました。そして、アクションプランを考える事になり、色々な学校の活動を聞き、自分達の高校でも出来ることを探し、アクションプランの発表にも生かすことが出来ました。

この 3 泊 4 日で学んだ様々な事を自分だけに留めることをせず、周りに発信して防災力や防災意識を高める為の行動に繋げていきたいです。

東京都立大崎高等学校（１年）原田　秀馬

今回、全国防災ジュニアリーダー育成合宿に参加し、たくさんの事を感じ、学びました。

舞子高校で行った震災メモリアル行事では、自分の高校で日頃から行っている防災活動を発表し合い、様々な地域から集まってきた他の高校生の皆さんと情報を共有する事が出来ました。

阪神・淡路大震災の経験談、東日本大震災で娘さんを亡くした方のお話を聞き、とても胸が痛み僕が普段生活している日常は、当たり前ではなくとても尊いものであると気づかされ、万一の時に大切な人を守るために防災の知識を増やし、自分に何が出来るかを考えていこうと強く思いました。まずは合宿中に決めたアクションプランとして『防災新聞の作成』と『AED マップの範囲拡大』を行い、周りの方と情報を共有していこうと思います。

合宿の最後に参加者全員で、震災の事を決して忘れないという思いを込めて「1.17」の形に並べたキャンドルを見て、これから何年たっても震災を風化させず教訓として伝えていこうと誓いました。

災害大国と呼ばれる日本において、これからいつ起こるか分からない災害に対して、正しい行動が出来るよう、そして 1 人でも悲しい思いをする人が減るように、一人一人が防災知識を向上出来るよう活動していきたいです。

貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

徳島市津田中学校（３年）滑川　由菜

この全国防災ジュニアリーダー育成合宿には初めて参加させていただきました。この合宿でたくさんの方の話を聞くことができました。普段は話すこともない人と、防災について意見を交わすことができました。今まで地域の中だけで活動してきた私たちにとって、全てが刺激的なもので、まだまだ私たちにはできることがたくさんあると感じました。

私が、一番心に残っている言葉は、「想定以上の避難」という言葉です。この言葉は、佐藤先生の講演で出てきた実体験からの言葉です。何人もの人が、「ここまで波は来ないだろう」と、思いながらも念のため避難したそうです。この「想定以上の避難」をした人が助かったのです。「想定以上の避難」と聞いたとき納得すると同時に避難の難しさを感じました。この言葉は過去の被害を想定と決めつけず、想定外を生き抜くことの大切さを意味していると感じました。

私がこの合宿で得たことは、メディアの裏側にある災害の現実です。釜石の奇跡という報道を東日本大震災の後よく目にしました。こんな奇跡あるんだ…と思っていました。この合宿で釜石東中の方と話をする機会があり、釜石の奇跡についての話をしました。「釜石の奇跡は奇跡ではなく防災活動の積み重ね」だと知り、私たちの積み重ねてきた防災活動は、本当に意味のあるものだと改めて感じることができました。

徳島で今後災害が起こったとき、津田の奇跡ではなく、津田の防災活動の積み重ねだと誰しもが思うように、私たちはこれからも防災活動を続けていかなければならないと思いました。

徳島市津田中学校（１年）西　桃那

全国防災ジュニアリーダー育成合宿に今回初めて参加させていただきました。

この合宿で防災に関する、たくさんの方たちの想いを知ることができ、また、講義などでは、防災活動を実際にしている方の話が聞けて、普段学校でいるときなどの生活では経験することのできないとても貴重な体験をさせていただくことができました。その中には実際に災害にあった方もいたし、被害を受けている方もいました。被災地に行ってボランティアをしている方もいました。今まで、そんな防災活動を熱心にしている方と話をしたことがなかったのに、今、一緒に勉強していると思うと、ものすごく大切なところに来ているんだなと実感しました。

この合宿のなかで、心に残っていることは、舞子高校で聞いた佐藤敏郎先生の講義です。私は、国語の教科書に載っていたので知っていたけれど、実際に体験された話をお聞きして、「毎日を大切に過ごしていかなければいけない。」と思いました。

「命を守るためには想定外の行動をとる」・「想定外の行動は念のためのギアをいれること」・「輝く命を守るためには、念のためのギアを入れることが必要」

私はいつ起こるか分からない災害に備え、これらの言葉を胸に刻み、これからの津田中学校の活動に活かしていこうと思います。

そして、地域のリーダーになり、困っている人の力になれるように成長していきたいと思います。

最後になりましたが、今回の合宿でお世話になった先生方、講師の皆様、中学生・高校生の生徒の皆さんのおかげで良い経験をさせていただくことができました。本当にありがとうございました。

岡山県立真庭高等学校（１年）　宮本　妃菜

私は、今回初めて全国防災ジュニアリーダー育成合宿に参加しました。合宿に参加しようと思ったきっかけは、昨年７月の西日本豪雨災害で、「晴れの国おかやま」と言われてきた岡山県は災害が少ない県として知られていたのに、岡山県真備町をはじめ私の住む地域も大きな被害があり、災害を身近に感じたことから防災について真剣に考え、学びたいと思ったからです。

まず、私が４日間の合宿の中で心に残ったことは、舞子高校で行われたメモリアル行事の中での佐藤先生のお話です。お話しの中で、思いを言葉にすることの大切さを学びました。生徒さんたちが、俳句という手段で自分の気持ち、思いを表現することで気持ちが軽くなったり、時が経つにつれて変化する気持ちに気づいたりすることが出来るなど、言葉にすることの重みや大切さを深く考えさせられました。

また、その後の講義で「災害を知らない世代が知らない世代に語り継ぐ」という言葉を耳にしました。私は今でもこの言葉が心に強く残っています。語り部の方の話も聞きました。私たちは大きな災害にあっていません。しかし、そんな私たちこそが、次の世代に災害の恐ろしさ、防災・減災の大切さを語り継ぐ必要があるのです。語り継ぐことで命の大切さや絆の大切さが伝わります。だからこそ、私は、この合宿で学んだ事を学校の友だち、先生、家族、そして「こち防委員」に「語り継ぐ」ことから始めたいと思います。身近な人に伝え広げることが大事であることを学びました。

最後に「想定を信じるな。」想定を信じなかった人だけが助かりました。大きな意味が込められている大切な言葉です。大切にしたいと思います。また、この合宿で学んだ事を忘れず、防災意識をさらに高め、本校の「こち防」活動を頑張っていきたいと思います。

この合宿でお世話になった先生方はじめ合宿で出会った皆さんに感謝します。とても素晴らしい有意義な４日間をありがとうございました。

岡山県立真庭高等学校（２年）　阪本　優希

私は、今回初めて全国防災ジュニアリーダー育成合宿に参加しました。４日間、全国の高校生や中学生と交流し、楽しく防災を学ぶことができ、今まで以上に防災に対する意識が高まりました。

私が、この合宿で一番心に残っていることは、講義②「防災と向き合う」という内容でご講義くださった諏訪清二先生のお話しの中で出てきた「釜石の奇跡」です。「釜石の奇跡」は「奇跡」でなく「実績」であるという言葉が特に印象に残っています。このお話から、災害時に大事なことは、各自が自分の命を最優先にして、自分で自分を守ること、そして適切な判断が大切であるということがわかりました。

「避難」することはとてもシンプルな対策であり行動だと思っていましたが、とても勇気のいる決断がいることも気づかされました。その決断が、自分の命も周囲の命も救うことに繋がるからです。そして、「奇跡」という言葉で一つにして欲しくない、釜石市の人たちが、自分たちの手で釜石市を変えたという強い思いもわかりました。

アクションプランの作成では、これまで先生が言われるままにいろいろな活動に参加したり実践したりしてきましたが、今の本校の防災への取り組みを振り返り、身近で考えることができました。また、他校の発表を聞いて、本校でも実践したいと思う内容もあり、大変参考になりました。

最終日に行った「人と防災未来センター」は今回で２回目でしたが、３日間防災について考え、学んだ後に訪れた「人と防災未来センター」では前回とは違う視点で見学でき、ビデオの中に出てきた、「減災」について深く考えるようになりました。

この合宿を通して、防災のリーダーになるという事の責任の重さを痛感すると同時に、積極的に行動することが大切であることを学びました。今後は本校で、今回学んだ事を「こち防委員」に伝え、本校の「こち防」で発揮したいと思います。お世話になった先生方をはじめ合宿で出会った皆さんに感謝します。ありがとうございました。

兵庫県立三田西陵高等学校（１年）中野　汐音

今回の全国防災ジュニアリーダー育成合宿では、多くの中高生と交流ができて、とてもよかったです。東北で被災された生徒の方のお話が聞けて、とても貴重な体験になりました。

このような合宿に参加したのは 3 回目ですが、毎回少しずつ違った内容の講義をお聞きし、とても勉強になりました。

この合宿で学んだことを自分の学校に帰って、全校生に伝えたいと考えています。三田西陵高校から参加した生徒は自分一人だけですから、どうやって全校生に伝えられるかを考えました。全校集会でなら、全校生に伝えられるので、1 年以内に実現して全校集会で発表します。

新潟県立糸魚川白嶺高等学校（２年）猪又　桜

私は正直、この合宿に参加するまでは、自分も学校としても防災に対する意識は低かったと思います。というのも、白嶺高校では二年前から白嶺防災フォーラムを行っていますが、それ以外では特に思い浮かぶ様な目立った活動が無いからです。

今回初めてこの全国防災ジュニアリーダー育成合宿に参加し、最初は“防災に力を入れている学校が多い中、自分の意見をしっかり言えるだろうか”と不安もありました。しかし、とても話しやすい雰囲気で意見交換を行うことができ、非常に有意義な活動を行うことができました。

中でも一番心に残っているのは、諏訪先生の講話です。たくさんのテーマがある中で、特に『被災者の方々に対して「頑張れ」という言葉が人を傷つけ、それは「お前はまだ頑張っていない」と言っている事と同じだ。』という言葉です。記憶に新しい東日本大震災や熊本地震で、自分は被災していないから、自分にできることはまず、「がんばれ」と応援することだろうと思っていたけれど、逆に傷つけてしまっていたのかもしれないと知り、被災者の方々の思いを改めて考えさせられるとてもいい機会になりました。その他にも、震災の様子や他校の活動など、たくさんの学びを得ることができました。特にアクションプランの作成は、防災活動を行っていくための第一歩になったと思います。

今後、学んだ事を学校や地域に発信し、より多くの人々の防災意識を高められるような活動をしていきたいです。

新潟県立糸魚川白嶺高等学校（２年）佐藤　瑠香

私は今回の合宿に参加するまで、防災に関する知識をあまり持っていませんでした。しかし、四日間の活動を通して防災についてたくさんの新しいことを学び、もっと知りたいという気持ちを高めることができました。また、リーダーとしての自覚を持ち行動することを考えることもできました。

アクションプラン作成のための他校の生徒との意見交換では、参考にして取り組みたいと思える活動の案がたくさんありました。学校の特色を生かした活動内容が多くあり、自分達の学校の特色を生かした取り組みをしたいと考えることができました。

また、避難訓練では、避難の他に学年別に違う内容の体験をし、初めてではできないことに取り組むということがとても参考になりました。

「人と未来防災センター」では、当時の映像を見たりして改めて災害の恐ろしさを感じました。分かりやすい資料や展示がたくさんあり、とても勉強になりました。

初めて会った人達との活動でしたが、防災に関心のある人との交流だったので、とても話し合いのしやすい環境でした。

今後は、より多くの人に関心を持ってもらえるように、私が学んできたことを伝えていきたいと思います。

釜石市立釜石東中学校（２年）佐々木　愛佳

私はこの合宿を通して、他の学校の防災の取り組みについて多くのことを学びました。特に和歌山県の新庄中学校の各教科に分かれ、防災への取り組みを考え実践しているところに興味を持ちました。また、舞子高校などでは、海外に行って支援したり、災害があった時はすぐに募金活動を行ったりしていて行動力が凄いと思いました。

私は今回の合宿を通して、アクションプランの発表の時、なかなか質問ができなかったので積極性を身に付けたいと思いました。また、今後の取り組みでアクションプランで作成したことを実現できるように率先して行動していきたいです。

東日本大震災の教訓をこれからも語り継ぎ、釜石東中学校の防災の取り組みも、さらに発展させ学校で行う避難訓練などに今まで以上に真剣に取り組んでいきたいと思いました。避難には地域との交流も大切だと思うので、地域の活動にも積極的に参加していきたいと思います。

今回の全国防災ジュニアリーダー育成合宿で多くのことを学び、有意義な研修となりました。今後の防災の活動では、学んだことを生かし、中心となって活動していきたいです。

釜石市立釜石東中学校（２年）佐々木　心響

最初行く前は、発表の準備も十分できていないままだったのでとても不安でしたが、舞子高校での分科会発表ではうまくいったので良かったです。他の学校の発表は参考になるものばかりで、取り入れてみたいものがたくさんありました。合宿に行って聞いた講義は、阪神・淡路大震災のことで、初めて知る情報ばかりでした。同じ震災を経験しているので、高校生の話には共感でき、講義もとても興味深く面白かったです。今回の合宿を通して、中学生だけでなく高校生との意見交流もとても貴重なものになると思いました。

アクションプランでは、①防災マップの作成　②保育園との交流　③小学校への出前授業　を考えました。園児との交流は災害時に少しでも避難しやすくなるために、防災に関する交流やクイズなどをしたいと思いました。また、小学生に出前授業を行うことで、防災意識をさらに高めることができると思いました。これを必ず実現させ、今よりも防災に関する意識を高めていきたいです。

今回の全国防災ジュニアリーダー育成合宿を通して、もっと積極的になることやしっかり自分の意見を相手に伝えることが大切だと思いました。

熊本県立第二高等学校（２年）坂本　七輝

私は、今回初めてこの合宿に参加させていただきました。まず、私が驚いたのは他校の生徒さんの防災に対する姿勢とリーダーとしての自覚の強さです。他校の生徒さんは、防災に関する資格を持っていたり、学校での防災に関する取り組みに積極的に参加していたりと私とは大きな意識の差がありました。それに加え、みなさんはリーダーとしての自覚もすごく発表は進んで手をあげて発言したり、誰よりも大きな声で返事もしくは挨拶をしたりしていました。私も負けていられないと思い、２日目・３日目には手をあげて発表することができました。周りからの刺激をたくさん受けた合宿となりました。

そして、私の中で一番心に残っていることは１日目の佐藤先生のお話です。私は、実際に身内の方を亡くされ方から体験談を聞くのは初めてでした。佐藤先生は先生ですので親からの目線と先生からの目線で阪神淡路大震災をみておられました。娘さんを思う気持ちがある中で生徒さんに真剣に向かわれていて心の強さを感じました。命の尊さ、命の輝き、命のありがたみを改めて感じることができました。

最後に、私は今回のこの合宿を通して積極性、命、防災・減災に関する知識の大切さを学びました。家族、友達を大切にするなど日頃から私たちができるようなことから取り組んでいこうと思います。改めて人の役に立てるような人間になりたいと強く思いました。

熊本県立第二高等学校（２年）小山　大貴

私は全国防災ジュニアリーダー育成合宿に参加して、震災の恐ろしさを改めて感じるとともに、熊本地震を受けたにもかかわらず私たちの防災意識の低さを痛感しました。

今回の合宿で、実際に地震の被害に遭われた方のお話を聞くことができました。東日本大震災の津波の恐ろしさと津波がもたらした悲しみと向き合う被災者の心を、私たちは絶対に忘れてはいけないのだと感じました。また、子供たちが自分自身で正しい判断をする習慣を身に着けさせた防災教育の存在はとても大きいと思いました。

他にも、たくさんの学校の防災への取り組みを聞くことができました。そこで私が強く感じたことは、私の学校の防災意識が低いということです。他の学校では、様々な状況下での避難訓練、仮設トイレの設営など、工夫された活動が行われています。再び熊本地震のような災害が起きたときに、少しでも犠牲者を減らすためにも私が何かできることはないのかと考えました。そこで私たちは学校で「防災だより」というものを発行しようと決めました。それには、ハザードマップや防災グッズの紹介などを掲載し、少しでも学校全体で防災意識を高められればと考えます。

熊本県民である私たちが今一番大切にすべきことは、熊本地震の恐怖を忘れないことです。「もう熊本に地震が来ることなんてないだろう。」という甘い考えを持っていると、減災することは困難になると思います。今から数十年後にはきっと南海トラフ地震が日本を襲うことでしょう。隣の県の大分まで津波が来るとのことですから熊本も油断はできません。「人と防災未来センター」に行って阪神淡路大震災の再現映像を見たとき、私は震えが止まりませんでした。建物が崩壊していくのを見て、あの時の地震の記憶が浮かび上がってきたのです。私たちは、まだ地震への恐怖が心に残っています。それを忘れる前に、今のうちから行動することが、未来へこの災害の教訓をつなげる第一歩になるはずです。

京都府立東稜高等学校（１年）岡井　瑞希

この３日間を通して、全国の高校生や中学生と交流をして、自分自身何が出来るかを考えるきっかけになりました。今回の学習を通じて、防災・減災を率先してやっていき、備えをしないことでどのような後悔が生まれるのかを考える力が身に付きました。いざ行動に移すとなると難しいことだと思います。自分に今できることは合宿で学んだことをみんなに伝えることだと思います。「語り継ぐ」という言葉が私は大変印象に残っています。自分は大災害を経験していませんが、語り部さんが話してくださった大切なこと一つ一つを伝えていくことからはじめていきたいと考えています。

合宿のなかで一番印象に残っていることは、「16歳の語り部」です。ここで聞いた話はとてもリアルでつらい内容でした。自分は彼らのように大切な人を失った経験がないので、二人の気持ちを完全に理解することは出来ません。しかし、実際に災害は一瞬のうちに大切な人を失うことになるという現実をしっかりと受け止めることが出来ました。

もし、自分の街で災害が起こったときにはリーダーとして行動できるような力を身に付けたいと考えることが出来ました。現在も日本各地で起こっている大災害から多くの知識を学び理解を深め、これから行動していく力を養うと共に、自分たちの次の世代にも「語り継ぐ」ためにしっかりと学習をしていきたいと思います。

京都府立東稜高等学校（２年）平井　真嘉

私はこの合宿に参加するにあたり、一つの目的をもって参加しました。それが「世界観を広げること、考え方を増やすこと」でした。この合宿を通して、この目的が達成できたと思えることがたくさんありました。

まず、舞子高校での講演会です。被災地の方々の言葉の一つ一つがとても心に残るものでした。その中でも私たちがこれから防災を学び、人の命を守るために大切だと感じた言葉は「防災とはあの日を語ること未来を語ること」でした。私たちは、被災者という立場ではなく、その状況を経験していません。同じ日本に住んでいても、辛い思いをしている人がたくさんいるということを具体的に知り、世界観も広がったと思います。

２つ目は全国から集まった中高生たちとの出会いです。これは、防災に対する意識、考え方を変えてくれました。参加した方々は防災に対してとても意欲的でアクティブでした。特に、舞子高校の皆さんとの交流は、私にとって大きく影響を受けました。震災メモリアル行事の際も、生徒の皆さんが率先して動かれて、案内してくださり、自発的に行動されていました。私のクラスでも、こうして自分たちの学校行事を大切にして、自分たちで行動できる力をつけていきたいと感じました。

最後に、今回の合宿を通してお世話になった多くの先生方、生徒の皆さん本当にありがとうございました。

宮城県石巻西高等学校（１年）　後藤　亜美

今回参加して、他県の学校で行っている防災活動について詳しく聞いたことで、防災に対する意識がとても高まりました。

実践発表では、募金活動にオリジナル缶バッジを取り入れたり、津波到達点に標識を取り付けたりするなど、高校生が自分たちでできることのさまざまな企画に感心しました。また、講義を通して、発災時に自分がどのように行動すれば良いか、他人に接するときの心構えの大切さを学ぶことができました。

合宿を通して、私は積極性が身に付いたと思います。いろいろな場面で知らない方々と意見の交換や自分の考えを述べる場数を踏んでいくうちに、最終日には自分から行動し発言できるようになったと思っています。特に、与えられた質問に挙手をして発言したとき、司会の先生に「あなたはいつも学校で挙げるのですか」と言われ、普段は挙げていないと正直に言うと、「成長しましたね」という言葉をいただいたことがとてもうれしかったです。

私たちも、今後の取り組みとして、全校生徒に防災意識・知識の定着を目指して、この合宿で得たものを発信するために「知ってもらう」活動をしたいと思います。さらに、様々な募金活動などを通して、災害支援だけでなく福祉関係などにも目を向けて、生徒一人一人の自主性向上に努めたいと思います。これからも積極的にこのような活動に参加し、自分を成長させていきたいです。

宮城県石巻西高等学校（１年）　佐藤　晴菜

この合宿を通して、多くのことを学ぶことができました。参加する前は、阪神淡路大震災のことはもちろん、防災のことすらあまり知らず、このような企画に対して自分は大丈夫かと不安もありました。

しかし、いざ参加して、たくさんの講義や全国から集まってきた中高生の話を聞くにつれて、防災に対する関心や興味がわきました。このようなことを通して、命の大切さ、あたり前はあたり前ではないということが分かりました。

朝起きたら家族が食卓の前に居て「いただきます」と言って他愛ない話をする。学校ではたくさんの友達と会話をする。こういった日常は、決してあたり前ではないということが分かりました。災害がいつ・どのような場所で起こるか分からない今、私は１日１日大切に生きていこうと思いました。

そして、もうひとつ。私は大人数の前で自分の意見を自分から発表することがあまりなかったのですが、防災ジュニアリーダーを育てるすばらしい企画のおかげで、今まではあり得なかった、自分から挙手し発表するということができるようになりました。

この４日間で、防災知識はもちろん、人間性の面でも成長できたのではないかと思いました。この企画に参加できて、本当に良かったです。

田辺市立新庄中学校（２年）谷本　真輝斗

今回の合宿では普段の生活ではできないような体験ができ、とても貴重な経験になりました。

舞子高校の震災メモリアル行事の分科会では、他校の活動の様子を知ることができました。東日本大震災に関する佐藤敏郎先生の講演会では、テレビや新聞では伝えきれない被災地の方々の思いを知ることができました。被災地の人たちが、あの日起こったことについてどのように思っているか、どのように向き合っていったのかが分かりました。

合宿中の講義では、災害時に重要になる行動や考えを改めて確認したり新しく知ったりすることができました。想定を信じ「堤防があるから大丈夫」などと思うのではなく、想定にとらわれないことが大事だということ、また、人に接する時の心構えも学びました。辛い思いをしている人がいたら、その人たちが楽しいと思えること、うれしいと思えることを考えて行動したいです。

ワークショップでは、様々な学校の人と意見交流をし、ボランティア活動の様子や他校が行っている避難訓練の方法を知ることができました。初めてのキャンドル作りは、失敗したところもありましたが、いいものができてよかったです。

この合宿で得た災害に対する知識を多くの人に伝え、これから来るといわれている南海トラフ巨大地震への備えに役立てていきたいです。

田辺市立新庄中学校（２年）成田　圭吾

今回、この全国防災ジュニアリーダー育成合宿に参加したことで、僕はとても成長することができました。舞子高校の先生の講義の中にもありましたが、積極的に行動したり、話したりすることができるようになったと思います。

また、たくさんのことを学ぶことができました。舞子高校の震災メモリアル行事では、佐藤先生の話や Bloom Works のメモリアルライブがありました。佐藤先生の話の中に「おもちゃのように津波で流された」という表現がありました。僕はこの言葉がとても重く感じました。特に「おもちゃのように」というたとえが怖く感じました。

ワークショップでは、追悼式で使うキャンドルを作ったり、防災について意見を交換、共有し、アクションプランを立てたりしました。意見交換は、他の地域の学校の防災の取り組みや、実際に被災した生徒の話も聞くことができ、とても貴重な時間を過ごすことができました。この合宿を通して学んだことは、自分の中にとどめておかず、中学校や地域に伝えて、災害に強い町づくりをしていきたいです。

最後に、僕はこの合宿で一つ夢ができました。それは防災士の資格を取ることです。合宿には、防災士の資格を持った高校生がいました。僕は本当に憧れました。十六歳になったら、防災士になります。自分のため、地域のために防災士になりたいです。

熊本県立菊池農業高等学校（３年）宮川　詠梨茄

私は、この全国防災ジュニアリーダー育成合宿に参加して、本当に多くのことを学びました。特に女川中学校の生徒が作った俳句が強く印象に残っています。「五、七、五」の短い言葉の中に込められた沢山の思いが心に刺さりました。もう二度と同じ過ちを繰り返さないために、今、自分に何が出来るのか考えようと思いました。

もし、今地震がきたら、私は率先避難者となって「念のため」もっと上に、「念のため」もっと遠くに逃げようと思います。このくらいで大丈夫と思うこと、想定を信じることが自分やみんなの命を奪うことになるからです。家族や周りの人が大丈夫と言っても、無理矢理にでも一緒に逃げようと思いました。

また、普段の生活では防災訓練に真剣に取り組み、災害時にすぐ対応できるようにしたいです。地域の高齢者の方や体の不自由な方も全ての人が助かるよう、普段からコミュニケーションをとってつながりを持とうと思いました。４日間という短い期間でしたが私にとっては、本当に充実した時間になりました。

他の学校の防災に関する取り組みや、この合宿で感じたこと、学んだことを菊農生にも伝え、一人一人の意識を高めていきたいと思いました。

熊本県立菊池農業高等学校（３年）宮川　莉梨茄

私は、熊本地震を体験して災害について強い関心を持つようになりました。今回はじめて全国防災ジュニアリーダー育成合宿に参加しましたが、この合宿では本当に様々なことを学ぶことができました。

阪神淡路大震災を体験された方の講話や東日本大震災を経験した同年代の人の話を聞いたり、とても貴重な体験ができました。特に印象に残ったのは佐藤先生の講話です。なかでも女川中学校の生徒が作った俳句が心に響き、感銘を受けました。震災の経験を辛い記憶だけで終わらせてはいけないと思いました。

もし、次に大きな地震が起こっても被害を最小限にする備えと知識が必要だと感じました。そういう意味でも今回の合宿は、知識と行動力、リーダー性など、多くのものを得ることができて良かったと思います。

また、今日学んだものを自分の中だけに留めておくのではなく、それを発信していきたいです。分科会では全国の中高生の防災に関する発表を聞きました。その内容や活動の取り組みは、どれも驚くものばかりで、大変刺激を受けました。同年代の人達が様々な活動をしているのを知り、自分も負けてはいられないと感じました。

和歌山県立熊野高等学校（２年）梅野　芽吹

全国防災ジュニアリーダー育成合宿に参加して、普段は関わることのほとんどない全国の中・高生と一緒に３泊４日を過ごし、たくさんのことを学びました。ワークショップや交流を通してそれぞれの学校の防災に対するたくさんの取り組みを知り、驚きました。

アクションプラン作成では、熊野高校では１年以内に必ずすることに、AED MAP を取り入れることを計画しました。また講義を聞き、学んだことを私で止めておくのではなく学校の友達や家族に伝えることが大切だと思いました。

この先、30 年以内にくると言われている南海トラフ地震で、１人でも多くの人の命を守るために、普段から障害者やお年寄り、子供達と関わっておくことで、避難する際に少しでも安心して一緒に避難が出来ると思います。そのために、普段の高齢者安否確認や、学童保育ボランティアを大切にしようと思います。減災するために、災害について私たちに何が出来るのか、これから今まで以上に深く勉強していこうと思いました。

和歌山県立熊野高等学校（２年）下村　佳歩

1 月 10 日から全国防災ジュニアリーダー育成合宿に参加して、たくさんのことを学びました。1 日目の交流会で友達が出来、いろんな府県から集まっていたので喋り方などみんな違っていてとても新鮮でした。2 日目に舞子高校へ行き、Bloom Works の方達の歌と、佐藤先生の講演を聞きました。先生が言っていた言葉一つ一つが淡々と話されていたけど、震災後すぐは辛い日々だっただろうなと胸が痛みました。中学生が描いた絵を見ただけで津波の恐怖、家族を失った絶望など様々な感情が読み取れました。中学生が書いた俳句は逢いたい人に会えない辛さがとても伝わってきました。 講演会を聞いた後は各教室へ移動で、私達は炊き出しを見学しました。

青少年交流の家に移動し、谷川先生の話を聞きました。アクションプラン作成で多くの学校と交流し、自分たちとは全く違う活動を学びました。特に東京都立大崎高校の AED をマップにして各地区に貼ってある事を聞いて、いいアイディアだなと思いました。 舞子高校は被災地に行ったり海外に行ったり、同じ高校生とは思えないぐらい活動していて、すごく憧れました。合宿に参加して、参加するまでは全然防災のこととか深くわからなかったけど、南海トラフ地震が 30 年の間に必ず来るため、しっかり向き合わないといけないと感じました。

高知県立須崎工業高等学校（１年）梅木　智哉

今回の全国防災ジュニアリーダー育成合宿に参加して、とてもよかったと思います。今まであまり考えたこともなかった防災の話、被災者の方からの実際に体験した話を聞くことができ、地震や津波の恐ろしさを改めて感じることができました。

私は今回須崎工業高校の代表として、この合宿に参加しましたが、活動に対して消極的になってしまった場面もありました。今後はこの合宿で学んだことを生かし、私も舞子高校の皆さんのように、必要なときにはリーダーシップを発揮できる人間になりたいと思います。

講演では、諏訪先生や佐藤さんのお話を聞いて、大切にしなければならないと思うことがたくさんありました。自分が印象に残っているのは「想定を信じるな」というお話です。ここは大丈夫と思っていた場所が津波に流されたというお話を聞き、私もいざというときは、もしもという場面も考えながら行動したいと思いました。

最終日に、三宮東遊園地で自分たちが製作したキャンドルで、１．１７の文字を作りました。近くには阪神淡路大震災で亡くなった方々の名前が刻まれた慰霊モニュメントを見ました。そのとき刻まれた名前のあまりの多さに言葉がでませんでした。この合宿で学んだことを、近い将来発生すると言われている南海トラフ地震で生かせるよう、今後も頑張っていきたいと思います。

高知県立須崎工業高等学校（１年）片岡　隼乙

今回の全国防災ジュニアリーダー育成合宿で多くの人の話を聞きながら、自分でもいろいろと考えることができました。

講演のなかで、災害時に車で逃げるのは良いのか悪いのか、それに答えはないという話を聞きました。車を使って早く逃げることができた人もいれば、車を使って逃げて間に合わず津波にのまれてしまった人もいる、というお話を聞き、災害が起きて避難するときは、自分自身がその場で判断し的確な行動をしていかなくてはならないことを強く感じました。また、「夢だけは、壊せなかった、大震災」という俳句を知ったとき、鳥肌が立ちました。実際に体験した人にしか書けない、とても心に響く俳句だと思いました。今回の合宿では、たくさんの話を聞くことができ、多くのことを学ぶことができました。話を聞いて学んだことをしっかりと受け止め、学校や地域の人達に、しっかりと伝えていくことが大切だと強く感じました。

この合宿を通して、災害の恐ろしさを改めて知るきっかけになりました。今後、自分たちはジュニアリーダーとして、学んだことを同じ高校生たちや地域の方々に伝えるという役目を果たさなければならないと強く感じました。これからの防災活動を行うときは自分たちが中心となって行動できるよう、これからも頑張っていきたいと思います。

本当にありがとうございました。

大分県立佐伯鶴城高等学校（２年）清家　聖也

私は、この全国防災ジュニアリーダー育成合宿へ参加して災害をより身近に感じるようになりました。テレビなどで情報として知ることと実際に体験した人の話を聞くこととでは全く違いました。実際に大規模な災害を体験したことのない多くの人は頭では、災害はある日突然、食事の最中や入浴中、就寝中などリラックスした瞬間にもやってくると分かっているが、実際に災害が起きると対応できる人は少ない。少しでも冷静になる為には普段の準備が重要である。避難訓練を繰り返すことは実際に避難する事態になった時までその重要性は見えにくい。本気で避難訓練に参加している人は少ないだろう。それでも避難訓練に参加していれば、いざというとき体が動くものである。

日本は世界でも自然災害が多いことで知られています。特に地震に関しては回数・規模も多く対策に関しては最も進んでいる。東京オリンピックという世界が注目する祭典を機に日本が積み重ねてきた災害に対応する力を世界に発信するよい機会だと思います。そのためにも過去の多くの犠牲のもとに積み重ねてきた貴重な経験、知識を私たちが学び世界に向けて正しく発信しなければならない、その責任の重さを感じました。

大分県立佐伯鶴城高等学校（１年）福島　大空

私は、今回の合宿に参加して他の高校の生徒と防災に関する知識や活動、心意気について話し合うことによって防災・減災活動にますます意欲がわいてきました。

今回の合宿に参加して私は、災害が起きた時に落ち着いて状況を判断し行動できる人間は15%しかいないという話を聞いて家では、前々からしようと思っていた非常時持ち出し品の準備をすることにしました。そのことをする上でも、阪神淡路大震災の時に周りの人たちの役に立った人がやっていた事を意識して準備をしました。

今後の取り組みについては、私たちがアクションプラン発表の時に挙げた、ハザードマップの情報を学校の内外で共有することや、避難訓練を行い、この合宿に参加した私たちが率先して行うことで、鶴城高校の防災意識を高めていきたいと思います。

今回の研修に参加して私は、災害は人の力では防ぐことはできないが、被害を最小限に抑え、災害が起きた時にいち早く元の状態に復旧し、それ以上に復興するための準備をしっかりと行うことが大切であると思いました。

兵庫県立舞子高等学校（３年）大西　崇平

今回で全国防災ジュニアリーダー育成合宿は２回目の参加でした。県内の防災ジュニアリーダー育成合宿よりも参加者が多いので様々な学校の取り組みについて知れるとてもいい機会となりました。学校の活動を紹介すると、舞子高校の環境防災科は防災を専門に学び、多くのボランティア活動に参加している、素晴らしい学校だと言われることがよくありますが、それは大きな間違いだと私は思っています。他の学校の活動報告を聞いていると舞子高校よりもさらにレベルの高いことをしているなと感じることばかりで、いつも驚かされています。私達も現状に満足するのではなく、もっと新しいことにも挑戦しないといけないのだと痛感させられます。

さらに、この合宿を通して思ったことは、震災体験を同世代の方から聴くと、捉え方や感じ方が全く違うということです。10 代という若さながらも自分の体験した震災というものを語り継いでいる姿に感銘を受けました。これから先も震災を経験した世代として、後世へ語り継いでほしいと思いました。最後に私はこの合宿で全体リーダーをさせて頂きました。しかし、私 1 人の力で合宿を成功させることが出来た訳ではありません。先生方や多くの生徒の皆さんの支えがあったからこその結果だと思っています。本当にありがとうございました。

兵庫県立舞子高等学校（３年）下川　真七佳

私は、今回の全国防災ジュニアリーダー育成合宿に参加させていただき、たくさんのことを学ばせていただきました。特に、アクションプランの作成では、県外・県内問わず、たくさんの学校の防災に関する活動を教えていただき、自分の学校でも取り入れてみたいと思う活動が多くありました。学年も出身地も様々なメンバーでの情報交換だったからこそ、得られるものがたくさんあった３日間で、とても有意義な時間を過ごすことができました。そして、今回参加していた防災に興味のある学生が、これからの災害に向けて語り継ぐことの重要性をとても感じました。

私自身も、今回学んだことを活かし、市民のリーダーとしても、立派な消防官としても、しっかりと活躍できる日が来るように、精一杯頑張っていきたいと思います。

最後に、今回全国防災ジュニアリーダー合宿で関わってくださったたくさんの学生の方々や、サポートしてくださった先生方に感謝したいと思います。みんなにまたどこかで会える日が来ることを願っています。３日間本当にありがとうございました。とても楽しかったです。

兵庫県立舞子高等学校（３年）　白壁　敬太

今回の合宿では、命の大切さと守り方、つながりを学ぶことが出来ました。命の大切さと守り方については、佐藤敏郎さんと諏訪先生の講義で教えてもらいました。命とは何か、そして自分だけじゃなく他の人を助けるためにどうするのかを教えてもらいました。自分が自分を守るためにどう対策をするのか、大人の判断が全てあっているとは限らないということ。そんな時は自分が率先して動かないといけないということなど様々なことを学びました。また、僕は夏の淡路合宿にも参加させていただいたのですが、その時に知り合った人がたくさんいて、とても楽しかったです。今回の合宿でも多くの友達ができ、これからも防災について交流をしていきたいです。堀江先生のキャンドル作りでは災害時に役立つ防災グッズを作成しました。初めてのキャンドルを作りはとても簡単にでき、また綺麗に作ることができ楽しかったです。災害発生時には必ず使用したいと思います。

分科会では他の学校の発表を聞きました。他の学校は僕たちがやったことがないことをたくさんしていてとても驚きました。他の学校を参考にして環境防災科も頑張っていってほしいと思いました。

もう、高校生活は終わってしまいますが、今回学んだことは次のステップに進んでも必ず活かしたいと思います。

兵庫県立舞子高等学校（３年）山口　紗耶香

私は、今回の全国防災ジュニアリーダー育成合宿に参加して多くのことを学びました。講義やワークショップを通じて、自身の基礎的な知識やこれからの防災について、他の学校が取り組んでいるボランティアについてなど、様々なことを知ることができ、災害や防災に真剣に向き合う三日間になりました。

特に印象に残ったことはワークショップです。条件を出されて自分たちで素早くグループを作ったり意見を出し合って話し合ったり発表したりなど、積極性が必要とされる活動でした。話したことがない人に自分から声をかけたり人を集めたりすることは簡単なことのように思えてとても難しく、リーダーになるためには率先して行動する力が必要なのだということを学びました。そして、自分がそのようなリーダーになり、多くの人に防災を広めたり、災害時に人を助けたりしたいと強く思いました。

この三日間で、これからも防災に関わっていきたいという気持ちがより一層強くなりました。そして改めて災害の恐ろしさを知りました。過去の災害を風化させないように私たちが未来に語り継ぎ、いつくるかわからない次の災害に備える社会を作っていかなければいけないと思いました。

今回の合宿で講師の方から学んだことを舞子高校の生徒に伝え、他の学校が行っているボランティア活動の良い点を取り入れ、舞子高校のボランティア活動をより良いものにし、防災を広めていきたいと思います。

神戸市立神港橘高等学校（１年）小宮　丈昇

今回の全国防災ジュニアリーダー育成合宿で、災害についての多くの知識を得ることができました。普段は関わりを持つことのない他校の防災に対する取り組みを、数多く知ることができ、自分たちの学校でも参考にしたいようなことも多くありました。今回触れた他校の取り組みは、少しずつ今後の参考にしていきたいと思います。

講義では阪神淡路大震災だけではなく、東日本大震災や熊本地震、国外ではネパール地震と数多くの事例を学ぶことができ、実際に被災した際、どういった点に気を付ければよいか等今後の役に立ちそうなことが多くとても参考になりました。

また、自分が被災した時だけでなく、被災した方に対する接し方についても学びがありました。諏訪清二先生の講義で紹介された「潮の匂いは」という詩では、自分たちが軽い気持ちでかけてしまう言葉の愚かさがわかりました。励ましているつもりでも、言われている本人は「否定された」・「無責任」というような感じ取り方をされるということを学ぶことができ、相手の立場になって考えることの大切さを改めて感じました。

今回の合宿で学んだことを忘れず、日頃から防災に取り組み、備えていきたいです。

神戸市立神港橘高等学校（１年）村本　暉

今回初めて本格的な防災合宿に参加しました。多くの学校と交流をしながら防災についてたくさん議論できました。衝撃が多くて改めて自然災害の準備をしておく必要があると感じました。

特に衝撃を受けたのは佐藤敏郎さんのお話と人と防災未来センターで見たシアターでした。

佐藤さんは東日本大震災でお子さんを亡くされ、辛かった状況を淡々と伝えてくださいました。災害が起こった後に小学生が書いた俳句はどれも心痛むものでした。大人よりも子供の方が明日への希望を持っていました。

シアターは阪神淡路大震災が発生した際の各地の被害の状況でした。鉄道の線路が曲がり、木造建築が多い地区ではすべての家の１階部分が跡形もなく潰れてなくなっていました。上映前は柔らかだった雰囲気が上映後は自然と言葉が出ませんでした。

今回の防災合宿では、他校の生徒さんの地域が抱える問題など様々な話を聞くことができました。また舞子高校はリーダーシップを発揮しとても頼もしく思いました。自分も周りを先導できるような人に成長したいです。

兵庫県立尼崎小田高等学校（２年）青田　愛花

私は合宿を通して得たものが３つあります。まず第一に災害に対してもっと自分自身が関心を持たなければならないということです。いつ起こるかわからない災害に対して今出来ることをやっておかなければ後で後悔してしまう、そして災害をなくすことはできなくても減らすことはできるという事を多くの人に伝えていきたいと強く思いました。第二は他校の仲間の存在の大きさです。ひとつの場所に全国各地からいろんな学校が集まり、防災について語っている自分がいるこの場所がすごく素晴らしい場所なのだと感じました。最後に、災害を知らない世代が知らない世代へ伝えるという事の使命を感じました。災害を学び、後世の知らない世代へ伝えなければなりません。経験した人から学んだこと、ボランティアに行って感じたこと、過去の災害から分かること、後世に伝えることは山ほどあります。

私たちの使命は自分の命は自分で守ること、それと加えて他者に「伝える」という事を忘れてはいけないと学びました。たくさんの人と防災を分かり合いたいと思える合宿でした。

兵庫県立尼崎小田高等学校（２年）藤澤　奏音

合宿での講義では、私が想像していたものを上回る現実がありました。逃げたいのに逃げられない。そのようなお話を聞くだけで、呆然としている私がいました。実際に津波を目の前にした時、実際に１分程度自分の世界が激しく揺らされた時のことを、私は災害について学ぶためのたくさんの活動を通して、しっかり想像していたのでしょうか。甘くない現実がそこにあるのが見えました。初めて心から無力だと感じました。辛い、苦しい、そんな言葉では片付けられないほどの言葉とともに私の無力さは積み重なるばかりでした。

しかし、そんな私にもできることがあることを知りました。「語り継ぐ」ということです。大地震を経験していない私たちの世代が知らなかった世界、もしかしたら知らないふりをしていた世界を、今度は私たちが知らせていく、語り継いでいく世代になれるのだということです。大地震を風化させない。必ず語り継ぎ、そして災害が起こった時、同じ状況に立った時に、思い出して正しく助かる道を選択できる、そんな世代を作っていきたいです。

兵庫県立三木北高等学校（１年）船谷　美月

今回の全国防災ジュニアリーダー育成合宿と一回目に参加した西脇合宿の違いは、全国から中高生が集まったことです。この合宿で私は、兵庫県以外の友達をつくることができました。その中で宮城県から来ていた高校生と友達になりました。彼女は東日本大震災の津波で家が流されてしまいました。私はその話にとてもショックを受けました。テレビでしか見たことのない光景が彼女にとっては現実だったのです。自分の家が津波で流されることなど私には想像もつきませんでした。私の知らない経験をしている人が全国にたくさんいると知りました。

プログラムの中で一番心に残ったのは、最終日に、人と防災未来センターで見た震災当時の映像でした。スクリーンに震災当時の様子が映しだされていて、音や光など、自分がスクリーンの中にいるような気分になりました。震度７の地震に襲われた神戸の街は今では想像がつかないぐらい悲惨なものでした。一瞬のうちにビルや家が倒れ、いたる所で火災が起きていました。中には電車に閉じ込められて、電車ごと落ちていく人もいました。これらの映像や資料を見て、私達の日常は災害と隣り合わせだということを改めて思いました。

今回の合宿で感じたこと、学んだことは私達が語り部となってまだ知らない人たちに語り継がなければならないと強く思いました。

兵庫県立三木北高等学校（１年）水池　雅

私は、淡路島での全国防災ジュニアリーダー育成合宿に参加して、夏の西脇や東北合宿と比べてたくさんのことを知ることができました。特に、宮城県や熊本の被災地の学校の人と話をして、東日本大震災や熊本地震での悲惨な状況や、避難所生活の様子など、初めて知ることがとても多く、参加して本当に良かったと思います。

また、3 日目に行った「人と防災未来センター」で、震災当時の映像や展示されていた多くの遺品を見ました。その時、災害は大切な人や物を奪って行ってしまうことを痛感しました。部屋の中には、それまで何年も動き続けていた大きな時計があり、地震発生時間の午前 5 時 46 分で止まっていました。その時計は、震災で愛する人を失った悲しさが心の傷として今も残っている人たちと同じだと思いました。

「東遊園地」では、亡くなられた方の名前が石碑に刻まれていて、そのあまりの多さに胸が痛みました。大切な人を失わないように、いつ起きるか分からない地震に対して、日頃から対策をしておくことが大切である、ということを改めて自分に言い聞かせました。

今回の合宿に参加して、阪神淡路大震災だけでなく、東日本大震災や熊本地震について学ぶことが出来たので、これからはたくさんの人に学んだことを伝え減災に努めていきます。

兵庫県立家島高等学校（２年）西口　航平

私は７月に行われた全国防災ジュニアリーダー育成合宿に参加し、そのときに防災についてもっと深く、もっとたくさんのことを学びたいと思ったので、今回の合宿にも参加しました。

私の自宅は山や川に比較的近い場所にあります。地震や豪雨などの際に、災害が起こりうる場所です。これまでは、自分の住むところにそんな危険があると考えたことがありませんでした。今回、合宿に参加してさまざまなことを学んだおかげで、災害発生時にどこに逃げたらいいかということをより現実的具体的に考えるようになりました。そして、もし災害が発生したら、防災についてしっかりした知識をもつリーダーとして、家族だけではなく近所に住む人達にも声をかけて、少しでも多くの人を危険から救いたいと思うようになりました。また、私が通う家島高校の友達にも、通学路の周辺にある危険な場所などの情報を伝え、みんなの防災意識を高めていきたいと思うようになりました。

私は防災ジュニアリーダーなので、防災について学んだことを自分の中だけに留めるのではなく、できるだけたくさんの人に伝えたいです。そこからその友人の家族や、そのまた友人へと、命を守るための大切な情報が次から次へ伝わっていき、それぞれの環境に応じた防災の話が深まっていけば良いと思います。

姫路市立飾磨高等学校（２年）後藤　弥愛

今回の全国防災ジュニアリーダー育成合宿は私にとって３回目の参加でした。今まで参加した合宿の中で一番内容が濃く、充実した三日間を過ごすことができました。他校との交流にも力を入れ、とても今後の防災活動の参考になるお話を聞くことができました。

佐藤さんや谷川校長先生、諏訪先生のお話は今まで何度も聞かせて頂いたことがありましたが何度聞いても新たに学べることや、感じられることがたくさんありました。私は、谷川校長先生の講義の中でのジグソー活動で、〈避難所生活中での子供の元気、笑顔から、大人の笑顔が生まれる〉と言う話が出て、そこから災害時の様々な復興が始まるのかなと感じました。また、諏訪先生のお話の中で、〈避難訓練は事務員、用務員の先生方も全員で〉と聞き、飾磨高校に足りていないことであり今後とても必要なことだなと思いました。

アクションプランでは、本校が取り組んできたことが他校の参考になり、これからの活動の自信に繋がりました。

防災ジュニアリーダー合宿に参加する事で、防災に前向きに取り組み、努力する素晴らしい仲間に出会い、自分では思いつかない発見を共有し、たくさんの発見がありました。この合宿で身に着けることのできたリーダー性を生かし、これからの学校生活や防災活動、ボランティア活動などで生かしていきたいです。

また機会があれば参加したいです。

姫路市立飾磨高等学校（1年）梶原　彩加

今回の全国防災ジュニアリーダー育成合宿では、また新しい視点から防災について考えることができた。
舞子高校でのメモリアル行事は、「好きなこと、得意とすることを生かす」という視点で防災について考えることができた。
音楽で防災を広めている人たちの演奏をきいた。一人ひとり得意なことを必ず何かしら持っていると思う。そして自分の経験をすごく生かして大切なことを的確に伝えられていた。それは防災に繋げられることだと思う。
今回何より勉強になったのは全国から中高生が集まったという点である。防災に興味関心がある人、実際に被災された方までたくさんの人や学校と交流を持つことができ、それぞれの学校の取り組みについて語り合った。私の中にはなかった新しい視点を持つ機会になった。今まではニュースや、人づてにしか聞かなかった話を、実際に同年代の人から聞くことができ、より身近に感じることができた。今後の取り組みについて私たちは主に４つのアクションプランを立てた。それを生かし、防災に関心のない人にも、防災について知ってもらいたい。
これから、過去の災害を経験した人は減っていく。だが、語り継いでいかなければ、人は失敗を繰り返してしまうかもしれない。私たちが学んだことを語り継ぐことが大切だと改めて感じた。
防災学習を通じていつも感じるのは命の重さである。悲しみを増やさないために、教訓を語り継ぐために、私ができることを、私なりにしていきたい。

兵庫県立阪神昆陽高等学校（２年）積　萌望

今回も全国防災ジュニアリーダー育成合宿に参加させて頂きました。今回で２回目の参加でしたが、たくさんのことを学ぶことができました。
講義では阪神・淡路大震災を語り継ぐことの大切さを学びました。阪神・淡路大震災は 1995 年 1 月 17 日 5 時 46 分に起きました。その時私は生まれていませんでした。当時のことを知らない私は、地震の怖さがうまく想像できませんでした。
しかし、人と未来防災センターでシアター地震体験をした時、音もリアルで本当に怖かったです。それまで漠然としていた地震の恐ろしさが、より身近に感じられました。
最終日にはメモリアルキャンドルを東遊園地に持って行き、「1・17」の形に配置して黙祷を捧げました。
今回の防災ジュニアリーダー育成合宿は、全国のみんなと交流することができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、防災ジュニアリーダー合宿に行く機会があれば、ぜひ参加したいと思います。

兵庫県立阪神昆陽高等学校（２年）重谷　大輝

今回、全国防災ジュニアリーダー育成合宿に参加させていただきありがとうございました。合宿に参加して思ったことは、「もし地震が起きたら自分は動けるのだろうか」ということです。当時の映像を見ましたが、まるで怪獣が街で暴れ回りめちゃくちゃになった特撮映画を見ている様でした。
しかし、地震は映画でもフィクションでもありません。そんな状況でも 1 人で立ち上がり、人々の心と身体を救える人間になりたいなと思いました。
そのためには充分な知識・精神力・技術を持ち合わせないといけません。地震や災害は忘れた頃にやってきます。しっかり現実を受け止め語り継ぐ事が大切だと教えてもらいました。そうすることで、防災・減災につながるのではないかと思います。
そして、私自身が日々努力をして、防災・減災について、精神力・知力で多くの人に寄り添うことができる、頼れるリーダーになろうと思いました。

兵庫県立西脇北高等学校（１年）堀北　志歩

私は、この合宿に参加するまではリーダーには向いていないと思っていました。なぜなら、消極的なところがあり、今回の合宿で何をすればいいのか分からなかったし、とても不安で乗り越えられるか分かりませんでした。しかし友達に支えられ、協力しながらなんとか乗り越えることができました。その中で、わかったことがあります。誰かについていくばかりだと周りに流されてしまって、考えて行動することができません。どんなときでも自分で判断し、行動できるようにすることで自分自身成長することができ、周りの人を助けることができるのではないかと思いました。
また、この合宿を通して、震災がどれだけ怖くて人の心を痛めるものか、家族や知り合い、友達など自分の大切な人を奪ってしまうものかを改めて理解することができました。そして、その状況の中でリーダーがいかに周りを見て積極的に声をかけ、行動することが大切かを学ぶことができました。
私は、この合宿が自分を見つめ直すきっかけになり、この合宿の中で成長することができ、考え方も変わりました。今後は、震災のことを知らない人が多い中、私たち若い世代が伝えていかなければならないと思います。小中学校や地域に出向いて本校で取り組んでいる語り部活動に参加して、たくさんの人に今回学んだことやボランティア活動で得たことを伝えていきます。

尼崎市立琴ノ浦高等学校（３年）大口　蒼

私は 7 月の淡路合宿にも参加させてもらったので、今回の全国防災ジュニアリーダー育成合宿は 2 回目の参加になりました。合宿では前回とは異なる講義を受けることができたり、「人と防災未来センター」や「東遊園地の震災モニュメント」を見学させてもらったりしました。講師の方々に、震災時の様子を聞くことができたのに加え、被災地の写真を始めとした、多くの資料を見られたことは、大きな震災を経験していない私にはとても貴重な経験で、自分自身の防災に対する意識がより高まりました。また、今回の合宿には、兵庫県内のみならず、県外の学校の生徒も参加していました。初日は、1 人で参加して心細かった私でしたが、2 泊 3 日の勉強会を通して他校の生徒と仲良くなれましたし、自由時間にそれぞれの地域の違いを話し合えたことは、とても有意義な時間でした。今回見学した「人と防災未来センター」は、時間の都合上、じっくり見られなかったところもあったので、時間を見つけて、もう 1 度行きたいと思っています。そして今後も、今まで得た知識や感じたことを、多くの人たちに伝えていくことが私の役目だと思うので、できることからがんばります。

現在私は 3 年生です。高校卒業後は大学へ進学することになりましたが、大学でも今回学んだ経験を最大限活かしていきたいです。

兵庫県立宝塚東高等学校（２年）三村　暉

私は昨年とは違う思いで今回の合宿に参加した。昨年度、防災士の資格を取り、「どうすれば災害による犠牲者をゼロにできるか」を考えるようになった。それを完璧に実現するには、多くの時間を要すると思うが、少しでも進めていければと思っていた。

今回大切だと思ったのは、「次の世代に語り継ぐ」ということだ。佐藤敏郎氏の講演や谷川校長先生の講義で過去の災害の教訓などを語り継ぐとあった。阪神・淡路大震災から 24 年が経ち、「震災を知らない世代が語り継ぐ時代に入った」と言われていた。この震災がどういったもので、どのような被害が出たのかなど、後世に語り継いでいくことを行なわなければならない。ジュニアリーダーもその役割を担っているのではないかと思った。今後、南海トラフ巨大地震や首都直下型地震、超広域大規模災害などが起こると言われている。各地域で防災・減災をしっかりと行っていくことの大切さを改めて感じることが出来た。また、自分たちで作ったアクションプランを学校や地域で実践していき、防災力の向上を目指したい。

今回この合宿で学んだものを生かし、さらに防災というもの深く学んでいき「犠牲者ゼロ」を目指して活動していきたい。

兵庫県立宝塚東高等学校（１年）久保　春香

私は今回、全国防災ジュニアリーダー合宿に参加するのは２回目でした。前回の合宿で防災についてはもちろん、リーダーに必要な積極性が養われたし、交友関係も広がって、また参加したいなと思っていました。始めは知らない人ばかりで不安だったけれど、ＷＳのときは積極的に自分の意見を言ったり、手を挙げて発表することができて、自分でも成長を感じることができました。

講義は、前回と同じ内容も多かったけど、感じることや考えることは前回とも違い、何度聞いても勉強になると思いました。特に宮城県石巻西高校の片岡さんが書いた「潮の匂いは」という詩を聞いたとき、前回は大切な友人を亡くして辛かったんだなという同情する気持ちでしたが、「頑張れという言葉は何よりも重い」というフレーズに、励ましのつもりで言った言葉も時には残酷で、片岡さんはしんどかったんだなと改めて気づきました。

また、講義やＷＳでの移動や、グループ分けの時に舞子高校の生徒が主体となって動いてくれたので助かり、すごいなと思ったので見習いたいです。このジュニアリーダーの仲間たちはお互いを高めることのできる素晴らしい集団だと思います。次もぜひ参加したいです。

姫路市立飾磨東中学校（２年）下口　凜

今回の合宿では、今までよりも、よりリーダーに近づけた自分になりました。

１日目は、舞子高校での「震災メモリアル行事」でのことです。佐藤先生のお話は、これから私達が経験するだろう南海トラフ地震が起きた後の状況と照らし合わせながら聞いていました。先生のお話の中に「あの日を語ることは未来を語ること」とおっしゃっていました。これを聞いたら、最後、私達がその思いのバトンを未来まで繋ぐことが、聞いた人のするべきことだと思いました。

そして、講話が終わると、国立淡路青少年交流の家での２日間の生活が始まりました。たくさんの講義、ワークショップを行いました。その中には、２度目のアクションプランがありました。アクションプランは、自分たちのしなければならないことを紙に書いて発表しますが、それがとても大事な意味をもっていると思っています。実際にやって、みんなの前で宣言することは、これから行動する私達の原動力になると思っています。

そして、３日目はたくさんの施設を見学し、合宿が終わりました。

この３日間、高校生の方々はとても優しく接してくださったり、講義ではたくさんの教訓を学びました。だから、学んだこと、見たこと、経験したことを自分の言葉で伝えていきたいです。

姫路市立飾磨東中学校（２年）髙見　瑠偲那

今回の合宿で１番良かったと思うことは、「色々な人の話を聞くことができた」ということです。普段は絶対に関わることのない、全国の中高生との意見交換は、とても貴重なものでした。

また、多くの講師の方の講義も、心に残るものばかりでした。特に、実際に被災された宮城や熊本の高校生の方のお話で、資料では知ることができないようなものばかりで、強い衝撃を受けました。「あの時もし、こうしていたら死んでいた」という話もあり、背筋がぞっとしました。また、諏訪先生の講義では、「想定を信じるな」「頑張れの意味を考える」など、教訓といえる言葉がたくさん出てきました。その中で私が一番心に残った言葉は、「想定を信じるな」というものです。諏訪先生に限らず、他の講師の方々も同じことをおっしゃっていました。どんな災害でも、これは言えると思います。想定を「信じた人」と「信じなかった人」の差は、まさに“生死の差”だということを学びました。自然災害が想定内で収まるはずがありません。

もし、災害が起きてしまったときは、自分は「信じなかった人」に、そして、私だけではなく、私の周りの人たちも、「信じなかった人」になるように、これからたくさんの人に、この教訓を伝えていかなければいけないと思いました。

姫路市立飾磨東中学校（２年）藤本　真胡

舞子高校で行われた、震災メモリアル行事はとても印象に残っています。中学校では全校生を集めてこのような行事をすることがないので、とても良い経験になりました。音楽を通して防災を学んだり、伝えたりするのは私にとっては新しく、とても興味深かったです。この演奏もあり、私たちのアクションプランでは歌をつくるということになったので、とても印象に残っています。そして、佐藤先生の講義もとても衝撃的でした。時間が経つのがあっという間に感じました。私と同じ中学生が町のためにここまでできるのは本当にすごいと思いました。

そして、諏訪先生の話を聞くのは二回目でしたが、何度聞いても、見ても災害の恐ろしさがよく伝わってきました。二回目の講義だからわかったことや、これから活かしていきたいことがたくさんありました。

１６歳の語り部では、しまうまのトラウマなど多くの著書を教えていただいたので、それらを読んで、知識を深め、災害に備え、防災ジュニアリーダーとして、また１人の中学生として、これから起こるであろう災害と向き合っていきたいです。

兵庫県立西宮今津高等学校（２年）榎本　綾音

去年の夏に行われた防災ジュニアリーダー育成合宿に続き、２回目の参加になりました。私にとってこの合宿は防災への意識をいつも変えられる場所です。私たちの学校は海の近くにありますが、防災について何もしていません。ですからこの合宿で学んだことを持ち帰り必ず実行したいと思います。合宿 1 日目は舞子高校の学校で行われたセミナーに参加させてもらいました。佐藤先生の実体験を聞き、被害にあった生徒さんの俳句がとても印象に残りました。2 日目は諏訪先生の話を聞かせてもらいました。諏訪先生のお話を聞くのは 2 回目ですが何度聞いてもすぐに時間が過ぎてしまいました。この日は他校との交流をすることができました。自分の高校がいかに何もしていないかを思い知らされました。3 日目は「人と防災未来センター」へ行きました。行くのは 2 回目でしたが個人で行くよりこの合宿をしてきたからこそ知る情報は確かに多かったです。その後は追悼式を行いこの合宿は終了しました。この合宿のいいところは先生方からだけではなく同世代の人達からも学ぶことができるということだと思います。今ある当たり前を当たり前に思わず生きていきたいと思いました。主催してくださった関係者の皆さま、このような機会をくださって本当にありがとうございました。

兵庫県立西宮今津高等学校（２年）石野田　悠

私は昨年の 12 月 15 日に岡山県倉敷市真備町へ行き、ボランティアをしてきました。そこでは高架下の瓦礫やゴミなどを撤去し分別する作業を行いました。しかし、時間は短く完璧に終わらせることができなかったこと、また自発的に動けなかったことにとても後悔していました。そこでこの全国防災ジュニアリーダー育成合宿で、防災について詳しく学び、もっと動ける人材になりたいと思い参加しました。合宿ではみんなが自発的にコミュニケーションを取っていて、それに動かされるように私も周りとたくさんコミュニケーションを取ることができました。震災が起こったら周りとのコミュニケーションが必要不可欠です。今回、私は自分の殻を破ることができたと感じました。

また、ワークショップや講義では初めて聞くお話がたくさんあり、実際に体験した方のお話はやはり心に残るものがありました。

私は震災を体験したことがありません。しかし、私は絶対来ると言われている南海トラフ巨大地震に備える為には震災の知識はとても重要なものだと考えています。だから、体験したことがないからわからない、で済ませるのではなく、周りから知識を与えてもらい、それを活用して、備えることが大切だと思います。私はこの３日間、よく考え、学び、話し、自発的に行動でき、とても充実した合宿だった思います。自分たちのアクションプランも、一つでも多く実現することができるように、さらによく考え、学び、話し、自発的に行動していきたいと強く思いました。

# ◆WS⑤アクションプラン発表

多賀城高校

須崎工業高校

大崎高校

石巻西高校

真庭高校

東稜高校

津田中学校

糸魚川白嶺高校

釜石東中学校

第二高校

新庄中学校

菊池農業高校

熊野高校

佐伯鶴城高校

舞子高校

松陽高校

神港橘高校

尼崎小田高校

三木北高校

家島高校

飾磨高校

阪神昆陽高校

西脇北高校

琴ノ浦高校

宝塚東高校

飾磨東中学校

西宮今津高校

三田西陵高校

南あわじ市中学校（三原・広田・南淡）

講評（国立淡路青少年交流の家　大本所長）

# ◆合宿風景

開講式

講義①

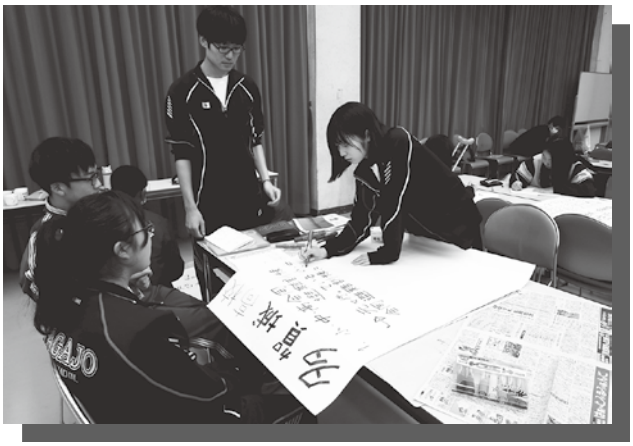
WS①

WS②

WS③

講義②

発表



WS⑤

WS⑤

見学①

見学②

見学②

# 参加者

| 学校名 | 名　前 | 年 |
|---|---|---|
| 多賀城高校 | 宇佐美　直輝 | 2 |
| | 岩佐　唯花 | 1 |
| | 小竹　叶多 | 1 |
| | 箭子　優羽 | 1 |
| 大崎高校 | 池島　由樹 | 1 |
| | 原田　秀馬 | 1 |
| 真庭高校 | 阪本　優希 | 2 |
| | 宮本　妃菜 | 1 |
| 津田中学校 | 滑川　由菜 | 3 |
| | 西　桃那 | 1 |
| 糸魚川白嶺高校 | 猪又　桜 | 2 |
| | 佐藤　瑠香 | 2 |
| 釜石東中学校 | 佐々木　愛佳 | 2 |
| | 佐々木　心響 | 2 |
| 第二高校 | 小山　大貴 | 2 |
| | 坂本　七輝 | 2 |
| 東稜高校 | 平井　真嘉 | 2 |
| | 岡井　瑞希 | 1 |
| 石巻西高校 | 後藤　亜美 | 1 |
| | 佐藤　晴菜 | 1 |
| 新庄中学校 | 谷本　真輝斗 | 2 |
| | 成田　圭吾 | 2 |
| 菊池農業高校 | 宮川　詠梨茄 | 3 |
| | 宮川　莉梨茄 | 3 |

| 学校名 | 名　前 | 年 |
|---|---|---|
| 熊野高校 | 梅野　芽吹 | 2 |
| | 下村　佳歩 | 2 |
| 須崎工業高校 | 梅木　智哉 | 1 |
| | 片岡　隼乙 | 1 |
| 佐伯鶴城高校 | 清家　聖也 | 2 |
| | 福島　大空 | 1 |
| 松陽高校 | 矢沢　莉亜 | 2 |
| | 小川　瑠璃 | 1 |
| 神港橘高校 | 小宮　丈昇 | 1 |
| | 村本　暉 | 1 |
| 尼崎小田高校 | 青田　愛花 | 2 |
| | 藤澤　奏音 | 2 |
| 三木北高校 | 船谷　美月 | 1 |
| | 水池　雅 | 1 |
| 家島高校 | 西口　航平 | 2 |
| 飾磨高校 | 後藤　弥愛 | 2 |
| | 梶原　彩加 | 1 |
| 阪神昆陽高校 | 重谷　大輝 | 2 |
| | 積　萌望 | 2 |
| 西脇北高校 | 堀北　志歩 | 1 |
| 琴ノ浦高校 | 大口　蒼 | 3 |
| 宝塚東高校 | 三村　暉 | 2 |
| | 久保　春香 | 1 |
| 西宮今津高校 | 石野田　悠 | 2 |
| | 榎本　綾音 | 2 |

| 学校名 | 名　前 | 年 |
|---|---|---|
| 三田西陵高校 | 中野　汐音 | 1 |
| 飾磨東中学校 | 下口　凛 | 2 |
| | 髙見　瑠偲那 | 2 |
| | 藤本　真胡 | 2 |
| 三原中学校 | 河田　純花 | 1 |
| | 坂東　佑月 | 1 |
| 広田中学校 | 横山　紗光 | 1 |
| 南淡中学校 | 西村　あかね | 2 |
| | 南　遥菜 | 2 |
| | 安田　愛 | 2 |
| | 椋本　榎音 | 1 |
| 舞子高校 | 大西　崇平 | 3 |
| | 下川　真七佳 | 3 |
| | 白壁　敬太 | 3 |
| | 山口　紗耶香 | 3 |
| | 山村　太一 | 3 |
| | 先間　直樹 | 2 |
| | 冨田　彩翔 | 2 |
| | 藤原　優希 | 2 |
| | 磯野　朋花 | 1 |
| | 戎居　弥友子 | 1 |
| | 藤井　大地 | 1 |

平成３０年度　全国中学生・高校生防災会議
「全国防災ジュニアリーダー育成合宿」記録集

編集　兵庫県立舞子高等学校

発行　国立青少年教育振興機構　教育事業部　事業課
〒１５１－００５２　東京都渋谷区代々木神園町３－１
電話番号　０３－６４０７－７２０１（代表）

平成３１年３月発行

## ～1・17は忘れない　兵庫・東北・熊本から未来へ～

主　催　　独立行政法人国立青少年教育振興機構
　　国立淡路青少年交流の家
　　兵庫県立舞子高等学校
特別協力　公益財団法人上廣倫理財団